

3/9  
290



始



319-390

兵學研究會記事合本



戰史  
ノ  
研究

第壹

輯

6. 11. 16

內交

東京 干城堂發行

## 序

本書ハ大正四年五月ヨリ同六年九月ニ至ルマテ兵學研究會記事ニ連載セラレタルモノニシテ、學識豐富ナル著者ガ東西古今ノ戰史研究ノ餘瀝ヲ以テ吾ガ兵學界ヲ潤ホサレタルニ過キサルカ如キモノナリト雖モ、其ノ材料ノ精確、叙事ノ剴切、評論ノ卓越ナル點ニ於テ上下各級ノ讀者ハ從來多大ノ利益ヲ得ラレタルコトヲ確信ス、特ニ戰略上ノ着眼適切ニシテ又青年將校ノ爲メニ小部隊ノ戰術的運用上ニ利ヲ齎サムト努力セラレタル點並ニ國軍將來ノ作戰ヲ顧慮シテ戰史上ニ的確ナル教訓ト資料トヲ求メ以テ實際運用上ノ利益ヲ圖ラレタル點トハ最モ注目ノ價值アリ、換言スレハ本書ハ高級將校ノ爲メ極メテ有益ノ戰

史講述書タルト同時ニ青年將校ノ爲メニ特ニ戰術研鑽上最モ  
依據確實ナル根本的戰術教科書ト謂ヒ得ヘシ、乃チ逐號ノ記事  
今ヤ七年戰史ト奈翁戰史ノ一半トヲ以テ一段落ヲ告クルヲ機  
トシ之ヲ合本トナシ以テ好學ノ士ニ頒タムトス、  
夫レ戰史ノ研究タル史實ヲ正確ニ闡明詳悉スルヲ以テ能事終  
レリトセズ、古來幾多ノ諸將ガ戰場ニ馳驅シテ實地ニ體得シタ  
ル經驗ヲ資料トスルノ外特ニ汪洋トシテ其ノ裏面ニ流ルル史  
的潮流ヲ捕捉シ、歴史ノ週期的循環ノ妙諦ヲ知り且ツ史的進化  
ノ過程ヲ察シ之ヲ大ニシテハ政治外交並ニ戰略ニ、又之ヲ小ニ  
シテハ戰術的諸要素ニ關シテ幾多ノ樞機ト機微トヲ洞察シ之  
カ基礎上ニ國家百年ノ大計ヲ樹立スルニ在リ、是レ蓋シ戰史研  
究ノ主眼點ト謂ツヘキ乎、惟フニ吾カ研究會ハ此ノ著者ヲ得テ

二

學界ニ裨補貢獻スル所ノ多大ナリシヲ感謝セズムバアルヘカ  
ラズ讀者幸ニ本研究會記事ノ號ヲ逐ヒ或ハ此ノ合本ニ依リテ  
眞摯ナル研究ヲ進メラレ史的潮流ヲ求メツツ史眼ヲ養ヒ之ヲ  
實地ニ活用スルニ努メラレムカ庶幾クハ國軍ヲ益スルコト測  
リ知ルヘカラサルモノアラム、豈ニ著者ニ對シテ最モ忠實ナル  
讀者タルノミナラムヤ、

大正六年十月

兵學研究會幹事誌

# 戦史ノ研究第一輯

## 目次

七年戦史	一頁
緒言	一
一、七年戦ニ至ル迄ノ普國ノ大勢	四
二、大王時代ニ於ケル軍制、戦法ノ概要	七
三、ロースバッハ (Rossbach) ノ戦闘	九
戦闘前ニ於ケル概況	九
戦闘直前ノ概況	一九
戦闘ノ概況	二三
四、ロイテン (Leuthen) 附近ノ戦闘	二八

戦闘直前ノ情況	三五
戦闘ノ情況	四二
五、ツェルンドルフ(Zorn Dorf)附近ノ戦闘	四九
戦闘前ノ概況	四九
戦闘直前ノ情況	五九
戦闘ノ情況	六二
本戦役ニ於ケル一二ノ所見	七三
ロースバッハ(Rosbach)附近ノ戦闘及ヒロイテン(Lie- nthen)附近ノ戦闘ニ依リテ得タル教訓	七七
奈翁戦史	八七
緒言	八七
一、千七百九十六年伊太利戦役	九〇
戦役前ノ概況	九〇

北部伊太利地勢ノ概説	九四
戦闘直前ノ情況	九六
モンテノット(Montenotte)附近ノ戦闘	一〇五
コルリ(Colli)軍ノ敗戦サルディニア(Sardinia)軍トノ休戦及ヒ 媾和	一一七
佛軍ノ追撃、埃軍ノ退却	一二二
ロヂ(Lodi)ノ戦闘	一二九
奈翁ノマイランド(Mailand)進入及駐留	一三四
佛軍ノミンチオ(Mincio)河畔ヘノ進撃	一三八
マンツァ(Mantua)要塞ノ攻圍	一四三
第二回ガルダ(Garda)湖附近ノ諸戦闘	一六八
第三回ガルダ(Garda)湖附近ノ諸戦闘(特ニArcole附近ノ戦闘)	一七五
第三回ガルダ(Garda)湖附近ノ諸戦闘ニ依リテ得タル教訓	一九七
二、自一七九七年至一七九九年概況	二〇三

三、一八〇〇年伊太利戰役(アルプス踰越、マレンゴ會戰)……………二一七

マレンゴ(Marengo)會戰ノ所見……………二七三

# 戰史ノ研究 第一輯 目次 終

## 戰史ノ研究

### 緒言

戰史研究ノ必要ニ就テハ今更ラ改メテ喋々スルノ要ハナイト思フカ然シ、丁度此ノ頃相當ニ兵學ノ智識ヲ有ツテ居ル或ル人カラ次ノ様ナ議論ヲ耳ニシタ、

一 吾人ハ未タ戰史ノ趣味ヲ解スルヲ得ス、一體何ノ必要カアルカヲ疑フ、

二 將來ノ戰爭ハ日露戰爭ノ時ノ様ナ真似ヲシテ居ツテハ到底勝利ハ覺東

三 ナイ、飛行機モ出來タ無線電信モ發達シタ、殊ニ火器ノ效力ハ驚ク可キ進歩

四 ヲ爲シツツアル、從テ過去ノ戰役ハ既ニ陳腐ニ屬スル、

五 奈翁ヲ兵事ノ神様ト崇拜シテ居ル人カ多イカ、彼ノ如ク變幻出沒、恰モ小

六 兒ノ遊戯ノ如キ藝當ハ現時ニ於テハ適用シナイ、從テ研究ノ價値ナシテア

七 ル目下ノ歐洲大戰ニ鑑ミテモ分ル、

八 故ニ戰史研究ノ如キハ單ニ沿革テモ調ヘル如キ所謂學者ヲ製造スルノ

九 役ニ立ツニ過キナイ、

予ハ此ノ暴論ヲ聞イテ呆然タラサルヲ得ナカツタ、或ハ其ノ真意ヲ以テ言フタノ  
テナカロウト思フ、ガ、聞キ捨テニスルノモ不愉快タ、一體戰史研究ノ趣味ヲ生セス  
ト言フノハ、戰史ノ罪テナイ、熱心ノ足ラサルト、研究ノ方法カ肯綮ニ中ラサルカ故  
テアル、又タ戰術ハ物質的發達ニ伴ヒテ是ニ適應スル如ク其手段ヲ改ムルヲ要ス  
ルハ當然ノ事テアル、之ヲ改メル爲メニハ何カ基礎トナルカ、即チ古來ノ戰史ヲ吟  
味研究シテ其變遷ヲ察シ、以テ將來ノ判決ヲ下サナケレハナラヌ、又タ奈翁ノ神出  
鬼没ノ表面的動作ノミヲ捕ヘ來リテ研究ノ價值ナシト言フモ成ル程、現時ノ大軍  
ヲ運用スルニ當リ、無暗ニ跳ヒ廻ハルコトハ許スマイカ、彼ノ戰法ノ精神ニ於テ尙  
ホ無盡ノ教訓アルヲ知ラナケレハナラヌ、凡ソ戰史ヨリ受クル教訓ハ恰モ鑽石ノ  
山中ニヒソメルカ如クテ、表面ニ轉カツテハ居ナイ故ニ吟味研究其ノ宜シキヲ得  
サレハ、良キ鑽石ヲ探リ當テルコトカ出來ナイノテアル、  
吾人ノ經典タル典令範ハ何ヲ基礎トシテ編纂セラレタルカ論者ノ所謂過去ノ役  
ニ立タサル戰史ヲ基礎トセルカ故ニ、役ニ立タサルモノト言ヒ得ルカ、  
要スルニ基礎ヲ戰史ニ探リ發達シツツアル物質上ノ性能、社會ノ風潮、國民性ノ變

遷等ヲ斟酌シテ將來ノ爲メ最良ノ方法手段ヲ講スルニアラスンハ所謂根據ナキ  
自己流ノ危險極マル思想ニ陥ルノ虞カアル、賢明ナル讀者諸君ハ斯ノ如キ妄想ニ  
流ルルコトナキヲ信スルモ爲念茲ニ一言ヲ述ヘ置ク次第テアル、讀者之ヲ諒セラ  
レンコトヲ請フ、

却說予ノ是ヨリ研究ヲ開始セントスル目的ハ主トシテ青年將校諸君ノ爲メ、戰術  
上ニ於ケル原則ノ理會ニ資シ、有形無形上ノ要素カ如何ニ勝敗ノ數ヲ左右スルカ  
ノ關係ニ重キヲ置キ兼ネテ戰爭、戰鬪ニ關スル一般ノ概念ヲ知ラシメントスルニ  
在ル、而シテ吾人ノ將來ヲ考フルニ常ニ員數上、劣勢ヲ以テ遙カニ優勢ナル敵軍ニ  
對シ而カモ必勝ヲ期スルノ覺悟ヲ要スルコト到底日露戰爭當時ノ比テハアルマ  
イト思ハレル、從テ茲ニハ力メテ劣勢ヲ以テ優勢軍ニ對スル戰法ノ研究ニ資スル  
爲メ、成ル可ク之ニ適應スル戰例ヲ集メ、彼此相照シテ、其勝敗ノ由テ來ル所ヲ探究  
シタイト思フ、ソコテ先ツ年代ヲ追フテフリードリヒ (Friedrich) 大王ノ七年戰中ヨ  
リ研究材料ヲ求ムルコトトシタ、而シテ時々研究問題ヲ掲ケル積リテアルカラ諸  
君ハ公務ノ餘暇ヲ利用シ、名論卓說ヲ、ドシドシ寄セラレ以テ此ノ戰史欄ヲシテ大



ニ光彩ヲ添ヘシメラレンコトヲ豫メ御願シテ置ク次第テアル、

### 一 七年戰ニ至ル迄ノ普國ノ大勢

フリードリヒ大王ノ偉蹟ニ就テハ、中等教育ヲ受ケタモノハ、必ス一度ハ教授ヲ受ケタニ相違ナイ、ガ茲ニ順序トシテ一寸極メテ概略ヲ述ヘヨウ、  
大王ハ西曆一七一二年ニ生レ父王フリードリヒ、ウイヘルムノ嚴格ナル教育訓陶ヲ受ケタル結果、元來ノ文弱的性格ヲ一變シテ不屈不撓ノ性質ト爲リ、全然尙武的性格ヲ表ハスニ至ツタ、大王ノ能ク曠古ノ大業ヲ成シタノハ、一ニ父王ノ嚴育之ヲ然ラシメタト謂フヘシテアル、

大王ハ一七四〇年、齡二十七ニシテ王位ニ即イタ、時恰モ埃國ニ於ケル王位繼承問題ノ爲メ歐洲ノ全土ハ、爲メニ、低氣壓ニ襲ハレ、遂ニ暴風雨ノ侵ス所トナツタ、大王ハ此機乘スヘシト爲シ、兵ヲ擧ケテシレジア州ニ侵入シ一七四五年ニ至ル迄前後二回ノシレジア戰役ニ於テ、多クノ戰鬪ニ勝利ヲ得、其結果、埃國ヲシテシレジアヲ普國ノ領有タラシムルコトヲ承認セシメタ、ノミナラス、是ヨリ大王ノ威名ハ歐洲

列國ノ間ニ驚異ヲ以テ認メラルルニ至ツタ、是レ即チ世ニ第一、第二シレジア戰爭ト云フテオルノテアル、

大王ハ單ニ武辨世事ニ暗キモノテハナイ、彼ハ第二シレジア戰爭ノ光輝アル勝利ヲ以テ終局スルヤ、徒ラニ慢心スルコトナク、爾後ニ於ケル平和ノ期間ヲ利用シ専ラカヲ内政ノ振興ニ注キ武勳ニ讓ラサル治蹟ヲ擧ケタコトハ既ニ能ク人ノ知ル所テアル、

埃國ハシレジアノ地カ正當ノ理由ナクシテ大王ヨリ橫奪セラレタモノトナシテ、大ニ憤リ、報復ノ念ハ一日トシテ忘レラレナカツタ、偶、露國、サクセン國等カ普國ノ隆盛ヲ嫉ミツツアルヲ幸ヒ、埃國ハ是等ヲ説キテ味方ニ引キ入レ、又タ英國ト隙ヲ生セル佛國ヤ、瑞典迄モ誘ヒテ對普大同盟ヲ結ビ、ソシテ相共ニ呼應シテ、露國ハ東方ヨリ、佛國ハ西方ヨリ、埃國ハ南ヨリ、瑞典ハ北ヨリ各々普國ニ向ヒテ包圍的ニ攻メ掛リ、一舉ニ握リ潰サント約束ヲ定メタ、

普國ハ英國ノ援助ヲ受クルノ約ハアツタカ、英國ハ現今ト同様ニ陸軍トシテノ力ハ微弱テアル故ニ兵力上ノ有力ナル援助ハ到底期待スルコトハ出來ナイ、ツマリ

殆ント孤立シテ大敵ニ當ラナケレハナラス、恰モ大鷲ノ前ニ於ケル燕雀ノ運命ノ如ク、又タ風前ノ燈火ニ似タリトモ謂フヘキカ、誠ニ國家ノ大事、危急存亡ノ岐ルル秋テアル、普國上下ノ心事同情ニ價スルテハナイカ、然ルニ大王ハ此悲觀的情況ノ内ニ在リテ何等悲觀シナイ、英傑ノ胸中、別ニ成算アリ、曰ク、此ノ優勢ナル敵軍ニ對シ勝利ヲ獲得スルノ要訣ハ、機先ヲ制シ、各個ニ之ヲ擊破スルニ在リ、時ハ即チ金ナリト、斷乎トシテ先ツ兵ヲ擧グルニ決シタ、誠ニ痛快ノ至リト謂フヘシテアル、

大王ハ即チ一七五六年先ツ自カラ軍ヲ率ヒテ短兵急ニザクセンニ進入シタ、凡人ノ眼ヨリ之ヲ觀レハ殆ント本氣ノ沙汰テナイ、無謀ノ狂者ト見做スモ別ニ無理カラヌコトテアル、當時歐洲一般ニ大王ノ擧兵ヲ聞キテ大ニ驚愕シタ、ガ、衆ヲ頼メル列強ハ固ヨリ默スル所テナイ、彼ヲ人類一般ノ敵ト認メ、彼ヲ寸斷シ、其肉ヲ喰フヘシト痛罵シ、其領土ヲ分割シ所領ヲ縮小スヘシト絶叫シタ、斯ノ如クシテ大戦争ハ開始セラレ一七五六年ヨリ一七六三年迄繼續セラレタ所謂七年戰、一名第三シレジア戰爭即チ是テアル、

大王ハ孤軍能ク長期ノ戦争ニ堪エ、各地ニ勇戰奮闘シテ大小幾十戰ヲ算スルヲ得

ヘク、研究ニ價スルモノ亦タ頗ル多イカ、茲ニハ特ニ寡弱軍ヲ以テ優勢軍ヲ破リタル顯著ナル二、三ノ戰闘ヲ紹介シヨウト思フ、

## 二 大王時代ニ於ケル軍制、戰法ノ概要

編制 歩兵ハ六中隊ヲ以テ大隊ヲ、二大隊ヲ以テ聯隊ヲ編成ス、聯隊ハ人員千七、八

百ヲ算ス、

戰時ニハ聯隊ヲ合シテ旅團ヲ編成スルヲ通常トス、

携帶武器ハ所謂燧石銃テアツテ效力ハ現今ノモノニ比シテ大ナル差カアル、群兵ニ對シテモ其效力界ハ二百米ヲ越エナイ、三百米ヲ越ユルト家屋ニモ命中シ難イト云フ程度テアル、

騎兵ハ五乃至十中隊ヲ以テ聯隊ヲ編成ス、中隊ハ概ネ百二、三十騎ヲ算ス、

携帶武器ハ刀、拳銃、騎銃テアル、

砲兵ハ歩兵ノ各旅團ニ配屬セラレ、或ハ合シテ別ニ砲隊ヲ編成ス、又タ大王ハ歩兵ノ各大隊ニ二門ノ輕砲ヲ附シタ、

砲ノ效力界ハ短少テアツテ、短キハ六、七百米ヨリ最長ト雖千數百米ニ過キナイ、

八

### 戰鬪法

歩兵ハ四列若クハ三列ヨリ成ル横隊ヲ、二戰列ニ排列ス、而シテ各戰列間ニハ二百乃至二百五十歩ノ距離ヲ間スルヲ通常トス、所謂横隊戰術ニシテ、密集横隊ヲ以テ近距離火戰ニ依リテ突撃ヲ準備シ砲火ノ援助ノ下ニ歩騎兵共ニ突撃ヲ以テ勝敗ヲ決スルノテアル、

騎兵ハ同シク三列ニ編成シ、大部ハ軍ノ兩翼ニ配置シ主トシテ戰鬪ニノミ之ヲ使用シタ、

砲兵ハ各隊ノ中間ニ分置スルカ若クハ一ノ集團ト爲リ、正面ニ放列ヲ布置シテ近距離攻撃ヲ準備ス、又タ輕砲ハ歩兵ノ各大隊間ニ配置セラレ三百歩以内ノ距離ヨリ霰彈射撃ヲ開始ス、而シテ砲兵ト歩兵トノ比例ノ如キモ現今ニ比シ遙ニ砲數ハ少ナカツタノテアル、

要スルニ純然タル正面攻撃ヲ主トスルモノニシテ各戰列ノ運動ハ甚タ困難、而カモ單ニ眞直ニ前進シ、或ハ眞直ニ後退スルヲ得ルノミ、此不便ナル戰鬪法ハ後年奈

翁ニ依リテ改メラレ、所謂縱隊戰術、散兵戰術ニ依リテ横隊戰術ヲ壓倒スルニ至ツタノテアル、

### III ロースバッハ (Rossbach) ノ戰鬪 (一七五七年十一月五日)

#### 戰鬪前ニ於ケル概況

大王ハ四境ニ敵襲ヲ受クルニ先チ、斷乎トシテ兵ヲ擧ケ各個ニ擊破スルノ方針ヲ以テ直ニザクセン國ニ進入シタコトハ前已ニ述ヘタ所テアル、而シテ同年十月ニ入リテ更ニベールメン州ニ轉進シロボジツ (Lobositz) (ユレスデン (Dresden) 東南六十吉米)ニ埃軍ト戰ヒテ大ニ之ヲ破リ、茲ニ第一回ノ戰鬪ニ赫々タル勝利ヲ獲得シタ、次テ翌一七五七年五月再ヒ埃軍ヲブラーグ (Prag) (ロボジツ東南五十吉米)ニ破リ同要塞ヲ孤立セシメタ、然ルニ同年六月コリン (Kolin) プラーグ東方五十吉米ニ埃軍ヲ攻撃シテ失敗シタル結果、一時行動ニ頓挫ヲ來タシタ、是ノ時、對普同盟ノ諸軍ハ漸次四隣ニ逼迫シテ來タ、運命ハ日、一日ト縮マリツツアル思ヒカスル實ニ危キコト累卵モ管ナラサル苦境テハナイカ、

當時歐洲一般ニ思ヘラク、大王如何ニ智謀ニ富ムト雖、今ヤ囊中ノ鼠、如何ントモスル能ハサルヘシト、蓋シ凡人トシテハ無理ナラサル觀察テアル、往年日露ノ國交斷絶シテ砲火相見ユルニ當リ、世界ノ大部カ、日本ノ小國ヲ以テシテハ如何ニ其兵ノ勇敢ナルニセヨ、到底大國タル露ノ敵ニアラサルヘシト觀察シタカ、先ツ之ト同様テアル、然シ大王トシテハ隨分難關ニハ相違ナイ、彼ハ此ノ千載ノ危機ニ際シテモ自若トシテ屈スル色ナク、尙ホ堅ク信スル所カアル、曰ク目下ハ勿論困難ノ時期タルハ明カテアル、然シ此間ニ處シテ豈ニ途ナカラシヤ、須ラク敵ノ間隙ニ乗シテ此ノ難關ヲ切り抜ケナケレハナラヌト、蓋シ大王ハ敵如何ニ衆多ナルモ、皆ナ利害ノ異ナル列國ノ寄り集マリニテ其結合カノ固カラサルト、協同動作ニ缺クル所アルヘキヲ看破シタルニ因ルナラン、

大王ハ、將ニ大ニ雄飛セントシテ一時其羽翼ヲ收メタ、即チ今迄テ一隊ヲシテブラーグ要塞ヲ攻圍セシメテ居タカ、思ヒ切ツテ其ノ圍ヲ中止シ、一時ライトメリツ(Leitmeritz)ブラーグ北方約五十吉米附近ニ引キ揚ケ、注意シテ各方面ノ間隙ヲ窺ヒツツアツタ、其ノ後、各地ニ活動シテ見タカ、適當ナ相手カナイ、敵モサルモノ、大王

ノ向フ所ハ巧ミニ之ヲ避ケテ、其部將ノ率ユル弱小ナル部分ヲ苦シムルノ策ニ出テタ、爲メニ大王ノ一部隊ハ時々優勢ナル埃軍ニ破ラレ或ハ時々其小要塞ヲ攻略セラルル等不利ナル情報ハ頻リニ大王ノ耳ニ達シタ、普軍ノ情況日一日ト悲觀的テアツテ轉タ秋風落日ノ感ニ堪エナイ、知ラス大王ノ胸中果シテ如何、尙ホ能ク成算ヲ確信セルヤ否ヤ、

此時ニ當リ佛將スービーズ(Goubise)ノ率ユル約三萬ノ軍ハ三千ノ埃軍ト合シ、ディユセルドルフ(Dusseldorf)一般圖ノ西端ニ於テライン(Rhein)河ヲ渡リザクセン國方面ニ前進中テ、又タ佛將デストレーノ率ユル歩兵百十二大隊騎兵百十九中隊砲三百門ノ一軍ハ尙ホ北方地域ヲ經テ英ノ領土タルハンノーバー(Hannover)ニ向ヒツツアル、

ハンノーバー方面ニハ普王ニ同盟セル四萬八千ノ軍カアツ、佛ノテストレー軍ニ對スル爲メ、此年四月下旬ビールフェルト(Bielfeld)ニ於テ備ヲ固メテ待ツテ居ツタカ、敵ノ迂回ニ依リテ六月更ニ退イテウエーゼル河ヲ渡リハスタンベック(Hastenbeck)(ハンノーバー西南四十吉米)附近ニ陣地ヲ占領シタ、然ルニ六月二十五日ヨリ佛ノ

デストレー軍ヨリ攻撃ヲ受ケ翌二十六日ニハ終ニ擊破セラレタ、ハーメルン(Hammeln)城モ後チ二日ニシテ佛軍ノ手ニ歸シタ、敗退シタル普王ノ同盟軍ハ北方海岸ニ在ルハムブルグ(Hamburg)方向ニ退却シテ英ノ援軍ト合セントシタカ、勝ニ乘シテ逼迫シ來レル佛軍ハ此兩者ノ交通ヲ絶チテ殲滅セシメントスル、勢甚タ旺盛テアル、然ルニ時恰モ佛國內ノ政變ニ依リテ佛軍司令官ノ更迭ト爲リタル故、茲ニ佛軍ト條約ヲ結ヒ、普王ノ同盟軍ハ局外中立トナリ、抵抗ヲ中止シタ、同盟軍ノ頼ミ難キハ、茲ニモ亦タ證明セラレタ、

此ノ如クハンノーバーニ於ケル作戰ハ誠ニ易々ト普王側ノ滅亡ヲ以テ終局シタ即チ唯一ノ普王同盟軍モ忽焉トシテ消失シ斯クテ大王ハ愈、以テ孤立ノ姿ト爲リ、サナキタニ悲觀的ナル状態ヲ層一層危険極マル深淵ニ沈マシメタ、天ハ何處迄大王ヲ弄セントスルカ、然ルニ大王ハ未タ屈シナイ、其ノ偉大ナル爲メカ、狂氣ノ沙汰カカ疑ハレル位イテアル、

佛將スービーズノ軍ハザクセンニ向ヒテ進軍中、八月二十一日エルフルト(Erfurt)ハンノーバー東南百八十吉米ニ到着シテヒルドブルグハウゼン(Hildburghausen)ノ

率ユル埃軍ト合シタ、此連合軍ハザクセン國ヨリ普軍ヲ掃蕩セントスルノ目的ヲ以テ、當時大王ノベーメン州内ニ止マリアリテ其方面ノ埃軍ニ對シアルヲ率ヒ、其ノ隙ニ乘シテ先ツザール河(エルフルト東北百吉米ニ在ルLeipzig)附近ヲ流ルル河ニ向ヒテ軍ヲ進メライブチ、ヒ(Leipzig)要塞ヲ攻略シテ茲ニ冬營ヲ爲シ、明春ヲ待チテザクセン、マグデブルグ、ブランデンブルグヲ侵サントスルニ一決シタ、

又タハンノーバー方面ニテ普王ノ同盟軍ヲ一掃シタ佛軍ハリセリユー(Richelieu)將軍カ新司令官トシテハルベルスタット(Halberstadt)ハンノーバー東南百吉米方面ニ向テ南下中テアル、

大王ハ現下ノ情勢ヲ觀察シテ以思ラクリセリユー、スービーズノ二軍ハ日ナラスシテ大舉エルベ(Elbe)ザール河ニ略ホ平行シテ其ノ東方ヲ流ルル河(河上ニ進出シ來ルナラン、須ラク一刻ヲ争フテ是ヲ其合一スル前ニ擊破セサルヘカラス、然ラサレハ背後ノ危険圖ルヘカラスト爲シタ、ソコテ其ノ部將ベウールン(Bevern)ニ歩兵五十四大隊騎兵一百中隊ヲ附シテシレジアノ防備ニ任セシメ自カラ歩兵十六大隊騎兵二十三中隊ヲ率ヒ八月十五日ベルンスタット(Bernstadt)ライプチヒ東南百七

十吉米ヲ發シテ西進ヲ開始シタ、ソシテ途中ザクセン防備ニ任シアリシ一團ヲ合ハセ、内二箇聯隊丈ケツドレスデン(Dresden)ライプツヒ東南百吉米ニ留メ、殘餘ノ歩兵二十八大隊、騎兵四十三中隊ヲ自カラ率ヒテ甚シク優勢ナル佛軍ニ向ヒテ前進シ九月十二日佛將スービーズノ軍ノ駐留セルエルフルトニ達シタ、佛軍ハ數倍ノ優勢ヲ持チナカラ何等ノ抵抗モナク西方アイゼナッハ(Eisenach)ニ退イタ、孫子ハ斯ク言フタ「知彼知己百戰必勝」ト佛軍ハ自己ノ弱行爲スナキヲ知リテ大衆ヲ擁シナカラ引キサカツタ、一面ニ於テ能ク己ヲ知ツテオルモノト謂フヘキカ、誠ニ頼ミ難キ憐レムヘキ軍テハナイカ、

大王カ附近ヲ通過シテエルフルトニ至ル間、到ル處ニテ民衆ヨリ狂喜的熱誠ナル歡迎ヲ受ケタ、殊ニエルフルト市内ニ於テハ殆ント凱旋式テアルカノ如クニ、騷キタテ、群衆ハ大王ノ周圍ニ雜沓シテ大王ノ手、上衣、乘馬等手當リ次第ニ尊敬親愛ノ接吻ヲ爲スヘク競フタ、

佛軍ノ抵抗ナク退却スルノヲ見テハ誰シモ、之ヲ急追シテ擊滅セントスルノ意思ヲ起スハ當然テ又タ一般ノ原則テアル、然シ攻勢前進ニハ或ル定限カアル、彼我ノ

兵力、力量ヲ比較シテ自己ノ側ニ勝利ノ「バランス」カ傾ク間ハドシ、ドシ前進セネハナラス、ガ然シ、前進スルニ從ヒテ自分ノ兵ハ減スル、敵ハ漸次ニ増加スル、テアルカラ、即チ攻勢ノ終末點ト云フモノカナクテハナラス、奈翁ハ一八〇五年アウステルリッヅ攻勢終末點ト爲シテ巧ミニ敵ヲ誘出シ、露、奧連合軍ヲ全然擊破シテ攻勢防禦ノ模範ヲ示シタ、大王モ膽大ナルノ裡ニ細心ノ注意ヲ怠ラナイ、敵如何ニ弱シト雖優勢テアル而カモ三倍モ四倍モ優勢テアル、地形ハ西ニ進ムニ從ヒテ廣濶トナリ、劣勢ヲ以テスルニハ甚タ不便テアル、故ニ是ヨリ孤立深入ハ甚タ危険テアルト判決シタ、ソコテ不本意ナカラ前進ヲ中止シタ、ガ、背後ハ又タ一日ト危険ハ加ハル、大王ノ心情察スルニ餘リアリテアル、彼ハ寡少ナル其軍ヨリ二個ノ支隊ヲ後方ニ分遣スヘク餘儀ナクサレタ、一ハ歩兵三大隊、騎兵十中隊ヨリ成ル一部隊テ、之ヲマグデブルグ地方ニ派遣シ他ハ歩兵十一大隊ヲ基幹トスル一團テ、之ヲエルベ河及ヒ其西方ナルムルダ(Mulda)河ノ中間地域ニ派遣シ以テ其倉庫及ヒ背後ノ安全ヲ圖ツタ、爲メニ、殘餘ハ歩兵僅カニ十三大隊、騎兵二十三中隊ヲ餘スノミ、大王ハ其主力ヲ以テ尙ホエルフルト附近ニ駐留シ、サイドリッヅ將軍ノ騎兵若干中隊ハ其西

方ゴータ(Gotha)ニ在ラシメ敵ト觸接ヲ保タシメタ、

アイゼナッハニ於ケル佛軍ハ大王カニ支隊ヲ派遣セルノ報ニ接スルヤ茲ニ小ナル勇氣ヲ生シ、此機ニ乗シゴータノ普騎兵ヲ捕獲スルニ若カスト決議シタ、此ノ場合ゴータノ如キ局部ニ目ヲツケルトキテナイ、須ラク大王ノ弱點ニ乗シ大舉シテ急襲スヘキテアル、佛軍ハ撰拔セル一部隊ヲ放チテゴータヲ急襲スヘク命令シタ、然シ勇敢ニシテ且ツ思慮深キサイドリツハ適時ニ佛軍ノ來襲ヲ偵知シ、再舉ヲ圖ルヘク、一時同市ヲ撤退シタ、佛軍ハ得意ニナツテ進入シタ、後刻サイドリツハ増援兵ヲ得タカラ、再ヒゴータヲ恢復スヘク急ニ迫ツタ、軍司令官スービーズハ將ニ食卓ニ就カントスル際此ノ急報ニ接シ、以思ラク、敵兵僅少ノ部隊ヲ以テ斯ク勇敢ナル進撃ヲ敢行スルハ解シ難シ、恐ラク普ノ全軍カ來攻スルナラン、ト手廻シヨクモ、直ニ退却ノ令ヲ傳フルヤ、弱將ノ下勇卒ナシ皆ナ狼狽ノ態ヲ以テ倉皇アイゼナッハニ逃走シタ、死セル孔明、生ケル仲達ヲ走ラス、ト迄ハ行カナイカ、サイドリツハ僅カニ一千五百ノ騎兵ヲ以テ八千ノ大衆ヲ走ラシタノミナラス、多數ノ獲物、殊ニ、戰場テハ珍ラシキ料理人、俳優、理髮師、玩具商人等ノ多數ヲ捕ヘ、且ツ其ノ獲タル行李中ニ

ハ頭髮化粧水、香水、婦人傘、猿、鸚鵡等ヲ澤山ニ見出シタト云フ、以テ其ノ退走ノ理由カ立派ニ證明セラレルテアロウ、

大王ハ強敵ニハ畏レマイカ弱キニ過クル敵ニ對シテハ閉口シタロウ、焦心シテ敵ノ來攻ヲ待ツコト旬日ニ垂ントスルニ、未タ活動ノ模様カナイ、依テ九月二十二日同地ヲ去リテ東方ブットステット(Buttstedt)ニ移リ、滯留二旬十月十日ニ至ルモ尙ホ敵軍進攻ノ見込カナイ、於是、敵ハ全ク前進ノ意ナキヲ察シ、軍ヲ更ニ東方エルベノ河畔ニ移シ以テシレシアニ於ケル友軍ト緩急相應スルノ策ヲ取ルニ決シタ、然ルニ是時更ニ不幸ナル出來事カアツタ、シレシア軍タルベウエルンノ率ユル兵團ハ優勢ナル埃軍ノ壓迫ヲ受ケテブレ斯拉ウ(Breslau)ドレスデン東方二百三十吉米(要塞内ニ退縮シタ事テアル、尙ホ他ニモ悲觀ヲ加フヘキ事件カアツタ、埃將ハディック(Hedick)ノ指揮スル三千五百ノ別働隊ハエルステルウエルタ(Elsferwerda)ドレスデン西北五十吉米附近ヲ發シ、伯林方面ニ向ヒ、十月十六日午前、突然伯林ヲ襲ヒ同市ノ一部隊ヲ驅逐シテ莫大ナル課稅ヲ徵シ、忽チニシテ復タ同市ヲ撤退シタコトテアル、

大王ハ先是ハディックカ伯林方面ニ向ツタコトヲ聞クヤ直ニモリツツ(Moritz)親王ニ命シテ速ニ伯林ニ向ヒ極力敵ヲ阻止セシメタ、然シモリツツ親王ハ事變ノ後、即チ十八日ヲ以テ伯林ニ入ツタ、

大王ハ伯林ノ事變ヲ知ツタ後、更ニ勇ヲ鼓シテシレジアニ向ヒベウホルン軍ト合シテ埃軍ヲ破ラントシ將サニ出發セントセル際ザール河畔ニ在ル後衛司令官タルカイト(Kaith)カラ佛埃連合ノ大軍カ我ニ向ツテ前進中ナルノ報ニ接シタ、ソコテ、大王ハ好敵來レリト欣ンテ、直ニ前決心ヲ翻シ再ヒ此ノ大敵ニ向ヒ西進スルニ決シタ、

連合軍側ニ於テハ其埃將ヒルドブルヒハウゼンハ十月十日ニ於テ已ニ維納政府ニ報告シテ曰ク、連合軍ハ其兵力ニ於テ例令ニ三倍ノ優勢ヲ有スルモ、到底普軍ヲ攻撃シテ勝算ノ見込カナ「ト弱音ヲ吹イタ是ハ思ヒ切ツタ弱音テ、殆ント開イタ口カフサカラナイ、然ルニハデックノ伯林ニ對スル脅威運動ノ成效シタコトカ偶々大王ノ退却ヲ豫想シ得ルニ至ツタカラ茲ニ政府ノ督促ニ應シ、ザクセンニ向ツテ牛歩ヲ開始セントシタ次第テアル、即チ前進ノ根據ハ大王ノ退却ヲ豫想シタノカ

主因ヲ爲シテ居ル、戰鬪ノ意思ハナイノテアル、ソコテ、道連レトシテ是非共、佛軍ノ同行ヲ切望シ幾多ノ曲折カアツタカ、ヤツト協議カ纏マツテ、愈、相揃フテ發進スルコトトナツタ、是ノ協議カ六カ敷カツタ事モ連合軍ノ弱點ヲ表明スルモノテ、其結合ノ程度モ知レタモノテアル、

### 戰鬪直前ノ情況

連合軍ハ各進路ヲ別ニシテ進軍シタ、即チ埃軍ハエルフルト、ウワイマー(Weimar) (エルフルト東方二十吉米)、ドルンブルヒ(Dornburg) (ウワイマー東方二十吉米)ヲ經テザイツ(Zeitz) (ドルンブルヒ東方三十吉米)及ヒペガウ(Pegau) (ザイツ東北十五吉米)ニ前進シ、佛軍ハザール河孟ヲ前進シ、相呼應シテ普將カイトノ守備シアル、ライプチヒ要塞ヲ攻略シテ茲ニ冬營ヲ張ラントシタ、然ルニ佛將スービーズハ普王自カラ此方面ニ來進スルノ報ヲ耳ニシ、急ニ恐怖心ヲ生シ、戰意ヲ消失シタ、曰ク、今ヤライプチヒ攻撃ハ不可能ナル、若カス退却センニハト、埃將ヲ説キテウンストルト(Unstrut) (ライプチヒ西北約三十吉米)ニ於テザール河ニ注ケル左潮流(河後方ノ堅



固ナル陣地ニ就クコトトナツタ、ソコテ直ニ軍ヲ回ヘシテ西ニ向ツタ、

大王ノ軍ハ十月二十九日ライプチヒ附近ニ集合シレットウ、サイドリツツノ二將ヲシテ、マルクランステット (Markranstedt) (ライプチヒ西方十吉米ニシテ) 圖上ニハ語尾ノ *ort* ヲ略シアリ) 方向ヨリ敵情ノ搜索ヲ爲サシメタ、

レットウハ歩兵五大隊ヲ以テ同地附近ニ、サイドリツツハ騎兵二十二中隊ヲ率ヒテ更ニ前方ニ挺進シ、埃佛ノ騎兵九百ト衝突シタカ苦モナク之ヲ驅逐シテ潰亂セシメタ、ノミナラス其餘波ハ敵ノ本軍ニ迄テ及ンタ、即チ埃將ヒルドブルヒハウゼンハザール河右岸ヲ成ルヘク長ク維持スルノ意思ヲ持ツテ居ツタカ、平維盛ト同様ニ風聲鶴唳ニ驚キテ其前決心ヲ放棄シ、夜間ウワイセンフェルス (Weissenfels) (ライプチヒ西南三十吉米) ザール河右岸ヲ去リ、狼狽ノ態ヲザールノ左岸ニ移ツタ、

三十日大王ハリユツェン (Lützen) (ライプチヒ西南二十吉米) 附近迄前進シ、ザール河渡過ノ爲、翌三十一日カイトヲシテメルゼブルグ (Merseburg) (ライプチヒ西方二十五吉米) 附近ヨリ、自カラウワイセンフェルス附近ヨリ強行通過ヲ試ミタカ敵ノ妨害ニ遭ヒテ不成效ニ終ツタ、ソコテ現今ニ於ケル敵前渡河ノ原則ト同様ナ考案ヲ廻ラ

以下戦圖  
圖参照

シ、先ツ敵ヲ欺騙スル目的ヲ以テ十一月一日自カラ下流ニ向ヒ、カイトモ亦タ一部ヲ現在地ニ殘シテ下流ハルレ (Halle) (ライプチヒ西北三十吉米) ニ向ヒ、翌二日ニハ急ニ舊地點ニ引キ返シテ突然ウワイセンフェルス及ヒメルゼブルグ附近ニ架橋シ或ハ在來ノ橋梁ヲ修理シ、三日雨所ヨリ左岸ニ移ルハルレヨリモ若干部隊カ渡ル、スルト敵ハ已ニ退却ニ就イテ居ツタ、依テ前進ヲ續行シテウエルンズドルフ (Weirnsdorf) ヲリブラウンズドルフ (Braunsdorf) ニ亘ル間ニ達シタ、此日埃佛軍ハミューハルン (Mühlhausen) 附近ニ於テ北面シテ野營ヲ設備シ右側ヲ普軍ニ暴露シテ居ルコト圖ニ示スカ如クテアル、機ヲ見ルニ敏ナル大王ハ敵ノ誤レル備ニ乘シテ攻撃ニ決シタ、然ルニ連合軍モ其危険ナルヲ悟ツテ夜間正面ヲ變換シ、ブランデローダ (Brandersdorf) 附近ヨリサンウルリヒ (St. Ulrich) ニ亘ル線ニ右方旋回ヲ爲シタ、大王ハ適時ニ之ヲ知リテ再ヒ決心ヲ翻シ、攻撃ヲ中止シテ曰ク敵ノ新正面及ヒ兩翼ハ共ニ地形上甚タ堅固テアル、而カモ敵ハ我ニ三倍スル六萬ノ大軍テアル今直ニ攻撃スルノハ冒險ノ極テアル若カス敵ヲ誘致センニハ「ト、依テペドラ (Betta) ヲリロースバッハニ亘ル間ニ陣地ヲ占領シ配備上殊更ニ左方ヲ開放シテ敵ニ乘スルノ隙ヲ與ヘ

連合軍ハ三倍ノ大軍ヲ擁シテ陣地ヲ占領スルコトカ已ニ可笑シキ限リナルニ浮足立テタル恐怖軍ハ此堅固ナル陣地ニモ長ク居タタマラス、尙ホ西方ニ退却スルノ意思テアツタ、サリトテフライブルグ(Freiburg) (ロースバッハ西南十吉米)ヲ經テ退却スル際其西側ニ接セルウンストルト河ノ渡過ニ乗シ、大王ヨリ打撃ヲ受タル大危険カアルト心配シタ、茲ニ於テ連合軍テハ次ノ如ク協議カ纏ツタ、

一 五日主力ヲ以テペットステット(Petsfield) (ロースバッハ南方二吉米半) オブシュツ(Obschütz) (ロースバッハ東南三吉米)ヲ經テ敵ノ左側ヲ迂回シ大王ヲシテ退却ノ餘儀ナキニ至ラシムルコト、

二 敵若シ依然陣地ヲ占領シアラハ、連合軍ハライハルヅウエルメン(Reihards-  
werben) (ロースバッハ東南三吉米半) 及オブシュツ間ニ進出シ六日ヲ以テ之ヲ攻撃スルコト、

連合軍トシテハ天晴レノ決心ト謂フヘキテアル、然シ此ノ表面壯快ナル決心ノ動機ハ退却ノ爲メニ餘儀ナキ手段ナリト考ヘタノニ基ツクトセハ、誠ニ心細キ感ニ

堪エナイ、然ルニ四日ノ夜ニ入り、埃將ヒルドブルヒハウゼンハ、本國政府ノ刺激ニ因ルカ急ニ強クナツタ、曰ク情況ノ如何ニ拘ハラズ是非共翌五日ヲ以テ斷然普軍ヲ攻撃セネハナラヌト、翌五日ノ午前佛將スービーズヲ説イテ、ヤツト、之ニ同意セシメタ、即チ是レカラ戰鬪ノ幕ニナルノテアル、

### 戰鬪ノ情況

協議カ調フタ連合軍ハ五日正午カラ愈勇ヲ鼓シテ攻撃ノ爲メニ進發スルコトトナツタ、總勢歩兵六十二大隊騎兵八十二中隊重砲其他四十五門人員四萬一千ノ大衆ハ本隊ト爲リ右方ツオイヒフェルド(Zenohfeld) (ロースバッハ西南五吉米)ヲ經テライハルヅウエルメンニ向フベク前進ヲ始メ、別ニサンゼルメーン(St. Germain)ノ指揮スル歩兵八大隊騎兵十二中隊ハシヨルタウエルヘーヘン(Schortauer Höhen) (ロースバッハ西北三一四吉米)ヲラウドン(Laudon)ノ指揮スル一部隊ハガルゲン(Galggen-B)山ヲ占領シ、敵ノ正面ニ對シ、本隊ノ左側背掩護ニ任セシメタ、連合軍ノ行動ハロースバッハヨリ一々視察スルコトカテキタ、大王ハ敵ノ此ノ行動

ヲ以テ初メハ、フライブルグニ向ヒ退却スルナラント疑ツタ、然ルニ敵歩兵縦隊ノ先頭カツオイヒフェルド東方ベットステットニ通スル道路上ニ現ハルルニ及ヒテ敵ノ真目的カ奈邊ニ在ルカヲ知ツタ、即チ大王ノ望ム所テ、又タ其計略通りニ遣ツテ來タノテアル、大王ノ満足果シテ如何、

大王ハ即チ歩兵二十七大隊騎兵四十五中隊重砲二十五門人員二萬二千ノ軍ヲ咄嗟ノ間ニ左方ニ回轉セシメ先ツ先頭ヲカイナ(Kayna)ノ方向ニ向ケ、次テヤース(Janus)山脈ノ北側ニ至ルヤ其基脚ニ沿フテ東進セシメ、更ニ南面シテ高地上ニ展開シダ、

連合軍ニ於テハ普軍ノ東北方ニ移動スル運動ヲ見テ、全然退却スルモノト確信シ急ニ強クナツタ、司令官ハ極力追撃シテ一兵ヲモ殘サス、捕獲スヘキヲ命令シタ、今ヤ連合軍ノ騎兵ハ警戒モ十分ニセスニ、勢ヒヨクライハルヅウエルベンヨリカイナニ通スル道路ニ出テントス、機ハ正ニ熟セリ、勇敢ニシテ思慮アルサイドリッツハ騎兵三十八中隊ヲ以テペルツェン(Pölzen)高地ヨリ將ニ出撃セントスル、此ノ時重砲ハモルレル(Mollern)大佐ノ指揮ヲ以テヤース山ニ放列ヲ布キ終リ、敵ノ騎兵集

團ニ向ツテ先ツ砲火ヲ開イタ、現時ノ火砲トハ、效力ニ於テ雲泥ノ差カアル、爲メニ未タ亂レサル敵ニ對シテハ充分ノ效果ヲ擧クルコトカ出來ナイ、然シサイドリッツハ此機ニ乘シ第一戰列タル騎兵十五中隊ヲシテ敵騎ノ砲兵ニ對シテ開進中ニ在ルノ不利ニ乘セシメ、間モナク第二戰列タル騎兵二十三中隊ヲ放チ、兩側ヨリハ更ニ驃騎兵モ參加シタ、連合軍ノ先頭騎兵團ハ爲メニ潰亂シ、續テ前進シ來レル佛軍ノ騎兵團ニナダレ込シタ、ソコデ是モ亦タ卷キ添ヘテ喰ツテ背轉スル、モルレル大佐ノ重砲ハ大ニ猛射シタ、敗敵ニ對シテハ一層ノ效力カ表ハレ、層一層潰亂ノ度ヲ増シテ、自軍ノ歩兵ニ向ツテ逃走シタ、

此騎兵ノ戰場ニ姿ヲ沒スルニ及ヒテサイドリッツハ爾後ノ戰鬪ニ備ヘンカ爲メ其騎兵ヲターゲウエルベン(Tageverben)トステルカウ(Storkau)トノ間ニ集合ヲ命シ、隊伍ノ整頓ニ努メタ、

此間普軍ノ歩兵ハ大隊毎ノ梯隊ト爲リテ左翼ヨリ前進ヲ開始シ、ライハルヅウエルベン(Lunstedt)ノ線ニ於テ右方ニ旋回スルヤ、連合軍ハ尙ホ縦隊ヲ以テ前進中テアル、機正ニ乘スヘシ、右翼ノ歩兵十二大隊ハ敵縦隊ノ左側ニ、左翼ノ

歩兵八大隊ハ敵縱隊ノ先頭ニ對シテ殺到シタ、是ニ於テカ勝敗ノ大勢ハ略ホ定マツタモノト謂フコトカ出來ル、連合軍ハ普軍カ退却スルモノトノミ信シテ油斷ヲシテオツタ爲メ、思ヒカケナキ逆襲ニ驚イテ急ニ展開ヲ始メタカ、最早間ニ合ハナイ、優勢ナル兵力ヲ持チナカラ、之ヲ使用スルコトカ出來ヌ、ツマリ「我ニ先チテ展開ヲ完了セル敵ニ對シ、戒慎スルコトナク、無暗ニ衝突スル」ノ過失ヲ犯シタ譯テ、從ヒテ所要ニ充タサル兵力ヲ逐次ニ第一線ニ注入シタノト同様テアル、故ニ連合軍ハ戰鬪ノ始メヨリ混雜ヲ極メ形勢ハ固ヨリ不利ニ傾キツツアル、此ノ際サイドリツツハ右側面カラ其混亂ニ乘シテ騎兵ヲ放ツタ、此勇敢ナル騎兵ノ襲撃ニ依リテ戰鬪ハ終リヲ告ケ、連合軍ハ恰モ堤防ノ決シタ如クペットステットヲ經テウンストルト河ニ向ヒテ遁走ヲ始メタ、間モナク夜ニ入ツタ、連合軍ノ爲メニハ幸ヒテ、猛烈ナル追撃ヲ免レタノデアアル、普軍ハ翌六日フライブルグヲ經テエックアルツベルガ (Eckartsherga) フライブルグ西南二十吉米、迄追撃シ七日ニハ小部隊ヲ以テ追躡セシメタ、此戰鬪ニ於テ大王ハ能ク二萬餘ノ寡勢ヲ以テ連合軍ノ五萬餘ヲ破リ、大ニ其勇名ヲ轟カシタ、兩軍ノ損害ハ概ネ左ノ如クデアアル、

普軍

約五五〇

連合軍 (佛)

約三、五五〇 (大部ハ捕虜)

約六、六〇〇

計約一〇、〇〇〇

奥將ヒルドブルヒハウゼンハ此敗戰後、正直ニ報告シテ曰ク、

「予ハ未タ曾テ此ノ如キ潰走ト此ノ如キ戰慄スヘキ恐慌トヲ見聞シタルコトナシ吾人ノ最大幸福ハ間モナク夜暗ト爲リタルニ在リ、否ラサレハ恐ラク全滅ノ不幸ニ逢ヒタルナラン」ト、

彼ハ其後、司令權ヲ辭シテ曰ク「少クモ予カ盡忠報公ノ義務ハ既ニ了レリ、皇帝ハ縱令、予ニ一百万フランノ月俸ヲ賜ハルトモ予ハ最早現職ニ止マルヲ得ス」ト其ノ意氣ノ阻喪、薄志弱行、我武士道ノ見地ヨリセハ固ヨリ唾棄スヘキモノナリトハ云ヘ敗軍ノ將トシテ其心事誠ニ憐ムヘキテハナイカ、

是ニテロースバッハノ戰鬪記事ハ終リトスル、是ニ關スル所見等ハ次ノ戰鬪ヲ述ヘタル後、諸君ニ彼此此照應シタル研究ヲ御依頼シ、且予ノ卑見ヲモ述フルツモリデアアル、

## 四 ロイテン (Leuthen) 附近ノ戰鬪 (一七五七年十二月五日)

## 戰鬪前ノ概況

ロースバッハ (Rosbach) 附近ニ於ケル普軍ノ赫々タル大勝ハ歐洲一般ノ豫想外トスル所ヲ何レモ其ノ意外ナル結果ニ一驚ヲ喫シタ、ソコテ英國ノ如キハ益々其ノ信賴ノ念ヲ加ヘ、殊ニ獨逸ノ各小邦ハ其ノ普國派タルト、非普國派タルトヲ問ハス、此ノ偉大ナル結果ニ醉ハサレ、異口同音ニ普王萬歲ヲ唱ヘ衷心同情ヲ表シタ、戰勝カ人心ニ影響スル所、實ニ大ナルモノテアル、

然レトモ、普王ノ境遇ハ未タ以テ意ヲ安ニスルノ時期ニ達シナイ、更ニ重且ツ大ナル至難ノ任務カ其ノ眼前ニ迫ツテオ、至難ナル任務トハ何ソヤ、曰ク優勢ナル奥軍ノ主力ヲシレジアノ地ヨリ掃蕩スルノ急務テアル、次テハ露ノ大軍ヲ擊破スルノ難務テアル、觀シ來レハ、前途極メテ多端ニシテ又タ甚タ危殆ナル状態テアル、故ニ折角、最大ノ努力ヲ費シテ獲得シタルロースバッハノ戰勝モ、以テ大王及ヒ其ノ勇敢ナル部下ヲシテ祝酒ニ醉ハシムルノ暇ヲ許サナイ、然シ凡庸ノ將帥ナランニハ、

斯ノ如キ戰勝ノ後ハ、其ノ滿腔ノ喜悅ニ依リ、今迄テ緊張セル意氣頓ニ弛ミ、一時其ノ活動力ヲ失ヒ、爲メニ充分ナル戰果ヲ收ムルコトカ出來ナイカ、或ハ爲メニ、戰機ヲ失スルニ至ルモノ比々皆ナ然リテアル、蓋シ是レ人情ノ弱點テ、死ヲ賭シテ奮闘シタル後ニ於ケル人情ノ自然テアル、而カモ此ノ人情ノ自然ヲ排シテ、敢テ部下ヲ驅ツテ新活動期ニ導キタル大王ハ則チ非凡ノ英傑タル所以テアル、

大王ハ直ニ軍ヲシレジア方面ニ向ハシムヘク、東方ニ轉進シタ、ソシテ、十一月十日ニハ、其ノ前衛ヲ以テライプチヒ (Leipzig) ニ、主力ヲ以テメルゼブルグ (Merseburg) ニ達シ、此處ニテ兵力ヲ糾合シテ歩兵十八大隊、騎兵二十九中隊ヲ得、之ヲ率ヒテ十三日ニ同地ヲ出發シタ、然ルニ奥將マルシヤル (Marshall) 及ヒ、ハディク (Hadtik) ハ大王ノ進路ヲ遮キルノ位置ニ在リシカ故ニ、之ヲ他ニ牽制スヘク、部將カイト (Keith) ニ歩兵十六大隊、騎兵十中隊ヲ與ヘテ、南方ベーム地方ニ侵入セシメタ、此ノ計畫ハ全ク成功シテ、大王ノ進路ハ開進シタ、乃チ、作戰目標ヲシレジア州内ニ在ル、シュワイドリック (Schweidnitz) (Breslau 西南五十吉米) ニ選定シテ、前進ヲ續ケルコトトナツタ、前回ニ於テ已ニ述ヘタ如ク曩キニ大王カロースバッハ方面ニ向フ際、其ノ將ベッセル

ン (Bevern) ニ一隊ノ兵ヲ授ケテシレシアノ守備ニ任セシメタカ、將軍ハ十月上旬  
 オーデル河 (Oder) (Breslau 附近ヲ流ル) 右岸地區ヨリ、ブレスラウ (Breslau) 附近ニ前進  
 シ、主力ヲ以テローヘ河 (Lohe) (Breslau 西方ヲ流ル) ノ東岸ニ陣地ヲ占領シ堅固ナル  
 工事ヲ施シ以テブレスラウ (Breslau) ヲ掩護シ、一部隊ヲシュワイドニッツ (Schweidnitz)  
 要塞ニ分遣シテ同地ノ守備ヲ固メタ、蓋シ此方面一帶ニ於ケル埃軍ノ兵力ハベウ  
 エルン (Bevern) ノ兵力ニ比シ遙カニ優勢ナリシカ故ニ、ベウエルン (Bevern) ハ暫ク守  
 勢ヲ取ルニ決シタノテアル、

埃將ナダスデー (Nadasdy) ハ四萬二千ノ大兵ヲ率ヒテ葦爾タルシュワイドニッツ (Schweidnitz) ノ孤城ヲ圍ミ、又タ埃將カール (Karl) ハ四萬ノ軍ヲ提ケテローヘ (Lohe) 河  
 邊ニ近接シベウエルン (Bevern) ノ軍ニ對峙シタ、

先是大王ハ決戰ヲ冬季前ニ求ムルノ意圖ヲ有ツテ居ツタカラ、ベウエルン (Bevern)  
 ニ命スルニ速ニ當面ノ埃軍ヲ攻撃スヘキヲ以テシタ、蓋シベウエルン (Bevern) ヲシ  
 テ當面ノ敵ヲ擊破シ得サル迄テモ少クモ攻撃ヲ以テ埃軍ノ大部ヲ牽制セシメ、親  
 ラ急ニベーム地方ニ進入シテ其ノ退路ヲ遮斷シ、以テ一舉ニ之ヲ殲滅スルノ壯

舉ヲ企テタノテアル、然シ大王親カラ指揮ヲ取ラハ格別、然ラスンハ、格段ニ兵力ノ  
 差アル優勢ノ埃軍ニ對シ、攻勢ハ甚タ危険テアル、ベウエルン (Bevern) ハ此ノ至難ナ  
 ル訓令ヲ受ケタカ、諸將ノ反對モアリ、敢爲ナル攻勢ニ出ツルノ自信カナイ、而已ナ  
 ラス、シュワイドニッツ (Schweidnitz) 要塞ハ埃軍ノ猛擊ニ堪エ兼ネ攻撃ヲ受ケテヨリ  
 三日目即チ十一月十三日ニ至リテ其ノ六千ノ守兵ト共ニ埃軍ノ手ニ歸シタ、故ニ  
 ベウエルン (Bevern) ハ今ヤ攻勢ヲ取ル所テハナイ、甚タ危キ状態トナツタ、即チ埃軍  
 ハシュワイドニッツ (Schweidnitz) ノ攻略ニ依リ志氣頓ニ振ヒ八萬餘ノ兵力ヲ合シテ  
 ベウエルン (Bevern) ヲモ擊滅スヘクブレスラウ (Breslau) ニ向ツテ逼迫シテ來タ、僅  
 カニ二萬八千ニ過キササル兵力ヲ以テ三倍ノ敵ニ當ラサルヘカラサルベウエルン  
 ハ誠ニ累卵ノ危キニ瀕シテオル、知ラス大王ノ救援迄、堅忍持久、能ク孤城ヲ死守シ  
 得ルノ勇アリヤ否ヤ、

埃軍ハ豫期ノ如ク十一月二十二日ヨリ愈、總攻撃ヲ開始シタ、普軍ノ二、三ノ前進陣  
 地ハ其ノ猛擊ニ依リテ奪取セラレ、時ノ經過ハ漸次普軍ノ苦戰ヲ増シタ、然シ抵抗  
 ハ甚タ頑強テ、時ニハ局部的攻撃ヲ取リテ大ニ奮闘是レ努メタ爲メ、優勢ナル埃軍

モ可ナリ苦シメラレタ、斯クシテ、十一月二十四日即チ攻撃第三日迄ハ尙ホ抵抗カ  
續ケラレテオツタ、然ルニ此日一大珍事カ起ツタ、軍司令官ベウエルン(Bevern)カ此  
日早朝偵察ノ爲メ城外ニ出テタ際甚タ不覺ニモ埃軍ノ爲メニ捕エラレタノテア  
ル、

孤城ヲ守レル哀ムヘキ將卒ノ爲メニハ殊ニ大ナル不幸テアル、而カモ次級者タル  
將官キアウ(Kyau)ハ凡庸ノ更ニ凡庸テ、一ト先ツ其ノ地ヲ撤退スルニ決シタ、曰ク  
是レ、前軍司令官ノ意圖ナリト、其日午後グロガウ(Grogau)(Breslan西北九十吉米)ニ向  
ツテ退却ヲ開始シタ、ブレスラウ要塞司令官モ亦タ、同時ニ城ヲ開放シテ退却ノ道  
連レトナツタ、大王ノ部下タル普軍トシテハ何ント意氣地ナキ振舞テハナイカ、實  
ニ首將其人ヲ得サルトキハ斯ノ如キ膽甲斐ナキ有様トナルノテアル、

埃軍ハ斯ノ如クシテ先ツ不完全ナカラ戰勝ノ名ヲ得タ、シレジア州内ニ於ケル要  
點モ其手ニ歸シタ、然シ尙ホ普軍ハ存在シテオル、然ラハ須ラク、追撃ヲ以テ此ノ名  
ノミノ戰勝ヲ完全ナラシメネハナラヌ、然レトモ彼ハ凡將テアツタ、戰勝ツテ氣弛  
ミ徒ラニブレスラウ(Breslan)ニ滯留シテ貴重ナル時日ヲ祝酒ノ爲メニ費シタ、大王

ノ勵精ト比ヘタナラハ其差雲泥モ管ナラスト謂フヘキテアル、

大王ハシレジアニ向フ進軍中ニ、各種ノ凶報ヲ受取ツタ、曰ク、シユワイドニツ(Sch-  
weidnitz) 要塞ハ全守兵ト共ニ敵手ニ落チタ、曰ク、ブレスラウ(Breslan)附近ノ戰鬪ハ  
普軍ノ不利ニ歸シタ、曰クブレスラウ(Breslan) 要塞ハ開放サレタ、曰クベウエルン  
(Bevern)將軍ハ捕エラレタ、曰クシレジア聯隊ハ反逆ヲ企テタ、曰ク逃亡兵ハ日々益  
々多キヲ加ヘツツアル、曰ク何、曰ク何ト恰モ大王ヲ試験スルカノ如ク續々トシテ  
耳朶ニ響キ來ツタ、而カモ吉報ハ一ツモナイ、諸君假リニ身ヲ當時ニ於ケル大王ノ  
境遇ニ置イテ、其ノ心情ノ如何ナルヘキカヲ察セヨ、如何ニ強氣ナ大王テモ其ノ苦  
衷ヤ思ヒ遣ラルルテハナイカ、

先是大王ハベウエルン(Bevern)ノ捕ヘラレタルヲ知ルヤ、直ニキアウ(Kyau)ニ嚴命  
ヲ下シ、「如何ナル事情アリトモ、ブレスラウ(Breslan)ハ開城スルヲ許サス、又タ決シテ  
降服スルコトハ相成ラヌ、予ハ必ス成シ得ル限リ迅速ニ救援スルニ努メル、須ラク  
邦家ノ爲メ全滅ヲ賭シテ死守セヨ」ト言ヒ送ツタ、蓋シブレスラウノ地タルシレジ  
アニ於ケル要點テ、普軍ニシテ、少クモ此ノ地ヲ保持シテ居ル間ハ攻勢ノ爲メ實ニ

有利ナル據點トナルノデアアル、故ニ、大王ノ命令ハ固ヨリ至當ト謂ハナケレハナラヌ、又タ同地ノ守備ニ在ルモノハ、假令命令ナクトモ、死守ノ心懸ケハナクテハナラヌ、要塞一般ノ任務カラ考ヘテモ、當然ノ事テアル、然ルニ此ノ至當ナル命令ハ實行サレナカツタ、力尙ホ餘リアルニ、身ヲ救フヘク、開放サレタノテアル、大王ノ遺憾幾何ソ、大王ハ大ニ怒ツタ、キアウ (Kraus) 及ヒブレ斯拉ウ要塞司令官ハ不名譽ナル軍法會議ニ附セラレテ其ノ罪ヲ問ハレタ、大王ノ不屈不撓ナル、此ノ秋風落日的ノ悲況ニ在リテ、斯ク言ウタ、是等ノ不幸ナル出來事ハ未タ以テ予ヲ征服スルヲ得ス、ト然リ彼ハ磐根錯節ニ逢ウテ益々其ノ剛銳ノ氣ヲ加ヘルノテアル、乃チ諸將ヲ集メテ先ツ不幸ナル出來事ヲ傳エ、且ツ曰ク、運命ハ如何ニ吾人ヲ支配スルヤ未タ知ルヘカラス、然レトモ卿等ノ忠誠ト勇氣トニ信賴シテ人力ノ有ラン限リヲ盡サント欲ス、敵如何ニ衆多ナルモ、我ハ常ニ攻撃ヲ以テ之ヲ擊破セン、ト意氣甚タ旺盛テアル、一軍ノ將士豈ニ感奮セサランヤ、志氣ハ益々振ヒ意氣ハ冲天ノ慨ガアツタ、上下合體一意敵ニ向ハンコトヲ希フトコロ、必勝ノ兆カ表ハレテオルテハナイカ、

大王ハ十一月二十八日埃軍ノ一部隊カ守備シテオルリーグニッツ (Liegnitz) (Breslau

西方六十吉米)ヲ迂回シテ其ノ東北十五吉米ナルバルヒウイッツ (Parchwitz)ニ到リ、此處ニテブレ斯拉ウ方面ヨリ退却シ來レル一萬餘ノ軍ト其ノ他附近ノ小部隊トヲ集メテ、歩兵四十八大隊半、騎兵百三十三中隊、重砲七十八門、人員總計三萬五千ヲ算ウルニ至ツタ、

### 戰鬪直前ノ情況(ロイテン附近戰鬪圖參照)

大王ハ十二月四日ヲ以テ愈、現在地タルバルヒウイッツ (Parchwitz)ヲ出發シテノイマルクト (Neumarkt)ニ向ヒ、同地附近ニ在リタル四千ノ埃軍ヲ攻撃シテ其ノ二百ヲ死傷セシメ六百ヲ擒ニシ、戰陣ノ血祭り吉兆ヲ示セルヲ祝シツツ、前衛ヲ以テカンメンドルフ (Kammendorf)―ビシヨーフスドルフ (Bischofsdorf) (圖ニハ ofsヲ略シアリ)ノ線ニ、本隊ヲ於テバ、ヘンドルフ (Pflandf)―ステファンズドルフ (Stephansdf)ニ停止シタ、埃軍ニ於テハ大王ノシレジア方面ニ向ヒテ進軍シツツアルヲ知ルヤ、軍事會議ヲ開イテ作戰方針ヲ議シタ、或ハローヘ河 (Lohe)ノ後方ニ據ツテ敵ヲ迎撃セントスルノ引込ミ思案モ出タカ、結局ノイマルクト (Neumarkt)ヲ經テ大王軍ニ向ツテ前進



スルニ決シタ、即チ六萬五千ノ大軍ハ恰モ大王カバルヒウイツ(Parchwitz)ヲ出發セ  
 ルト同日即チ十二月四日ヲ以テ前進ヲ開始シタ、兩軍共ニ攻勢ヲ取ルモノトセハ  
 壯觀ナル遭遇戦カ惹起セラルヘキテアル、果シテ然リシヤ否ヤ、  
 奥軍ハローヘ(Lohe)フイストリッツ(Weisritz) (Lohe 河ノ西方ニ平行セルモノ) 兩河ノ  
 渡過ニ多クノ時間ヲ費シ、夜ニ入りテ其ノ第一線ヲ以テグケルウイツ(Cuckewitz)  
 ヨリブレ斯拉ウ山(Breslau-B.)ニ亘ル線ニ、主力ヲ以テ其ノ東方ニ達シテ宿營シタ、然  
 ルニ軍司令官カール(Karl)ハ大王軍カスク近ク目前ニ來進シアリトハ豫想シテ居  
 ナカツタカラ、大ニ驚イテ、氣カ臆シタ、ソコテ行李ヤ天幕ナトハワイストリッツ河  
 (Weisritz)ノ彼岸ニ殘置シ十二月ノ寒天ニ拘ハラヌ、各隊ヲシテ銃ノ許ニ在ラシメ、  
 警戒ハ極メテ嚴重テアツタ、此ノ處置ハ良シ、不警戒ニ依リテ不覺ヲ取ルニ比スレ  
 ハ多少ノ過嚴ナルハ敢テ大害ハナイ、況ンヤ、敵前近距離ナルニ於テ然リテアル、然  
 シ此至嚴ナル警戒心ノ裡ニハ恐怖ニ驅ラレタル弱キ精神カ含まレテ居ツタ、即チ  
 軍司令官カール(Karl)ノ意思ハ此ノ驚愕ニ依リテ急ニ一變シタ、今ヤ攻撃ノ元氣ハ  
 消失シタ、ト云フテ、今直ニ退却ハ出來ナイ、何トナレハ、今渡ツテ來タニツノ河カア

ル、之ヲ渡ルニ際シテ敵ノ急撃ニ逢ウタナラハ大變テ、全滅ノ不幸ニ陥ル恐レカア  
 ル、依テ現在地附近ヲ占領シテ最早避ケ難キ一戦ヲ交ユルニ決シタノテアル、其ノ  
 意思ノ根本カ斯ク不確實ナル基礎テアル、從ヒテ占領セル陣地カ如何ニ表面上堅  
 固ナリトスルモ、所謂砂上ノ樓閣ニ過キナイ、曩キニ出發ニ際シテ軍事會議ヲ開キ  
 決議シタル天晴レノ方針ハ果シテ何ノ眞意ヲ存シテ居ツタカカ分カラナイ、要ス  
 ルニ奥將ニハ最初カラ闘志カナイ、而カモ六萬五千ノ大軍モ以テ彼ノ頼ミニナラ  
 ナイノテアラウカ、

奥軍ノ選定シタル陣地ハ概ネ次ノ通りテアル、  
 最初ノ時期ニ於テハ右翼ヲニツペルン(Nippern)附近ニ於ケル森林ノ山地ニ托シフ  
 ローベルウイツ(Frobelwitz)附近ヲ經テロイテン (Leuthen) 附近ニ亘リ西面シタル陣  
 地テアル、而シテ右翼ニハルクセース(Luchese)ノ騎兵團ヲ配置シ其ノ前面森林高  
 地端ニハ歩兵ヲ以テシ前進哨的ニ配置セラレタ、  
 反之普軍ニ在リテハ奥軍ノ意外ナル出動ニ對シテ大ニ欣ンタ、大王ノ如キハ雀躍  
 禁スル能ハサル有様テ老狐遂ニ其ノ穴ヨリ這ヒ出テタ、彼カ傲慢ヲ膺懲スルハ正

ニ是ノ秋ニ在リト勇シテ敵ノ有リ得ヘキ攻撃ニ對シ先制ノ利ヲ占メンカ  
爲メ午前四時已ニ銃ノ許ニ在ラシメタ、

先是大王ハ親シク各隊ヲ巡視シ激勵シテ曰ク、明日ニ於ケル戰鬪ノ光景果シテ如  
何敵ハ數ニ於テ我ニ二倍セリ、然レトモ一人ノ剛者ナキハ汝等ノ已ニ知ル所ロナ  
リ、予ハ素ヨリ敵ノ價值ヲ熟知セリ、故ニ敢テ進ンテ戰ヲ決セント欲スルノミ、汝等  
ハ速ニ寢ニ就キテ休養セヨ、而シテ明日ハ必勝ヲ期シテ奮闘セヨト

明クレハ十二月五日將卒皆ナ勇シテ進軍ノ令ヲ待チツツアル、大王ハ乃チ一小部  
隊ヲ現在地タルノイマルクト(Neumarkt)ニ留メテ後方ノ守備ニ充テ、軍ヲ四縱隊ニ  
分チテ先ツボルネ(Borne)ニ向ヒテ併進セシメタ、其ノ前衛ハボルネ(Borne)附近ニ在  
リシ埃軍騎兵五聯隊ヲ急襲シテ之ヲ其ノ本陣地内ニ擊退シ、數百ノ死傷ヲ生セシ  
メ、五百餘ヲ擒ニシタ、是ノ時本隊ノ各縱隊ハ展開間隔ヲ確守シツツ積雪ヲ蹴ツテ  
堂々ト進軍中テアル、其ノ壯觀ハ言語ニ絶スルノ勢テアツタ、

普軍ハ難ナクボルネ(Borne)ノ要地ヲ占領スルコトカ出來タカラ、敵情偵察ノ自由  
ヲ得ルニ至ツタ、ソコテ大王ハ親シク敵陣地ノ全般ヲ遠觀シテ、其ノ弱點ヲ看破シ

右翼及ヒ正面ノ堅固ナルヲ避ケ、思ヒ切ツテ敵ノ左側ニ迂回スルニ決シタ、間モナ  
ク、普軍ノ四縱隊ハ威風堂々トシテ異狀ナクボルネ(Borne)附近ノ線ニ達スルヤ、直  
ニ右方旋回カ命セラレタ、旋回シタル本隊ハ二縱隊ト爲リ、其ノ東側高地線ニ遮蔽  
セラレツツ、自雪皚々タル谷地ヲ經テ、蕭々トシテ南方ニ其ノ歩ヲ急キツツアル、殊  
ニ此日ハ朝來濃霧四塞シテ展望ヲ妨ケタ爲メ敵眼ヲ避ケテ隱密行軍ヲ爲スニハ  
誠ニ好都合テアツタ、斯クノ如ク各縱隊ハ今ヤ最モ危險ナル側敵行軍ノ最中デア  
ル、勇敢ナル諸將モ敵ノ出撃アラントヨ願慮シ、心中、何トナク、不安ニ感シツツア  
ル際、咄、何者ノ惡戯ソ、忽チ其ノ寂寞ヲ破ツテ、勇壯ナル軍歌ノ聲カ列中ノ一部ニ起  
ツタ、大王ノ左右ハ驚イテ之ヲ禁セントシタ、然ルニ大王ハ之ヲ遮キツタ、曰ク、予ハ  
此ノ如キ部下ヲ有スルカ故ニ本日ノ戰鬪ニ勝利ヲ得ヘキヲ疑ハスト

先是、埃軍ノ一部隊カボルネ(Borne)附近ニ於テ普軍前衛ノ爲メニ擊破セラレ、其ノ  
本陣地ノ右翼方面ニ潰走スルヤ、右翼地區司令官ルクセース(Luchese)ハ大ニ狼狽  
シテ普ノ大軍ハ我カ右翼ヲ攻撃スルモノト早合點ヲ爲シ、屢々急使ヲ派シテ増援  
ヲ請求スルコト甚タ切ナリ、サナキタニ、不安ノ念ニ驅ラレツツアル總司令官カ

ル(Kar)ノ題腦ハ爲メニ一層擾亂セラレタ、カール(Karl)ハ前面ノ高地ト濃霧トノ爲メニ遮キラレテ、敵情カ一向分ラナイ、從ツテ、ルクセース(Lucchese)ノ請ヲ拒ムノ理由モナイ、ソコテ其ノ豫備兵團ヲ右翼ニ移スノ誤リヲ犯シタ、是レ恰モ日露戰役ニ於ケル奉天會戰ノ際ニ似テアル、即チ我カ鴨綠江軍ノ猛撃ニ脅威セラレ、露軍總司令官クロバトキン大將ハ數軍團ノ總豫備隊ヲ鴨綠江軍方面ノ不要ナル山地ニ注キ込シタ爲メ、我カ乃木將軍ノ率ユル第三軍ハ無人ノ境ヲ行クカ如ク敵ノ右翼ヲ包圍シ、以テ本會戰ニ於ケル決勝ノ動機ヲ與ヘタノテアル、

爾後埃軍ニ於テハ普軍ノ情況全ク不明トナリ、久シク疑問ノ裡ニ經過シタカ、其ノ内埃將ダウン(Dawn)ハ普軍ノ南方ニ行進中ナルヲ發見シタ、然ルニ其ノ判斷カ面白イ、曰ク「敵兵ハ今ヤ退却中テアル、然シ吾人ハ此ノ哀ムヘキ彼等ヲ無事ニ退去セシメン」ト敢テ何等ノ處置ヲ爲サナカツタ何ント呑氣ナ沙汰テハナイカ、斯クシテ此ノ最モ貴重ナル時機、最モ大切ナル時刻ヲ無爲ニ徒費スルニ至ツタノハ埃軍ノ側カラ考フレハ實ニ千載ノ恨事テアル、

普軍ノ爲メ最モ危險ニシテ最大ノ注意ヲ要スヘキ此ノ二時間ハ無事ニ經過シタ、

然シ此ノ二時間ハ普軍ノ將帥間ニ隨分長ク感セラレタテアロウ、斯クテ正午過キニハ略ホ其ノ側敵行軍ヲ完了シテ、シユリーグウキツ(Schriegwitz)ニ達シ、チーレン(Nieten)將軍ノ部隊タル騎兵集團ト歩兵六大隊トヲ率ヒテ尙ホ其ノ右側即チシユリーグウキツ(Schriegwitz)東側ニ現出シテ埃軍ノ左側背ヲ脅威セントス、又タドリーゼン(Driesen)ノ指揮スル左翼ノ騎兵團ハローベテインツ(Lobetin)西方ニ位置シテ東方ニ正面ヲ向ケタ、斯ノ如ク普軍ノ攻撃準備ハ埃軍無爲ノ間ニ進捗シテ勝敗ノ「バランス」ハ漸次普軍ノ側ニ傾キツツアル、

呑氣ナ埃軍モ普軍ノ繼續サレタル運動ヲ見テ薄氣味悪ルクナリ、漸次不安ニ驅ラレタト見ユ、萬一ニ備エンカ爲メ左翼ノ依托點タリシ、ロイテン(Leutten)ヨリ更ニカウルブッシュ(Kaul-Busch)ニ至ル迄鈎形的ニ其ノ翼ヲ延伸シ、尙ホ其ノ騎兵ヲ以テカウルブッシュ(Kaul-Busch)クラインゴラウ(Kl. Gohrau)間ニ配置シテ左側ノ警戒ニ任セシメ、以テ充分ニ普軍ノ迂回ヲ防止シ得ヘシト安心シテオル、蓋シ埃軍ハ往年コリン(Kolin)(Prag)東方五十吉米ノ役ニ於テ大王ノ實施セル迂回ニ對シ之ヲ失敗セシメタル經驗カアツタ、故ニ埃軍トシテハ大王ノ迂回ニ對シテ餘リ大ナル顧慮

ヲ拂ハナカツタノテアロウ、然シ大王タルモノカ幾回モ同一ノ筆法ヲ失策スルモノトハ思ハレナイ、實際大王ハ一層思ヒ切ツテ大迂回ヲ強行シタノテアル、

### 戦鬪ノ情況

午後一時頃戦鬪ノ幕ハ普將チーテン(Zieten)ノ騎兵ニ依リ普軍ノ右翼、即チ埃軍ノ最左翼方面ヨリ開カレタ、チーテン(Zieten)將軍ハ先ツ自己ニ對セル埃ノ騎兵ヲ擊退シツツ、常ニ半右ヘト前進シ、其ノ歩兵ハザーグシュツ(Sagschütz)ニ近接シタ、是時普軍ノ重砲兵ハグランツ山(Glanz-B.)及ヒューデン山(Juden-B.)ノ上ニ位置シ、十字火ヲ以テチーテン(Zieten)將軍ノ兵團ヲ援助シタ、此ノ有力ナル推進ニ依リ一層ノ力ヲ添ヘ遂ニ埃軍左翼地區タルナダスデー(Nadasdy)ノ兵團ヲザーグシュツ(Sagschütz)ヨリ擊退シタ、ナダスデー(Nadasdy)ハ其ノ部下ヲ極力停止セシムヘク努力シタカ、普軍ノ猛擊ニ依リ、終ニ潰走スルニ至ツタ、

次テ埃軍騎兵ハクラインゴラウ(Kl.-Gohlau)方面ヨリ健氣ニモ攻勢ヲ取り、チーテン(Zieten)ノ騎兵團ニ向ヒ突進シタ、然ルニ普軍騎兵ハ地形不利ニシテ展開モ間

ニ合ハス形勢危ク、一部ハ若干退却シタ、是ノ時バウエルン(Bevern)ノ歩兵ハ騎兵ノ右翼ニ隊形ヲ整ヘテ埃ノ騎兵ニ當ツタ、チーテン(Zieten)ノ騎兵ハ此間ニ乘シ展開ヲ完了シ、埃ノ騎兵ヲ逆擊シテ之ヲ擊破シ、敵ニ尾シテ前進シゴーラウ山(Gohlau-B.)ヲ經テラーテネルブッシュ(Rathener-Busch)附近迄突進シタ、於是埃軍左翼方面ノ兵團ハ殆ント全部潰亂シテワイストリツ(Waistriz)河ノ彼岸ニ踪跡ヲ沒シタ、

埃軍司令官カール(Karl)ハ如何ニ事ノ意外ナルニ驚イタテアロウカ、然シ今トナツテハ別ニ施コスヘキ良策ハナイ、主力ヲ向ケ直シテ一六勝負ヲヤツテ見ルヨリ外ハナイ、形勢ハ確カニ不利テアル、然シナカラ、優勢ナル兵力ヲ有セル埃軍テアルカラ、首將以下眞ニ決死ノ勇ヲ奮ウタナラハ尙ホ勝算ノナイトハ限ラヌ、

カール(Karl)將軍ハ即チ中央及ヒ右翼方面ノ兵團ヲシテ直チニ南方ノ敵ニ向ヒテ正面變換ヲ命シタ、然シ、事、唐突ニシテ其ノ實施ハ固ヨリ抄々シク行ク筈ハナイ、已ムヲ得ス、展開不十分ナル隊形ヲ以テ而カモ混雜、狼狽ノ状態ヲ以テ充分ニ戰備ノ整ヒアル普軍ニ應スヘク餘儀ナクサレタ、普軍ニハ速ニ攻ムルニ利アリ、埃軍ニハ時間ヲ得ルニ利アリ、即チ普軍ハ息ヲモツカス、間斷ナク攻撃ヲ續行シ完全ニ展開

セル正面ヲ以テ包圍的ニ疊ミカケタ、其ノ歩兵九大隊ハ塙軍ノ左側ニ、又タ、ブッテル山(Butter-B.)ノ重砲兵ヲ以テ敵ノ右側ヲ攻撃シタ、之ニ對シ塙軍ハ極力抵抗ヲ試ミタ、殊ニ恢復攻撃ノ據點トシテロイテン(Leuthen)ノ維持ニ全力ヲ傾ケタ、激戦ハ即チロイテン(Leuthen)ノ攻防ニ依リテ最モ其ノ度ヲ高メタ、正ニ是レ最後ノ勝敗ヲ定ムヘキ決戦テアル、然シ塙軍ノ奮闘モ正々堂々タル普軍攻撃ノ銳鋒ニ對シテ長クハ續カナイ、ヤカテ普軍ノ一部隊ハロイテン(Leuthen)ニ突入シタ、慘烈ナル市街戦迄テモ試ミラレタカ、終ニ全村ハ普軍ノ手ニ落チタ、是時塙ノ一部隊ハグロース、ゴーラウ(Gr.-Gohlan)附近ヨリ普軍ノ側面ニ迫リ戰勢ノ挽回ヲ企テタカ、却テ其ノ正面及ヒ側面ヨリ普軍ノ歩砲兵ニ逆撃セラレテ敗走スルニ至ツタ、然ルニ塙軍ノ主力ハ尙ホ近ク踏ミ止マリ何トカシテ恢復攻撃ヲ行ハントスル模様カ見エル、塙軍右翼方面ニ於テハ最初増援ノ請求ヲ爲シテ軍司令官ヲ誤ラシメタルルクセー(Lochese)カ其ノ後敵ノ來襲ノ模様ナキニ依リ其ノ騎兵ヲ以テグロースハイダウ(Gr.-Heidan)トフローベルウキッツ(Frobelwitz)トノ間ニ前進シテ情況ヲ窺ヒツツアリシカ、今ヤ一戦ヲ交エサルヘカラサルヲ察シ、恰モ自軍主力方面ノ情況不利ニ

傾キタル後、普軍ノ左翼ニ向ヒテ攻勢ヲ取ツタ、之ニ對シ普ノドリーゼン(Driesen)ノ直ニ左方ニ旋回シテ圖示ノ如ク其ノ右側背ニ向ヒ逆襲シ茲ニ接戦格闘カ演セラレタ、恰モラダクスドルフ(Radaxdorf)東方ニ在リシ普ノ騎兵モ機ヲ失セス、此ノ激戦ノ渦中ニ投シタ、ソコテルクセー(Lochese)ノ騎兵ハ力及ハスシテ敗退シ自軍歩兵ノ方向ニ走リ込シタ、此ノ敗退ヲ動機トシテ塙軍ノ右翼ハ崩レ始メタ、塙軍右翼ノ崩壊ハ更ニ其ノ主力ノ混亂ヲ増大セシメタ、此ノ間南方ヨリハ普軍ノ主力ヨリ益々猛烈ニ攻メラレタ、カクテ大堤防ハ終ニ決潰サレタ、濁水ハ滾々トシテ東北方ニ流レ去リツツアル、普ノ騎兵ハ最後ノ留メヲ刺スヘク、勇躍シテ其渦中ニ闖入シ濁リタル流水ヲ更ニ攪拌シタ爲メ敗殘ノ塙軍ハ全ク潰亂シテザーラ(Sarau)クラインハイダウ(Kleinheidan)ヲ經テドイッチュ、リツサ(Dtsch-Iissa)東側ノ橋梁方向ニ走ツタ、

大王ハ乃チ選抜シタル若干大隊ヲ率ヒ親カラ敗敵ヲ追撃シ、ドイッチュリツサ(Dtsch-Iissa)附近ニ於ケル敵ノ抵抗ヲ撃破シテ同地ニ進入シ、逃ケ後レタル多クノ敵兵ヲ捕ヘタ、ソコテ直ニ諸將ヲ會シテ感謝ノ意ヲ表シ當日ノ戦勝ヲ以テ部下ノ忠勇ナ

ル奮戦ノ功ニ歸シ直ニ休憩スルヲ許シタ、恰モ城外ニハ勇マシキ軍歌カ起ル、神ニ謝スルノ讚美歌カ唱ヘラレル、斯クシテ、瑞雲ハ群集ヲ蔽ヒ、光輝アル戦勝ノ榮冠ハ劣勢ナル大王軍ニ授ケラレタ、

此ノ戦闘ハロースバッハ(Rosbach)ノ戦闘ト共ニ全般ニ至大ナル影響ヲ及ホシタノテアル、曩ニ九萬ノ大軍ヲ提ケテ意氣揚々トシテシレジアニ進入シタル奥軍ハ今ヤ僅カニ其ノ四分ノ一ノ敗殘兵ヲ連レテ、其ノ本國ニ不名譽ナル退軍ヲ爲スノ悲況ニ陥ツタノハ、奥軍ノ爲メニハ大ナル損失テアル、ブレスラウ(Breslau)要塞ハ同月十九日ニ一戦ヲ交ユルコトナクシテ再ヒ普軍ノ領有ニ歸シ、同月二十八日ニハリーグニッツ(Liegnitz)ノ奥軍モ撤退シタ、斯クテ只タシユワイドニッツ(Schweidnitz)要塞ヲ除クノ外ハシレジアノ地ニ奥兵ノ影ヲ留メサルニ至ツタノテアル、前述セルロースバッハ(Rosbach)ノ戦闘ハ攻勢防禦ヲ以テ二倍以上ノ連合軍ヲ撃破シ、今回ノロイテン(Leuthen)ノ戦闘ハ攻撃ヲ以テ同シク二倍ノ奥軍ヲ潰走セシメタ、此ノ事實ヲ研究的ニ觀察セハ、多クノ教訓ヲ得ヘシト信ス、依リテ前已ニ一言シタ如ク先ツ諸彦ノ名論卓説ヲ承ハラシカ爲メ、次ノ問題ヲ提出シタ次第テアル、篇

學ナル讀者諸君幸ヒニ一筆ノ勞ヲ惜ムナカラシコトヲ、

#### 懸賞問題(提出期限七月十日)

ロースバッハ(Rosbach)附近ノ戦闘及ヒロイテン(Leuthen)附近ノ戦闘ニ依リテ得タル教訓

五 ツォルンドルフ (Zorndorf) 附近ノ戰鬪(普軍對露軍ノ

戰鬪、一七五八年八月二十五日)

戰鬪前ノ概況第五號ニ添附セル七年戰一般圖(參照)

已ニ述ヘタル如ク大王ハローズバッハ (Roszbach) 及ヒロイテン (Leuthen) ノ戰鬪ニ於テ何レモ二倍以上ノ敵ニ對シ一ハ攻勢防禦ヲ以テ、他ハ攻撃ヲ以テ見事ニ戰勝ヲ獲得シ、敵ヲシテ顔色ナカラシメタ、然ルニ敵國側ニ於テハ衆ヲ頼ミテ敢テ屈セサルノミナラス普國ニ對スル四面楚歌ノ聲ハ日ニ増シ加ハリツツアル、今ヤ精銳ナル大王ノ軍モ幾回ノ激戰ニ著シク損傷シ、軍資モ亦タ空乏ニ傾キツツアル、之ニ反シ敵ハ烏合ノ衆ニ似タリトハ言ヘ、數ニ於テハ殆ント限リナク資力モ亦タ普國ノ孤立ニ比スレハ融通性ヲ有スルコト固ヨリ大差カアル、殊ニ犍猛ヲ以テ稱セラルル露ノ大軍トハ未タ全ク初試合モ濟マナイ、瑞典軍モ尙ホ大王ノ打撃ヨリ免カレテ居ル、新銳ナル埃ノ大軍ハベーメン州 (Röhmen) ヲ中心トシテ機ヲ窺

ヒツツアル、佛ノ大軍モ尙ホハンノーバー州(Hannover)ニ在リテ東進ヲ企圖シツツアル思フテ茲ニ到レハ大王ノ將來モ光明ハ認ムルノ見込カ立タヌ様テアル、其奮闘努力ハ恰モ「燒石ニ水」ノ如キ有様テ、戦ヒ勝ツテ志氣却テ阻喪セサルヲ得ナイテハナイカ、而カモ此ノ難境ニ臨ミテ舉國益々興奮シ誓テ玉碎ヲ期セシメタルモノハ普國人民ノ不屈不撓ノ精神ト向上進取ノ氣象トニ因ルトハ云ヘ大王ノ威望亦タ與テ大ナルモノアリト信スル、

抑モ普國民ノ元氣ハ一八〇六年イェナ(Jena)ノ敗戦ニヨリテ一時其ノ沈衰ヲ暴露シタカ爾後却ツテ之カ反動的ニ俄然トシテ勃興シ、普墺戰役及ヒ普佛戰役ニヨリテ偉大ナル戰勝ヲ獲得シ爾來國運益々隆盛ニ向ヒ殆ント歐洲ニ覇ヲ唱フルニ至ツタ、而カモ其ノ隆盛ハ他強國ノ危機ヲ加ヘ遂ニ昨年夏大爆發ト爲リ英、佛、露ノ三大強國、近クハ伊太利モ亦タ大軍ヲ舉ケテ一獨國ヲ袋叩キニセント焦心セルニ拘ハラス、却テ自カラ手ヲ燒イテ居ル様ナ有様デアアル、其奮闘振リハ敵ナカラ天晴レト云フヘキテハナイカ、獨國騎兵大將ベルンハルデールナル人ハ歐洲戰爭ノ開始ニ先タツ數年、獨逸ト次ノ戰爭ト題スル著書ヲ公ニシタ、其内容

ノ要ハ次ノ通りテアル

凡ソ人類ハ生理上、戰爭ヲ必要トスル、戰爭ナケレハ人類ハ滅亡スル、故ニ戰爭ハ善ナリ、國家ニハ戰爭ノ權利モアリ又タ戰爭ノ義務モ持ツテ居ル、交戦ノ場合ニ於テハ國際條約等ノ拘束ニ服スル如キハ却ツテ危機ヲ醸スコトアリ、故ニ獨逸ハ其ノ手段ノ如何ニ拘ハラス斷シテ開戦シ、窮局迄遂行セネハナラス、獨逸ノ將來ハ世界ヲ支配スルカ或ハ滅亡スルカノ二途アルノミ、今ヤ開戦ノ好機テアル、露國海軍ハ再興セラレテ居ラス、佛軍ハ未タ完備セラレテ居ラス、故ニ開戦ハ速カナルヲ要ス、露軍ハ動員遲緩ナリ、故ニ先ツ佛軍ヲ一蹴シタル後、露軍ヲ粉粹スヘシ、英ノ海軍ハ優勢ナリ、故ニ水雷、潛航艇ノ奇襲ニ依テ其ノ勢力ヲ殺キタル後、大舉シテ之ヲ殲滅スヘキテアル、

其ノ言聊カ過激、露骨ニ失シ、批難ハ固ヨリ多カルヘキモ、現今世界ノ真相ハ之ニ遠サカルコト幾何ソ、獨國ノ強味モ、舉國一致モ此ノ突飛的ナル數句ノ内ニ含まレアルノテアル、翻テ吾人ノ覺悟ニ願ミヨ、獨軍ノ前ニ常ニ苦戦ト失敗トヲ重ネツツアル露軍ニ勝ツタトテ、日本軍ハ敢テ其ノ強味ヲ自慢スル譯ニハ行クマイ、



須ラク吾人ハ層一層有形無形ノ研究ヲ向上スルコトヲ自覺シナケレハナラス、フリードリヒ大王ノ精銳無比ノ軍ハ四十年ノ後ニハ佛軍ニ對シイェナ(Tena)ニ哀ムヘキ敗ヲ取ツタ、歐洲全土ヲ風靡シタ奈翁軍ハ五十年ノ後チ普國軍ノ爲メニ大打撃ヲ受ケタ、驕ルモノ久シカラス、以テ吾人ノ戒トナサナケレハナラス、話ハ少シ横道ニ入ツタカ本情況ニ立戻ロウ、一七五七年露將アブラキシン(Abrams)ハ五萬五千ノ兵ト二百六十門ノ砲トヲ率ヒテ東普露西ニ進入シ普將レーワルド(Lehwald)ノ指揮セル二萬五千ノ兵ト五十五門ノ砲ヲ有スル劣勢軍ヲ壓迫シタカ、露軍ノ特性トシテ其ノ行動頗ル緩慢ナリシ爲メ敢テ急追スルコトナク、徒ラニ深入ヲ危険ナリトシ再來ヲ期シテ九月末、一時自國ニ退却シタ、ソコテ大王ハ暫時露軍ノ攻撃ヲ避ケ得ヘシト判斷シ先ツレーワルド(Lehwald)ヲ西方ステッタン(Stettin) Berlin 東北百三十吉米 Oder 河口ニ招致シタ、瑞典軍モ亦タ普軍ヲ討ツヘクオーデル(Oder)河口附近ヨリ前進中ニシテ十月下旬伯林北方約百五十吉米ノ地點ニ到達シタ、元來瑞典軍ノ目的ハハンノーバー(Hannover)方面ヨリ前進中ナルリセリユー(Richelieu)ト合シテ伯林ニ向ヒ前進スル

ニ在ツタカ恰モロースバッハ(Rosbach)會戰ノ敗報到レルニ及ヒテ前進ヲ停止シタ、間モナク、普ノレーワルド(Lehwald)カ東普露西方面ヨリ近接シ來ルヲ知ルヤ遠クオーデル(Oder)河ノ西北方半島ノ突角迄テ退却シタ、

佛ノリセリユー(Richelieu)ハ普軍ノ一部隊ノ爲メアルレル(Aller)河(Hannover)州中 Braunschweig 附近ヲ北流スノ西岸ニ壓迫セラレタ、

此間普王ハ一度埃國ト媾和ノ談判ヲ開始シヨウトシタカ不調ニ歸シタ、從ヒテ戰爭ハ更ニ長ク繼續セラルルコトトナツタ、

大王ハ乃チ孜々トシテ軍備ノ充實ニ努力シタカ其困難ハ一ト通りテナカツタ、軍隊内ニハ埃軍ヤ瑞軍ノ俘虜ヲモ加ヘ、又タ敵國ノ俘虜トナリテ歸還シタモノヲモ交エ、有ラユル手段ヲ廻ラシタカ結局其ノ所要數タル十四萬二千ノ兵員ヲ充タスヲ得ナカツタ、

士官學校教程ニ戰鬪ノ勝敗ニ關シテ次ノ様ニ述ヘラレテオル、

「戰鬪ノ勝敗ハ軍隊ノ精粗、志氣ノ振否、指揮ノ巧拙、兵力ノ多寡、地形、天候、時刻ノ適否及豫期スヘカラサル事變等ニ關スルモノトス、

彼我兵力ノ比例ハ戰鬪ノ結果ニ影響ヲ與フルコト固ヨリ大ナリ云々」  
 大王ハ能ク寡兵ヲ提ケテ二倍三倍ノ衆兵ヲ擊破シタカ、其ノ損傷ノ補充カ充分  
 テナカツタナラハ、終ニハ不利ノ戰ヲ交ユル時期ノ來タルヘキコトハ殆ント明  
 カテアル、故ニ兵力ノ充實ニ就テハ平時ヨリ特ニ注意シテ置カネハナラヌ、現今  
 ノ大戰爭ニ於テ諸君ハ彼我ノ兵力比例カ如何ナル状態ニ在ルカヲ知ツテオラ  
 レルテアローガ、世人ハ一般ニ獨逸軍カ兵力上著シク少數ナルカノ感ヲ抱ケル  
 モノカ少ナクナイ様タ、然シ最近ノ取調ニ依レハ西方戰場ニ於テハ單ニ一割位  
 ノ少數ニ過キナイ、又タ東方戰場ニ於テハ獨逸對露軍ノ兵力ハ寧ロ露軍カ劣勢  
 テアル、今ヤ伊太利軍ニ對シテモ獨逸共ニ數十萬ノ大軍ヲ盛ニ其ノ國ノ中心カ  
 ラ輸送中デアアル、連合各強國ノ人口ト資力トハ獨逸ノ夫レニ比シ、其ノ差雲泥モ  
 管ナラサルニ、其ノ戰場ニ運用シ得ル兵力ニ大差カナイノハ歸スル所、平時ニ於  
 ケル準備ニ大ナル差異カアツタカラテアル、翻テ我邦ノ軍備カ果シテ完備シア  
 リヤ否ヤニ想到セヨ、識者ヨリ之ヲ觀レハ懸念ニ堪エナイコトカ澤山アル、一寸  
 皮想ノ觀察テハアルカ、人口ニ於テ我國ト大差ナキ獨逸ノ平時師團數ハ約五十

個ナルニ、我カ師團數ハ僅ニ十九個デアアル、數年來ノ政變ヲ惹起シタ結果、本年辛  
 ウシテ二師團ノ増設トナリ二十一個ト爲ラントスル有様デアアル、獨逸ノ現首相  
 ハ往年軍備擴張演說ヲ爲シタカ、其ノ中ニ「古來軍備ヲ擴張シテ滅亡シタル國ハ  
 ナイ」ト喝破シ大喝采ヲ得タ、ソシテ擴張案ハ異議ナク通過シタノデアアル、然シ兵  
 備ノ増減ノ如キハ吾人ノ關スル所テナイ、寡勢ヲ補フ手段ハ教程ニ示サレアル  
 他ノ戰勝ノ要素ニ俟タナケレハナラヌ、然ラハ吾人ノ責務ハ一層重ク且ツ大ナ  
 リト謂ハナケレハナラヌ、

明クレハ一七五八年ノ春、寒氣ニ慣レタ露軍ハ更ニフヘルモール (Fernor) ヲ指揮官  
 トシテ防備ナキ東普露西ニ進入シ一月末ニハ其ノ舊都ケーニグスヘルグ (Königs-  
 berg) ヲ占領シタ、

當時瑞典軍ハ尙ホ北方海岸ニ近ク離隔シテ位置シ佛軍ハハンノーバー (Hanover)  
 州ヨリ普軍ノ一部隊ノ爲メ西方ニ壓迫セラレ又タダウン (Dain) ノ指揮スル優勢  
 ナル埃軍ハブーメン (Böhmen) 州ニ位置シテオル、

右ノ大勢ニ於テシレシア (Schlesien) 州ニ在ル大王ハ如何ニ作戰ヲ計畫スヘキテア

大王ハ敵ノ遠ク分離シアルニ乗シテ是レヲ各個ニ撃破スルノ策ヲ取ツタ、之カ爲メニハ先ツ手近カニ在ル埃軍ヲ破ルヲ得策トスルカ如シ然レトモ大王ハ埃軍ノ現状ニ鑑ミテ更ニ一考シタ、曰ク埃軍ハ普軍ノ銳鋒ヲ避ケテ、恐ラク維納迄モ退却スル虞カアル、此ノ場合ニ於テ遠ク之ヲ追撃スルハ大ナル危険カ伴フ蓋シ敵ハ所在、我カ背後ヲ脅威スヘキニヨリ、多クノ掩護隊ヲ後方ニ殘置シナケレハナラヌ、從ヒテ、サラテタニ寡少ナル第一線ノ兵力ヲ更ニ著シク減スルニ至ラハ到底失敗ヲ免レヌカラテアル、

「凡ソ軍ヲ遣ルコト百里ナレバ其ノ兵減スルコト三分ノ一乃至二分ノ一ナルハ軍旅ノ常勢ナリ」トハ古ノ兵家ノ唱道セル所テ、奈翁ハ一八〇五年二十萬ノ大軍ヲ率ヒテライン(Rhein)河ヲ渡リタルニ、約二百五十里ノ行軍ノ後ブリュン(Briinn)ニ到著シタ兵力ハ六萬ニ充タナカツタ、而カモ途中テハ別ニ大戦ヲ交エナカツタノテアル、又ター一八一二年四十五萬ノ大軍ヲ以テウワイクセル(Weichsel)河畔ヲ發セル奈翁軍ハ三百五、六十里ノモスコロー(Moskau)ニ達シタルトキ已ニ十萬

ノ數ヲ算スルコトカ出來ナカツタ、故ニ寡勢ヲ以テ衆敵ヲ破ラントスル我國軍カ懸軍萬里何處迄モ深入スルコトハ有利テアルマイ、然ラハ如何ニスレハ適當テアルカハ國軍作戦ノ最モ重要ナル方針テナクテハナラヌ諸君ハ如何ナル考案ヲ有セラルルカ是レ大局ノ著眼上諸君ノ爲メ、將來ノ覺悟ノ上ニ無益ナ研究テハナイト思フ、

大王ハ斯ノ如キ判斷ノ下ニ次ノ如ク決心シタ、

軍ハ敵ノ不意ニ乗シメーレン(Mähren)州(一般圖ノ東南側ニ侵入シオルミュッツ(Olmütz)一般圖東南ノ隅角ニ在リ)ヲ攻圍セントス、

蓋シオルミュッツ(Olmütz)ハ埃國ノ爲メニハ一ノ戰略要點テアル、故ニペーメン(Böhmen)州ニ在ルダウン(Daun)ハ之ヲ袖手傍觀スルコトカ出來マイ、必ス解圍ノ爲ニ近接シテ來ルテアロウ、此ノ機ニ乗シテ之ヲ撃破スルノ手段ニ出テ少クモ一時活動スルノ能力ナカラシメントスルニ在ツタ、然シダウン(Daun)ニシテ若シ此計略ニ乘ラナカツタナラハオルミュッツ(Olmütz)ヲ占領シテ此ノ方面ニ埃軍ノ注意ヲ牽キ、時日ノ餘裕ヲ得、以テ露軍ヲ撃破シヨウトシタノテアル、此ノ計畫ハ果シテ成

功シタテアロウカ、

於是大王ハ九萬八千ノ兵ヲ本軍トシテシレシア(Schlesien)ニ集合シ別ニ各二萬餘ヨリナル小軍二個ヲ編成シテ瑞軍、露軍等ニ對シテ本軍ノ側背掩護ニ任セシメタ然ルニダウン(Daun)ハ敢テ之カ解圍ヲ試ムルノ意思ナク、半歩ヲ以テ遠廻シニ行動スルノミ埃國政府カラ攻撃ノ督促ヲ受ケテモ一向ニ進マナイ却ツテ遠ク其背後連絡線上ニ進出シテ普軍ノ彈藥ノ輸送ヲ妨害スルノ策ニ出テタ、大王ノ爲メニハ、最モ苦痛テアル、若シダウン(Daun)カ自己ノ力ノ足ラサルヲ信シ露、瑞軍ト合シテ之ヲ擊破スルノ策ニ出テタモノトセハ、此ノ持久戰ノ方法ハ寧ロ當ヲ得タルモノテアル、然シ彼ノ爾後ノ行動ニ徵スレハ、其ノ眞意カ必シモ茲ニ在ツタノテハナカツタ様ニ思ハレル、

大王ハオオルミュツツ(Olmütz)ヲ圍ムコト已ニ四ヶ月其ノ間、種々ノ計略ヲ廻ラシタカダウン(Daun)ハ眞面目ニ迫ツテ來ナイ、大王ハ焦心禁スル能ハサルモ策ノ施スヘキナキニ至ツタ、今ヤ普軍ハ安閑トシテ攻圍ヲ續ケテオル暇ハナイ、乃チ大王ハ遺憾ナカラ、解キ八月上旬ヲ以テシレシア(Schlesien)州ニ戻ツテ來タ、斯ノ如ク

シテ一七五八年ノ春期ハ大王ノ豫期ニ相違シ、寧ロ失敗ニ終ツタノテアル、

當時連合軍ハサクセン(Sachsen)ニ獨埃軍アリ、北方ニハ露軍、瑞軍アリ、ベーメン(Böhmen)ニハダウン(Daun)ノ埃軍アリ、南部シレシアニド・ウヰル(de-Ville)ノ指揮スル埃軍アリ、國步轉タ困難ノ至リテアル、

大王ハ長時日ノ行動ニ疲勞ノ色ヲモ表ハサス、直ニ第二ノ策ヲ定メ、長驅露軍ヲ討ツヘク決シタ、ソコテ其ノ軍ノ大部ヲカール(Karl)ニ委ネ、八月十一日ヲ以テ歩兵十四大隊騎兵二十八中隊ヲ率ヒテ陰カニ北ニ向ツテ進發シタ、其ノ絶エサル努力ハ以テ範トスヘキテアル、諸君單ニ大王ノ壯快ナル活動ニノミ憧憬スルコトナク、其ノ國運危急ニ迫レル間ニ處スル苦衷ノ如何ニ大ナルカニモ想到セラレヨ、

### 戰鬪直前ノ狀況

露將フェルモール(Fernor)ハ東普露西ニ進入後、武器彈藥糧秣等ノ軍需品ヲ充分ニ徵發シタ後、五月中旬ニ西進ヲ開始シ、所在掠奪ヲ逞ウシツツ八月十五日ランツベルグ(Landsberg)伯林東方百二十吉米附近ニテウワルテ(Warthe)河ヲ南ニ渡リキ

ユストリン (Küstlin) 要塞、伯林東方八十吉米ヲ攻撃シタカ、微弱ナル守兵ノ爲メニ拒止セラレ、四萬四千ノ大兵ヲ擁シテ、膽甲斐ナクモ相對峙シテオツタ、先是普將ドーナ (Dohna) ノ指揮スル一小軍ハオーデル (Oder) 河口ノ西北方ニ於テ瑞典軍ヲ拒止シツツ、アツタカ露軍ノオーデル (Oder) 河畔ニ來進セル爲メ、伯林掩護ノ目的ヲ以テ七月十七日軍ヲ回ヘシテ、フランケンフルト (Frankfurt) 伯林東南八十吉米ニ移ツタ、瑞典軍ハ之ニ尾シテステッテン (Stettin) (Oder 河口) 西南方ニ迄テ前進シテ來タ、又タダウン (Dahn) ハ大王カオルミッツ (Olmütz) ノ圍ミヲ解キテ北方ニ退却スルヤ捷路ヲ經テ北進シ、ゲルリッツ (Görlitz) (伯林東南二百吉米) 迄テハ頗ル活潑ニ前進ヲシタカ、爾後躊躇逡巡シテ一向ニ進ム模様カナイ、斯ノ如クシテ互ニ危險界内ニ進入スルヲ避ケ、獨リ露軍ヲ危地ニ陥レツツアル、

連合軍ノ弱點ハ正ニ茲ニ在ル、互ニ危險物ニハ近寄ラスシテ他軍ノ動作ヲ待タントスルノテアル、協力一致モ或ル程度以上ニハ望ミ難イ、故ニ各個擊破ノ機會カ多ク生シ易イ、古往今來、連合軍ノ價值カ其ノ數ニ比シテ常ニ不成績テアルノハ、一ニ此ノ弱點カアルカラテアル、吾人ハ將來、連合ノ敵ニ對シテハ單ニ一般ノ

戰術ノミニ拘泥スルコトナク、此ノ弱點ヲ利用スルコトニ注意スルコトカ肝要テアル、又タ反對ニ連合軍トシテ動作スルヲ要スル場合ニハ其ノ弱點ニ乗セラレヌ様ニ工夫ヲシナケレハナラス、此ノ著眼ニ就テハ奈翁戰史ノ研究ニ當リテ多クノ適例ヲ見出スコトカ出來ルカラ茲ニハ是ニ止メテ置ク、

連合軍ノ逡巡ニ依リ大王ハ八月二十一日ヲ以テキユストリン (Küstlin) 要塞ノ北方オーデル (Oder) 河ノ下流ニ於テ無事ニドーナ (Dohna) ノ軍ト合シ茲ニ三萬六千ノ兵ヲ算スルヲ得ルニ至ツタ、以下戰鬪圖中ノ一般參照)

大王ハ乃チシュウハット (Schwedt) (圖ノ西北端) 附近ニテオーデル (Oder) 河ヲ右岸ニ渡リ以テ露軍ヲオーデル (Oder) 河トウワルテ (Warthe) 河トノ中間ニ於テキユストリン (Küstlin) 要塞ニ向ツテ壓迫セントシタ、

之ニ對シ露將フェルモール (Fearnor) ハ一般圖ニ赤標ヲ附シアル如ク、ミーツェル (Mietzel) 河ノ南方ニ北面シテ陣地ヲ占領シタ、此ノ陣地ハ其ノ正面ハ沼澤地テアツテ敵前ニ於ケル通過ハ殆ント不可能テアル、知ラス大王ハ如何ニシテ此ノ堅固ナル陣地ト優勢ナル敵トニ對シ勝利ヲ導カントスルカ、

## 戰鬪ノ情況(戰鬪圖參照)

大王ハ親ラ露軍ノ陣地ヲ視察シ得意ノ大迂回ヲ試ムルニ決シタ、乃チノイダンメ  
ルミューレ (Neudammer Mühle) (戰鬪圖其一北端) 及ヒ其ノ東北方ケルステンブリュッ  
ケ (Kerstenbrücke) (一般圖參照附近ニテミーツェル (Mietzel) 河東岸ニ渡リバツロウ  
(Batlow) (Neudammer Mühle 東南五吉米) ウイルケルスドルフ (Wilkersdorf) (Batlow) 西  
南四吉米) ヲ經テ其ノ西方ツォルンドルフ (Zorndorf) ニ向ヒ思ヒ切ツタ迂回ヲ爲シ  
タ、蓋シウイルケルスドルフ (Wilkersdorf) トグルツ山 (Grulz-B) トノ間ニハ斷續セル  
多クノ池沼カアルカラ露軍ノ側面ニ對シテ直接ニ迫ルコトカ出來ナカツタカラ  
テアル、

大王ノ大迂回ハ恰モ義經ノ鴨越ニ於ケルカ如ク、故障ナク實施セラレ、其ノ縱隊ノ  
先頭ハザーベルングルンド (Zauberggrund) ノ線ニ達シタ、乃チ普軍ハ一齊ニ右ニ旋  
回シ、全然露軍ノ背面ニ展開シタ、

露軍ノ驚キハ一方ヲハナカツタ、然シ今ヤ袋ノ鼠ノ如ク遁レル道モナイ、窮鼠猫ヲ

噛ムトラモ言フヘキカ露將フェルモール (Fermor) ハ急ニ陣地ヲ背轉シ從來ノ第  
二線ヲ以テ第一線トシ、騎兵及ヒ行李ヲ兩線ノ中間ニ配置シ、今ヤ免ルヘカラサル  
一戰ヲ交ユルニ決シタ、從テ露軍ハ自カラ背後ニ通過シ難キ障礙ヲ置キ、所謂期セ  
スシテ背水ノ陣ヲ取ルニ至ツタ、此ノ時ニ於ケル兩軍ノ配置ハ其一ニ示セル通り  
テアル、

於是大王ハガルゲングルンド (Galgen-Grund) ニ依リテ分離セラレアル露軍ノ右翼  
ニ向ヒ優勢ノ兵力ヲ使用シテ一舉ニ之ヲ壓倒シタル後、中央及ヒ左翼ヲ、西方カラ  
難キ倒チント決心シタ、之カ爲メ左翼ニ位置セルマントイフェル (Mantoufel) ノ指揮セ  
ル奮前衛(歩兵八大隊)ヲ第一線トシ之ニ三百歩ノ距離ヲ以テ重疊セルカニッツ (Ka-  
nitz) ノ指揮下ニ在ル部隊ヲ二線ニ區分シ其第一線ヲ歩兵九大隊、第二線ヲ歩兵六  
大隊トシ都合三戦列ニ配置シテザーベルングルンド (Zabern-Grund) トガルゲン  
グルンド (Galgen-Grund) トノ間ヨリ攻撃セシメドーナ (Dohna) ノ指揮スル部隊ハ第  
一線列ニ歩兵十一大隊、第二線列ニ歩兵四大隊ヲ配置シガルゲングルンド (Galgen-  
Grund) 東方ニ控置シ先ツ露軍ノ中央以東ニ對シテ右側ノ掩護ニ充テタ、又タサイ

ドリッツ (Solditz) ハ騎兵三十六中隊ヲ以テ最左側ヨリ敵ノ右側ヲ、又タシヨルレー  
 メル (Schorlemer) ハ騎兵二十七中隊ヲ率ヒテ敵ノ最左翼ヲ攻撃スヘクマルシヤル  
 (Marschall) ハ龍騎兵二十中隊ヲ以テ豫備ト爲リ左翼後ニ續行スヘク一般ノ部署ヲ  
 定メラレタ、

#### 戦闘第一期

戦闘ハ普軍ノ砲六十門ニ依リテ開始セラレタ露軍ノ左翼歩兵ハ此猛撃ニ損害ヲ  
 生シタ砲戰約二時間ノ後マントイフェル (Manteuffel) ハ機熟セリト見ルヤ其ノ左  
 翼ヨリ攻撃前進ヲ開始シタ張リツメタ普軍ハ大河ノ決スルカ如キ勢ヒテ突嗟ノ  
 間ニ敵前四十歩ノ距離ニ近イタ然シ露軍モ今ヤ背水ノ陣進ムモ退クモ死ハ一ツ  
 テアル從ヒテ中々頑強テアルノミナラス却テ其ノ優勢ヲ頼ミ銃槍ヲ振ツテマン  
 トイフェル (Manteuffel) ニ向ツテ逆襲ニ轉シタ爲メ茲ニ猛烈ナ接戰カ生シタ然ル  
 ニ普軍ハ其ノ八大隊ヲ以テ露ノ十六大隊ニ對スルノ苦境ニ在ツタ從ヒテ今ヤ此  
 ノ危機ハ普軍ノ側ニ在ル然ルニ普ノ右翼ニ連撃シテ居ツタドーナ (Dohna) ハ露軍

ノ左翼ヨリ包圍セラルルヲ顧慮シテ自カラ右方ニ斜行進ヲ爲シタノミナラス第  
 二線ニ在リシカニッツ (Kanitz) モ亦タ之ニ尾シテ右方ニ進出シガルグングルンド  
 (Galgen-Grund) ノ東側スタインブッシュ (Stein-Busch) ヲ通過シテ露軍ノ中堅タル二十四  
 大隊ノ歩兵ニ對シタ即チ全般ノ形勢ヲ觀察セハ普軍ハ今ヤ優勢ナル露軍ト正面  
 的ニ相對セルノミナラス露軍ハ漸次其ノ兩側ヲ張り出シ恐ルヘキ包圍動作ヲ試  
 ミ出シタ然ルニマントイフェル (Manteuffel) ハ惡戰苦闘ノ後其左翼ノ一部ハ遂ニ現  
 位置ヲ維持スルヲ得サルニ至リテ退却ヲ始メタ乃チ露ノ騎兵十四中隊ハ其ノ動  
 搖セル位置ニ突入シタ於是マントイフェル (Manteuffel) ノ部隊ハ全線動搖ヲ始メ奮  
 位置ニ退却スルノ已ムヲ得サルニ至ツタ此間最左翼ノサイドリッツ (Seidlitz) ハ露  
 軍ノ隙ニ乘シテザーベルングルンド (Zabern-Grund) ノ東岸ニ移リ豫備騎兵團ト協  
 カシテ露軍ノ右翼ニ向ヒテ逆襲シ茲ニ再ヒ慘烈ナル接戰ヲ生シタルモ結局之ヲ  
 撃退シ斯クテマントイフェル (Manteuffel) ハ危機一髪ノ間ニ救ハレタ然ルニ中央  
 ニ於ケルカニッツ (Kanitz) モ亦タ優勢ナル露軍ニ對シテ戰況面白カラス奮闘之レ  
 努メタニ拘ハラズ始ント舊位置迄擊退セラルルニ至ツタツマリ戦闘ノ第一期ハ

普軍攻勢ノ失敗ヲ以テ終ツタ、

サイドリッツ (Seidlitz) ノ襲撃ハ能クマントイフェル (Mantheyel) ノ危急ヲ救フタノ  
ミナラス軍全般ノ危機ヲ防キ以テ恢復攻撃ノ餘裕ヲ與ヘタル功績ハ拔群デア  
ル、我騎兵操典第二部第七十五會戰ノ結果不利ナルトキハ騎兵ハ全力ヲ擧ケテ  
他兵ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ要ス之カ爲メ斷然攻撃ヲ行ヒ特ニ追撃スル敵  
ノ側面ニ向ヒ之ヲ反覆スルヲ有利トス而シテ之ニ依リテ得タル時間ハ短少ナ  
リト雖屢々我カ軍敗滅ノ不幸ヲ免レシムルヲ得ヘシ此際騎兵ハ縱ヒ全滅ニ陥  
ルモ亦不朽ノ名譽ヲ博スルニ足ルモノトス〔ト古來此例ニ乏シクナイ、普佛戰爭  
中 [Vionville-Mars la Tour] ノ會戰ニ於テ普軍ヲ危地ニ救ヘルブレドール騎兵旅團ノ  
襲撃ノ如キハ著名ナルモノテアル、然シ騎兵ナル兵種ハ之カ指揮官ノ如何ニ依  
リテ特ニ其價值ヲ異ニスルコト到底他兵種ノ比テナイ、若シ指揮官ニ其人ヲ得  
ナカツタナラハ不完全極マル步兵ニ過キナイノテアル、將來ノ戰爭ニ騎兵ノ價  
値カ減スルナラントノ議論ヲスル人モアルカ、吾人ハ絶對ニ斯クハ信シナイ、殊  
ニ吾人ノ豫想スル戰場ニ於テ然リテアル、只タ其戰法ニ於テ又タ其ノ使用法ニ

於テハ物質的進歩ノ狀態ニ照シテ大ニ改良ノ必要カアル様ニ思考スル、其詳細  
ニ就テハ茲ニ論スル限リテハナイカ要スルニ、將來ハ速力ト持久力トニ於テ他  
兵種ニ對シ大ニ卓越セシムルコトニ主眼ヲ置ク必要カアロウト思フ、

戰鬪第二期(戰鬪圖其二參照)

普軍ノ不利ナル戰況ハ大王ヲシテ一驚ヲ喫セシメタ然シ勿論斯ノ如キ一時ノ頓  
挫ニ屈スル如キ普軍テハナカツタ、大王ハ此形勢ヲ恢復センカ爲ニ諸隊ヲ先ツツ  
オルンドルフ (Norndorf) 附近ニ集合ヲ命シタ然シマントイフェル (Mantheyel) ノ第  
一線タリシ八大隊ノ歩兵ハ今ヤ潰亂シテ直ニ使用スルヲ許サナイ、依テ大王ハ突  
嗟ノ間ニ次ノ如ク部署ヲ改メタ、

ドーナ (Dohna) ノ指揮スル歩兵十五大隊ハランゲルグランド (Langer-Grund) ニ沿  
フテ前進シシヨルレーメル (Schorlemer) ノ騎兵團ト協力シテ露軍ノ左翼ヲ擊破  
シ、後チ左方ニ旋回シテ中央ニ向ハシム、カニッツ (Kanitz) ハ南方ヨリ、サイドリッツ  
(Seidlitz) ハ西方ヨリ共ニ中央ニ向ツテ敵ヲ壓迫ス、



然ルニ露軍ハ普軍ノ攻撃再興ニ先ンシ二十七門ノ火炮ヲ以テ其ノ攻撃ヲ準備シ  
 恰モ普軍ノドーナ(Dohna)カ半ハ右方ランゲルグランド(Langer-Grund)ニ近寄ツタ  
 頃露軍ノデミク(Demik)ハ其ノ優勢ナル騎兵團ヲ以テ不意ニ普軍右翼ノ砲兵集團  
 歩兵ノ右側及ヒシヨルレーメル(Schorlemer)ノ騎兵團ニ向ツテ突進シテ來タ、此ノ  
 勇敢ナル露軍騎兵ノ襲撃ハ大ナル効果ヲ擧ケタ、普ノ砲兵團ハ爲メニ露軍ノ手ニ  
 歸シ歩兵ノ一部ハ包圍セラレテ降服スルニ至ツタ、然シ普軍歩兵ノ必死ノ射撃ニ  
 依リ辛ウシテ此ノ騎兵ヲ撃退シタ、次テ普軍ノ騎兵ハ之ヲ追撃シテチィル(Niicher)  
 以北ニ迄驅逐スルコトカ出來タ、

普軍ハ恢復攻撃ノ出鼻ヲ一步先キニ露軍ヨリ叩カレ、再ヒ攻撃動作ノ頓挫ヲ來タ  
 シタ、殊ニ普軍ノ左翼ハ最初ヨリ有利テナイ、攻撃ドコロカ、却テ全線動搖ヲ始メ、遂  
 ニウイェルケルスドルフ(Wilkensdorf)附近迄テ更ニ退却スルコトトナツタ、勇敢無比  
 ヲ以テ誇稱セル普軍モ終ニ露軍ノ莽猛ニ敵セヌノテアロウカ、曰ク然ラス、普軍ニ  
 ハ尙ホ名將サイドリッツ(Seiditz)ノ健在スルアリ、將軍ハ此ノ慘狀ヲ見テ、怒髮冠ヲ  
 衝イタ、號令一下其ノ騎兵團ハスタインブッシュ(Stein-Busch)ノ西方ヨリ露軍ノ猛烈ナ

ル歩砲火ヲ冒シテ勇進シ暴虎ノ如ク其ノ大群ノ内ニ突入シタ、恰モドーナ(Dohna)  
 ハ之ヲ見ルヤ急進シテ援助ニ努力シ、相協力シテ終ニ之ヲホーフブッフ(Hofe-  
 Bruch)及ヒ西北方ノクワルチェン(Quartschen)ニ撃退スルコトカ出來タ、斯クシテ  
 サイドリッツ(Seiditz)ノ勇戰ハ再ヒ普軍ヲ累卵ノ危キニ救フタ、然シ頑強ナル露軍ハ  
 尙ホ對岸ノ高地ニ停止シテ再ヒ抵抗ヲ試ミントスル模様カ見エル、

### 戰鬪第三期(戰鬪圖其三參照)

今ヤ數次ノ激戰ニ兩軍共ニ疲勞ハ甚タシイ、日ハ將ニ暮レナントスル頃、兩軍相對  
 シテ呼吸ヲ休メツツ、恰モ水入レノ状態テアル、目下勝敗ハ殆ント五分五分テ何レ  
 カ奇策ヲ出スカ、何レカ根氣強キカ、要スルニ來ラントスル戰機ハ正ニ所謂最後ノ  
 五分間ニ相當スヘキ秋テアル、

不屈不撓ナル大王ハ夜ニ入リテ更ニ第三ノ攻撃ヲ敢行セントシタ、彼ハ飽ク迄テ  
 攻撃ヲ以テ敵ヲ屈セントシタノテアル、操典ノ所謂再三、再四突撃ヲ繰リ返サント  
 シタノテアル、然ルニ此日ニ於ケル午前、午後ニ於ケル二回ノ激戰ニヨリ普軍ノ

騎兵ハ殆ント直ニ使用スルコトカ出来ナイ、依テフォルカーデ (Forcade) ヲシテ歩兵八乃至十大隊ヲ以テガルデルグレンド (Galgen-Grund) ヲ經テ東北面セル露軍ノ正面ヲ攻撃セシメカニッツ (Kanitz) ヲシテツォルンドルフ (Zorndorf) 方向ヨリ露軍ノ右側ヲ攻撃セシムヘク部署ヲ定メントシタ、然ルニカニッツ (Kanitz) ノ部下ハ此ノ動作ヲ不可能トシテ命ヲ拒ンタ、大王ノ部下トシテハ甚タ恥カシキ弱武者テアル固ヨリ悲惨ノ情況、隊伍ノ混亂等行動ヲ爲スノ至難ナリシコトハ明カテアルトハ云ヘ、實ニ功ヲ一篋ニ缺クノ危険ヲ醸サヌトハ限ラヌ、然シ大王モ亦タ之ヲ強ユルヲ得サル事情カアツタノデアロウ、依テ一般ニ夜襲ノ企圖ヲ中止シタ、

此夜普軍ハクワルチエン (Quartschen) 東方ヨリウイルクスドルフ (Wilkersdorf) 附近ニ亘ル間ニ露營シ、露軍ハツォルンドルフ (Zorndorf) ニ右翼ヲ托シガルデルグレンド (Galgen-Grund) ニ沿フテ其ノ陣地ヲ固守シテ居ツタ、

然レトモ露軍ノ狀況ハ甚タ危険ニ瀕シテ同會戰ニ參加セル四萬四千ノ内殘レルモノハ今ヤ二萬ニ充タサル悲惨ナ状態テアル、而カモ其ノ陣地ハ北面ヨリ南面トナリ次テ東北面ニ變スルノ餘儀ナキニ至リ背後ニハウワルテ (Warthe、オーデル

(Oder) ニツヘル (Mietzel) ノ三河アリテ唯一ノ渡河點タルキユストリン (Kinstlin) ノ普軍ニ依リテ遮斷セラレタルノテアル、於是露軍ハ愈々以テ囊中ノ鼠ト爲ツタ、即チ大王ノ包圍ノ目的ハ苦戰ナカラ達セラレタ譯テアルカ、普軍ハ其ノ損害コソ敵ニ比シテ僅少テアツテ現員尙ホ二萬二千ヲ有シテ居ルカ激戰ノ疲勞甚シク殊ニ彈藥ハ將ニ盡キントシ從ヒテ攻撃ノ續行ハ覺束ナキ状態テアル、知ラス、大王ハ此苦境ニ於テ如何ナル奇策カアル、進マンカ彈藥乏シキヲ奈何セン、退カンカ敵ノ蘇生スヘキヲ奈何セン、於是大王以爲ラク普軍ハ尙ホ攻撃ヲ續行スルモ露軍ノ降服スヘキ見込ハ疑ハシイ、ノミナラス若シ窮鼠的態度ニ出テラルルトキハ更ニ大ナル損害ヲ賭シテ敢行セナケレハナラヌ、而カモ他ノ強敵ハ四周ノ地ヨリ機ヲ窺ヒツツアル從ヒテ可及的戰鬪力ハ保存シテ置キタイ、斯ク相反スル利害ヲ考慮シタ結果、一策ヲ案出シタ、即チ敵ニ一條ノ逃路ヲ與ヘ以テ窮鼠ヲシテ遁走ニ便ナラシムルニ若カスト爲シタ、

大王ノ採ツタ策ハ一面ニ於テ妙案テアル勿論、戰鬪ノ目的ハ敵ヲ壓伏殲滅スルニ在ル、然シ此場合前後ノ事情ヲ熟慮セハ自カラモ亦タ相當ノ戰鬪力ヲ貯ヘテ

置カチケレハ爾後ノ重任ヲ果タスコトカ出來ナイ、日露戰爭ノ當時八月十日ノ旅順港外ノ海戰ヲ日本艦隊ハ爾後ノ重任ヲ顧慮シ過度ニ敵艦ニ逼迫スルコトヲ避ケタカ、日本海ノ海戰ハ即チ最後ノ決戰ヲアル、從テ絶對ノ勝利ヲ獲得スル爲メ思ヒ切ツテ敵艦ニ逼迫シタノテアル、

吾人ノ人ト議論スルニ當リテハ勿論理ノアル所ヲ爭フハ當然テアルカ相手カ已ニ受太刀トナツタ時ニハ之ニ一條ノ通路ヲ與ヘ、表面之ヲ窮迫スルコトナク實質ニ於テ勝ヲ得ル如ク、任向ケルヲ得策トスル場合カアル、議論ニ正當ナ理窟カアツテモ、過度ニ窮迫スルトキハ對手ハ感情上、無暗ニ反對シ所謂窮鼠ノ態度ニ出ツルコトカ少ナクナイ、要スルニ這般ノ消息ハ機ニ臨ミ、變ニ應シテ適當ニ駆引ヲ定メナケレハナラス、

乃チ大王ハ二十六日午後其ノ位置ヲ後方チツヘル(Nichel)ニ退ケタ、露軍ハ大王ノ豫想通り此逃路ニ依テ二十七日早朝ヨリツォルンドルフ(Zorndorf)ウイルケルスドルフ(Wilkersdorf)ヲ南方ニ迂回シクライン、カムミン(Kl. Kammin)ニ退却シ同所ニ堅固ナル陣地ヲ占領シタ、大王ハ直ニ之ニ尾シテ前進シタムセル(Tamsel)附近

ノ野營地ニ到リ八月三十日迄テ相對峙シテ居ツタカ三十一日ニ露將フェルモール(Fernor)ハドーナ(Dohna)ノ追撃ヲ受ケツツ東方二十九吉米ニ在ルランツベルヒ(Landsberg)ニ退却シ更ニ續テ北方ニ退却シタ、此戰敗ニ依リテフェルモール(Fernor)ハ内地ニ召還セラレ不名譽ナル汚名ヲ遺シタ、

大王ハ九月二日此ノ戰場ヲ去ツタ此間、瑞典軍及ヒダウン(Dain)ノ埃軍ハ埃國政府ヨリ伯林ニ向ヒ行動シテフェルモール(Fernor)ニ對スル普軍ヲ牽制スヘク要求シタ、然シ共ニ其ノ行動活潑ナラス結局瑞典軍ハ普軍一部隊ノ反撃ニ遭ヒテ北方ニ退却シ、ダウン(Dain)ハ伯林ニ向フテ危險ナリトシテ遠クドレスデン(Dresden)方面ニ轉進セル爲メ終ニ兵力牽制ノ目的ヲ達スルコトカ出來ナカツタ、是レ亦タ連合軍ノ頼ミ難イ一例テアル、

### 本戰役ニ關スル一、一ノ所見

此戰鬪ヨリ受クル教訓ハ少ナクナイカ多クハ前述ノロースバッハ(Rosbach)及ヒロイテン(Leuthen)ノ戰鬪ヨリ受クヘキ教訓ト合一シテ居ル、故ニ之カ意見ハ前述

二戰闘ニ關スル諸君ノ意見公表ノ際ニ譲リ茲ニハ單ニ二、三ノ所見ヲ述フルニ止メヨウト思フ、

七四

1. 露軍ハ大王軍ニ比シテ遙ニ優勢(二萬六千對四萬四千)テアツタニ拘ハラス陣地ヲ占領シテ守勢ニ立ツタノハ根本的ニ誤リテ已ニ其ノ精神ニ於テ敗者ノ地位ニ立ツテオル、

2. 然ラハ其ノ占領シタ陣地ハ如何、  
過度ニ堅固ナル陣地ハ敵之ヲ攻撃セスシテ迂回ヲ企圖スルニ至ル故ニ苟モ決戦ノ目的ヲ有シテ居ツタナラハ敵カ必ス之ヲ攻撃シテ來ル所ニ占メネハナラス、從ヒテ迂回シ得ル様ナ所ニ於テ過度ニ堅固ナ陣地ヲ占メルノハ適當テナイ露軍ハ正面側面共ニ堅固ヲ殆ント通過スヘカラサル地障ヲ有ツテ居ル從ツテ敵ノ迂回スル公算ハ大テアル然ラハ其ノ迂回中ノ不利ニ乘シ直ニ全力ヲ擧ケテ出撃スルノ覺悟ト用意カナクテハナラス、露軍ニ此ノ意思カナカツタノハ戰況カ之ヲ證明シテ居ル、即チ無事ニ敵ヲシテ全ク背後ニ迂回セシメ展開ヲ完了シテ堂々ト攻撃ヲ爲スノ餘裕ヲ與ヘタノミナラス、自カラ却

テ死地ニ陥ツタ、其ノ遲鈍サ加減ハ御話シニナラナイ、

3. 然シ露軍ノ強味ハ此ノ遲鈍ナ處ニ在ルコトヲ知ラネハナラス、優勢ノ兵ハ有ツテ居ツタニセヨ、又タ背水ノ陣ニ餘儀ナクサレタニセヨ、能ク精銳ナル大王軍ニ對シ屢々部分的逆襲迄テ敢行シ頑強ニ抵抗ヲ續ケ、サスカノ普軍ヲシテ一時恐慌ヲ起サシメタ遣リ口ハ、ロースバツハ(Rosbach)ニ於ケル佛奧連合軍ヤロイテン(Leuthen)ニ於ケル奧軍ニ比シテ出色カアル、

4. 微弱ナル守備兵ヲ有スル葺爾タルキユスリン(Kistlin)要塞ヲ四萬餘ノ大軍ヲ以テ攻略スルコトカ出來ナカツタ無能ノ露軍カ、防勢ニ立ツヤ斯ク迄大王軍ヲ惱マシタ、日露戰爭中モ露軍ノ陣地ニ對スル日本軍ノ攻撃ハ常ニ其ノ進捗思ハシクナカツタ事ハ御承知ノ事テアラウ、又タ現時ノ歐洲戰モ亦タ之ニ類スル如ク觀察セラルテアラウ、然ラハ露軍ハ其典令ニ攻勢ヲ主張スルコト本邦ノ夫レニ劣ラナイニ拘ハラス一般ノ國情民性ハ比較的攻勢ニ適セスシテ防勢ニ鞏強ナルヲ證セルモノト謂フヘキカ、驕テ吾人ノ國軍ハ如何、性急ニシテ事ニ激シ易キ所、露軍ニ正反對テ、此點ニ特長ト弱點トヲ包含シテ居

ル故ニ之ヲ率ユルニ良帥ヲ以テシ之ヲ導クニ勇將ヲ以テシタナラハ勢ニ乘シテ非常ナ攻勢力ヲ表ハス然シ悲惨ナル戰況ノ下ニ退却ヲ要スルカ如キ際ニハ志氣頓ニ阻喪シテ潰亂ニ陥リシ例ニ乏シクナイ唯我獨尊ハ禁物ヲアル彼ノ強處弱點ヲ知悉シテ能ク之ヲ利用シ有事ノ日ニ當リ十二分ノ力ヲ發揮セシメンニハ益々平時ノ修養研究カ必要テアル

懸賞問題「ロースバッハ(Rosbach)附近ノ戰鬪及ヒロイテン(Her-

then)附近ノ戰鬪ニ依リテ得タル教訓」ニ就テ

此ノ問題ニ對スル答案中左ノ三君ノ作業ヲ比較的優等ト認メ賞品ヲ贈與セリ

今澤生

大西生

竹尾生

左ニ三君ノ答案中ヨリ所見ヲ摘録シテ一般ニ紹介シヨウト思

フ、

今澤生

一 吾人ノ覺悟 普國ノ隆盛ハ諸國ノ嫉ム所ト爲リ其ノ攻撃ヲ受ケタルコトハ蓋シ己ムヲ得サル所ナルヘシ抑、盛者ノ嫉マルルハ範圍ノ大小ヲ問ハス常ニ見出シ得ル状態ナリ我國情ヲ達觀スルニ隆々タル國威ハ、ヤカテ諸外國ノ嫉ム所ト爲リ其ノ間ニ隙ノ生スルハ亦避クヘカラサル所ナルヘシ而カモ我國ハ協力シ得ルノ強國ヲ期待シ得ス故ニ我國民タルモノハ當時ノ普國ヲ思ヒ諸國ヲ敵トシ四面楚歌ノ間ニ從容トシテ是等ヲ一蹴シ去リ以テ覇ヲ世界ニ唱フル覺悟

ナカルヘカラス

評 盛者ノ嫉マレ易キハ個人關係ニ於テモ、國際關係ニ於テモ同様ナリ故ニ盛者ノ位置ニ在ルモノハ須ラク總テ舉措ニ注意シテ孤立ノ危險ニ陥ラサランコトニ注意スルコト必要ナリトス、即チ國際關係ニ於テハ、巧ニ政略ヲ運用シ常ニ自國ヲ優勝ノ地位ニ在ラシムルコト恰モビスマルク (Bismark) カ普國ヲシテ今日ノ隆盛ニ導キタル如クナルヘシ然シ政略ハ強力ナル軍備ノ伴フニアラスンハ其效果薄弱ナルハ明ラカナリ、而已ナラス同盟、中立等紙上ノ約束ハ決シテ確實ヲ豫期スルヲ得サルハ古往今來幾多ノ事實之ヲ證明セリ、故ニ吾人ハ獨力以テ大ニ敵ニ當ルノ確乎タル覺悟アルヲ要スヘク、從ヒテ日清戰役後ニ於ケルヨリハ更ニ臥薪嘗膽ノ必要切ナルモノアルヲ感セスンハアラス此際徒ラニ戰勝ニ酔ヒ、氣驕ルカ如キコトアラハ應報ハ忽チ到ルナラン、然ルニ現下ノ實情ハ果シテ此ノ趣旨ニ合シアリヤ否ヤ、

二

先制ノ利 劣勢軍ハ優勢軍ヲ敵トスルニ當リ内線ニ立タサルヘカラス而シテ其ノ必勝ノ要訣ハ先制ニ在リ若シ一步敵ニ後レナハ忽チ敵ニ包圍セラレン、

夫レ用兵ノ要訣ハ決勝點ニ敵ニ勝ル兵力ヲ使用スルニ在リ而シテ兵力ノ要素タル武器ハ諸國伯仲ノ間ニ在リ又我ニ大和魂アリトスルモ彼ニ例ヘハ獨逸魂ナルモノアラン或ハ「スラブ」魂ナルモノアラン、故ニ直ニ以テ侮ルヘカラス然ラハ兵力ノ優勢ハ兵力ノ衆多ニ在リ然リ而シテ劣勢軍ヲ以テ優勢軍ニ對シ優勢ヲ占メント欲セハ我カ全力ヲ以テ彼ヲ各個ニ撃ツニ在リ即チ先ヲ制スルニ在リ我軍國ノ士タルモノ普國ノ制先ニ鑑ミ斷乎トシテ先制ノ舉ニ出テンコトヲ平素須臾モ忘ルヘカラス然レトモ我國軍ヲ以テシテハ此クテモ尙ホ數ニ於テ敵ニ優ルコト能ハサルヘシ此ノ上ハ大和魂ニ信賴スヘキモノニシテ躊躇セハ刻一刻ニ深淵ニ沈ムコトヲ了解スヘシ、大王カスピーズ、リセリユー兩軍ノ合併ニ先チ各個ニ撃破セントシタルハ至當ノ決心ナリ而カモ各個ノ軍ト雖モ尙ホ大王麾下ノ全軍ニ優レリ然レトモ大王ノ決然前進シタルハ能ク我國情ニ適シタル作戰ナリ

評 劣勢軍ト雖モ必シモ内線ニ立タサルヘカラス、日露戰役ニ於テ我軍ハ常ニ劣勢ヲ以テ外線ニ立チ戰勝ヲ獲得セリ、

劣勢ヲ以テ優勢ヲ破ルノ要訣ハ各個擊破ヲ以テ大方針ト爲スニ在リト謂フモ過言ニアラサルヘシ、即チ廣義ニ於テハ政略上敵ヲ孤立セシメ或ハ他方面ニ其ノ國軍ヲ牽制セシメ、戰略上ニ於テハ敵ヲ分離セシメテ各個ニ擊破スヘク、戰術上ニ於テハ決勝點ニ優勢ノ兵ヲ集結シテ各個ニ擊破スル如キ是ナリ、然レトモ元來劣勢ノ軍ナルカ故ニ其ノ一部ノ向フ所ハ敵ニ比シテ遙ニ少數ナルヘク、其苦戰ノ甚シキモノアルハ自明ノ理ナリトス、而シテ若シ此ノ一部ニシテ過早ニ敗ルル如キコトアラハ結局戰勝ヲ得ルコト能ハサルノミナラス、敗戰ノ汚名ヲ受クルニ至ルヘシ、吾人ハ此ノ間ノ消息ニ鑑ミ益々研究ニ努力セサルヘカラス、

三 夜間ノ追撃ハ演練ヲ要ス 夜間追撃ノ困難ナルハ古今東西皆ナ然リ故ニ敗者ハ夜暗ヲ利用シテ退却セントスロースパ、ハヨリノ退却モ夜暗ノ恩惠ニ依リ實施スルヲ得タリ然レトモ夜間ノ追撃ノ困難ナルト同シク、退却運動モ混亂錯誤ヲ來シ易キハ勿論ナリ故ニ勝者ハ速ニ追撃ノ準備ヲ了シ戰勝ノ效果ヲ完ウセサルヘカラス是レ操典ニ成ルヘク速ニ敵ヲ追撃スヘシトアル所以ナラン、將

來夜間戰鬪益々多カラントスルニ當リ夜間ノ猛烈ナル追撃ヲ以テ不可能ナリトスルハ許ササル所ナリ

評 至當ノ說ナリ、吾人ノ敵ハ殊ニ退却ニ巧ミナリ、從ヒテ之ヲ捕ヘ殲滅的打撃ヲ與ヘンカ爲メニハ追撃ニ巧ミナラサルヘカラス、夜間ノ追撃ハ固ヨリ困難ナリト雖、敵ヲ捕ヘンカ爲メニハ絶對ニ必要ナリ、尙ホ日露戰役ニ於ケル露軍ハ常ニ夜暗ヲ利用シテ退却セルニ拘ハラズ、我軍ハ殆ント之ヲ追撃スルコト能ハサリキ、故ニ平素之カ演練ヲ積ミ上下共ニ充分ノ自信ヲ得置クコト緊要ナリ、又タ一面ニ於テハ夜間ニ於ケル直接追撃ノ困難ニシテ十分ノ效果ヲ得ルコト難キニ鑑ミ、實戰ニ於テハ情況ノ許ス限り間接(平行)追撃ニ依リテ敵ヲ遮斷スルコトニ努ムルヲ要ス、

## 大西生

一 敵情ヲ過大視スヘカラス 敵情ヲ過大視スルモノハ常ニ精神上ノ敗者タリ軍隊ノ志氣何ソ振ハン、過大視ストハ或ハ其ノ兵力ヲ或ハ其ノ能力ヲ著シク優勢ナルモノト誤斷セルモノニシテ最モ不利ナル精神上ノ敗因タリ、之レ平素能

ク訓練セラレタルカ或ハ平素武名赫々タル軍ニ對スルカ或ハ自己又ハ自己ノ軍隊ノ能力敵ニ劣ルト感シタル場合ニ指揮官ノ狐疑心ヨリ生ス

今連合軍側ニ於テハ平素ヨリ大王ノ軍隊ノ強力ヲ知得セル結果、毎ニ大王ノ軍ヲ過大視セリ是レ本戰役ニ於テ敵ノ最弱ナリシ一因タルヘシ(下略)

評 敵ヲ過大視スルノ敗因ヲ爲スト同時ニ敵ヲ過小視スルノ危險ナルコトヲ知ラサルヘカラス、要ハ知彼知己、慎重ニ計畫シ、而シテ後チ斷行スルニ在リ、

二 模範的騎兵指揮官 騎兵ハ敵情ノ搜索ト共ニ時機ヲ見テ本軍ノ戰鬪ニ參與スヘキモノトス

兩戰鬪ニ於ケル普軍騎兵指揮官ハ正シク其ノ人ヲ得タリ或ハサイドリツツ或ハチーレン共ニ好箇ノ指揮官タルヲ失ハス機ヲ見ルコト慧敏而カモ之ヲ決スルヤ果敢斷行目的ヲ達セスンハ已マサル所、實ニ賞讃ニ堪エス(中略)騎兵指揮官タランモノ其ノ精神ニ於テ大ニ彼ニ學フヘキモノ多カラン

評 騎兵ノ眞價ハ好機ニ投合シ、而カモ斷行ノ勇アル指揮官ヲ得テ發揮セラル、若シ之ヲ率ユルニ良帥ナクンハ騎兵ハ誠ニ不經濟ナル兵種タラン、サイドリツ

ツノ如キハツキルンドルフノ戰鬪ニ於テモ友軍ヲ危地ニ救ヒ、頽勢ヲ挽回セシメタルコトハ前已ニ述ヘタル所ナリ、此ノ良帥アリテ始メテ卓越ナル價値ヲ認メラルヘキナリ、

竹尾生

一 攻勢移轉ノ時機ハ漫然好機ヲ待ツカ如キコトナク計畫的ナルヲ要ス  
決戰防禦ノ不利トスル所ハ敵ノ束縛ヲ受ケ動作ノ自由ヲ失ヒ適時攻勢ニ轉スルノ困難ナルニ在リ攻勢ニ轉スヘキ好機ハ眞ニ一瞬時ニテモ之ヲ逸スレハ全ク受働ノ守勢ニ陥リ終始敵ノ行動ニ追隨シテ動作セサルヘカラサルニ至ルヘシ故ニ決戰防禦ニ際シテハ敵ノ行動地形等ヲ至當ニ判斷シ決戰ノ爲メ攻勢ニ轉スヘキ時機ヲ豫定シ萬難ヲ排シテ之ヲ敢行セサルヘカラスロースバハノ戰鬪ニ於ケル普軍カ守勢ニ立チナカラ攻者ノ特權タル先制ノ利ヲ獲得シタルハ至當ナル判斷ノ下ニ豫定シタル攻勢移轉ヲ敢行シタル結果ニ外ナラス  
ロイテンノ戰鬪ニ於テハ塙軍カ疑惑ノ裡ニ豫備隊ヲ以テ右翼ニ増加シ敵カ左翼ニ向フヤ復左翼ニ延伸シ一モ決戰ノ爲メニ準備ヲ整フルコトナク、却テ敵ニ



好餌ヲ與ヘ崩壞ノ端緒ヲ招キタルカ如キ漫然敵ノ行動ニ追隨シテ毎ニ機先ヲ敵ニ與ヘ勝利ヲ獲得スヘキ時機ヲ逸セルモノト謂フヘシ

評 着眼ハ可ナリ然レトモ攻勢移轉ノ時機ヲ豫定シテ之ヲ敢行スルヲ主義トスルハ一考ヲ要ス、即チ已ニ守勢ニ立テル以上ハ、或ル程度迄ハ敵ノ行動ニ依リテ處置スルコト蓋シ其ノ性質上、已ムヲ得サル所ナリトス、而シテ出撃ノ時機ハ步兵操典ニ示セル如ク「守兵ノ射撃ニ依リ敵ノ攻撃頓挫シタルトキ或ハ敵ノ過失ヲ發見シタルトキ」等ナルヘク、若シ乘スヘキ機會ナク敵兵最近距離ニ來リタルトキハ有ラン限リノ火器ヲ使用シテ敵ヲ震駭セシメ全線擧ケテ突出スヘキコトモ亦タ操典ノ示ス所ナリ、ローズバハニ於ケル大王ノ目的ハ、敵ヲシテ陣地前ヲ迂回セシメ、之ニ對シテ展開セル兵團ヲ以テ準備整ハサル敵ニ對シ遭遇戰ヲ試ミタルモノトモ見ルヲ得ヘク、之ヲ以テ防禦ノ本式ト解スヘカラス、從ヒテ出撃ノ時機ヲ具體的ニ豫定スル如キハ却テ自カラ束縛セラルル恐レアリ、要ハ常ニ攻勢移轉ナル感念ヲ戰鬪中常ニ腦裡ニ存スルニ在リ、

總評 諸君ノ答案ヲ見ルニ其ノ所見概ネ要ヲ得、青年將校ノ着眼トシテハ當ヲ得タルモノト信ス、

兩戰鬪共ニ其ノ訓練ノ良否指揮ノ巧拙ニ就テハ固ヨリ大差アリト雖、精神力ノ差異ニ至リテハ更ニ大ナルモノアリ、恐ラク勝敗ノ大因ヲ爲セルモノト信ス、故ニ吾人ノ第一ノ着眼ハ即チ精神の要素ノ絶大ナル威力アルニ在ラサルヘカラス、而シテ兩戰鬪ヲ其ノ形ノ上ヨリ觀察セハ、ロイテンニ於テハ塙軍ノ防勢ニ立チタル、出撃ノ時機ヲ誤レル、又タローズバハニ於テハ展開ノ時機ヲ誤レル皆ナ敗因ノ主ナルモノナリ、而シテ吾人カ其ノ戰鬪ノ跡ニ依リテ考フレハ、出撃ノ時機、展開ノ時機等ヲ發見スルコト甚タ容易ナルニ拘ハラズ、實戰ニ於テハ然カク容易ナラサル所以ニ鑑ミ、須ラク戰史ノ研究ニ依リ精神の修養ニ資スルト同時ニ戰略戰術ノ眞味ヲ窺フノ材タラシムルヲ要ス、

# 奈翁戰史

## 緒言

大奈翁ト言ヘハ三尺ノ童子モ尙ホ能ク其ノ名ヲ知ツテオウル、又タ彼ハ曠世ノ大偉人、不世出ノ大英傑テアルト云フコトハ中等ノ教育ヲ受ケタ者ハ皆ナ心得テオルコトト思フ、然シ彼ハ何故ニ偉イカト云フコト、又タ政治ニ、立法ニ、經濟財政ニ、將タ軍事ニ有ラユル方面ニ卓越セル大天才ヲ有ツテオツタト云フ事ヲ具體的ニ熟知シテオルモノハ幾人カアル、マコレーハ彼ヲ「天爲ノ怪物」ト稱シタ、スペンサーハ「飽クマテ有能ニシテ、飽クマテ大膽ナル軍人」ト呼ンタ、又タ史家ローヌハ「神ノ如キ洞察力ト人間以上ノ精氣トヲ以テ世ニ出テタ」ト評シタカ其ノ由テ來ル所ヲ窮メタ者ハ幾人カアル、蓋シ、彼ハ多方面ニ卓越セル大天才者テアルカラ、凡人ニハ之ヲ其ノ多方面ニ亘リテ充分ニ了解スルコトカ至難テアルカラテアロウ、

他ノ方面ハ暫ク不問ニ附スルトシテ、彼ノ軍事方面ノミニ就テ考テモ吾人ノ爲メ永世不變ノ原則ヤ千古不磨ノ教訓ヲ垂レ百年後ノ今日モ尙ホ金科玉條トシテ

學フヘキコトカ澤山アル、即チ單ニ此ノ軍事的見地ノミヨリ見テモ古往今來此ノ大奈翁ノ右ニ出ツルモノハ未タ一人モ出ナイ即チ吾人ノ爲メニハ兵學ノ宗師ト言フヘキ者テアル、然ルニ甚タ失敬ナ申シ分テハアルガ、此ノ兵學ノ宗師カ如何ナル原則、如何ナル教訓ヲ如何ニシテ吾人ニ示シタカヲ詳細ニ研究シタ將校諸君ハ幾人カアル、而已ナラス奈翁ハ何處ニ於テ如何ナル戰鬪ヲ爲シタカノ概念ヲモ知ツテ居ラレヌ方モ尠ナカラサル様ニ思ハレル、是レハ軍人ノ常識トシテモ一ト通リハ心得テ置テ良カロウト信スル、聞クナラク、歐洲方面ニ於テハ奈翁ニ關スル著書ハ既ニ數萬卷ノ多キニ上リ、尙ホ續々ト出版セラレツツアル、軍事的著書モ亦タ頗ル多數ニ上ツテオル、然ルニ我國ノ現狀ハ軍事以外ノ著書ハ近頃多少發表セラレツツアルカ、軍事専門ニ關シテハ僅ニ翻譯セラレタモノカ一、二アルノミ、以テ我軍事界ノ趨勢ニ就テ其ノ一般ヲ窮フニ足ルテハナイカ、依ツテ不肖淺識ノ身ヲ以テ覺束ナクモ研究ノ動機、導火タラントノ抱負ヲ有ツテ敢テ大膽ニモ秃筆ヲ呵スルニ決シタ次第テアル、

回顧スレハ千八百十三年奈翁ノ已ニ衰運ニ傾クヤ、歐洲各國ハ此ノ時コソト、一齊

ニ蜂起シテ之ヲ獨逸國ザクセンノ大都市タルライプチヒ(Leipzig)ニ擊破シ歐洲ノ自由戰ト稱シテ大得意ニナツタ、爾來正ニ一百年即チ千九百十三年ニハ此ノライプチヒ市ニ戰勝ノ大紀念塔カ恰モ當時ニ於ケル戰場ノ中心點ニ建設セラレタ、嚴トシテ雲間ニ聳ヘ、凜トシテ犯スヘカラサル此ノ大建物ハ確カニ國民ノ志氣ヲ興奮サセルニ相違ナイ、然シ是ヲ見タ佛國人モ亦タ其ノ神經ヲ亢奮セシムルコトテアロウ、

然ルニ此紀念祭典ノ祝酒未タ醒メサルニ當リ當時ニ讓ラサル歐洲ノ大亂カ起ツタ、自カラ第二ノ奈翁ヲ以テ任セルカイゼルカ大奈翁ヨリ小ナル理想ト、小ナル野心トヲ抱キテ、殆ント歐洲全土ヲ敵トシテ戰フコトトナツタ、而カモ當時ニ於ケル奈翁ノ敵テアツタ諸國ハ、皆ナ佛國ト盟約シテカイゼルノ敵トナツテオルノテアル、集散離合ハ浮世ノ常テハアルカ轉タ今昔ノ感ニ堪ユヌ、而シテ歐洲自由戰ノ第二ノ大紀念塔ハ是非トモ連合軍ノモノトシテ適當ノ地ニ建設セラレネハナラス、然シナカラ其ノ紀念塔ヲ大ナラシムルヲ得ルカ、小ナルモノニ甘ンセサルヘカラスアルカ、或ハ建設シ得サルニ終ルカハ、一ニ連合軍ノ一致健闘ノ如何ニ在ルノテア

ル、吾人ハ切ニカイゼルヲシテ之ヲ專有セシメサランコトヲ祈ルノテアル、予ハ目下ノ大亂ニ際シ、特ニ百年前ノ大奈翁ヲ想起スルノ好機ニ當リ、其ノ戰史ヲ研究スルノ機ヲ得タノハ最モ愉快ニ感スル所テアル、研究ノ次第ニ進ムニ伴ヒ、例ニ依リテ高見ヲ承ルノ機會カ屢アルト思フ、希クハ讀者諸君、微意ノ存スル所ヲ諒セラレ一臂ノ力ヲ添ヘラレ、以テ此ノ研究ヲシテ所謂虎ヲ描キテ猫ニ類スルノ譏ヲ免レシメラレンコトヲ、

## 一 千七百九十六年伊太利戰役

### 戰役前ノ概況千七百七十六年伊太利戰役一覽圖其一參照

奈翁ハ千七百六十九年風光明媚ナル地中海ノ樂園コルシカ島ニ呱呱ノ聲ヲ揚ケ、十六歳ノトキ士官學校ヲ卒業シテ砲兵少尉ニ任セラレタ、其ノ後佛國ノ大革命ト爲リ、國內恰モ亂麻ノ如ク紛糾シ、所謂脅嚇時代ヲ現出シタ、彼ハ此ノ機ニ際會シテ非凡ノ活動ヲ爲シ、革命政府ヲ累卵ノ危キニ救出シタ、即チ千七百九十三年ニハ砲兵司令官トシテトゥーロン(Toulon)ノ攻圍ニ偉勳ヲ奏シテ一躍陸軍少將ニ任セラレ

又タ千七百九十五年ニハ巴理ニ於ケル大暴動ヲ巧ミニ鎮定シテ、國內軍司令官ノ高職ニ補セラレ、翌千七百九十六年ニハ愈、伊太利ニ於テ將帥トシテ彼ノ眞價ヲ認めラルルニ至ツタノテアル、

伊太利ハ當時數多ノ小國ニ分離シテオツタ、例ヘハ北部伊太利ノミニテモグヌア(Genua)共和國、サルデーニア(Sardinia)王國、タイラント(Mailand)、パルマ(Parma)パネライン(Venetic)等ノ諸國カ分立シテオツタ、是等ハ互ニ多少利害關係ハ異ナツテオツタカ概シテ對佛同盟ニ加入シ、殊ニサルデーニア王國ノ如キハ兵力ヲ以テ埃國ト連合シタ、又タグヌア共和國ハ當時中立ノ態度ヲ取ツタカ、實力カ之ニ伴ハナカツタ爲メ或ハ英國艦隊ノ爲メニ中立ヲ犯サレ、或ハ佛、埃兩軍ノ戰場ト爲ツタ、

近ク歐洲ノ大戰ニ於テ列強ノ認メタル白耳義ノ中立モ獨軍ノ爲メニ蹂躪セラレタ、又タ日清戰役ニ於ケル朝鮮、日露戰役ニ於ケル滿洲ノ如キ皆ナ此ノグヌア國ト同一轍テアル、弱肉強食ノ世ノ中ニ武力ノ伴ハサル獨立國ハ危險千萬ヲ恰モ深淵ニ臨ンテオルカ如クテアルコトヲ知ルニ足ルノテアル、

千七百九十五年十一月シエーレル(Scherer)ノ指揮セル佛軍ハロアノ(Loano)(Genua)西

南六十吉米海岸附近ニ於テ埃伊ノ連合軍ヲ擊破シタカ、其ノ後、活動ヲ試ミナカツタ爲メ兩軍ハ海岸ニ近ク走レルアルペン (Alpen) 山脈ヲ挾ンテ相對峙スルニ至ツタ、而カモ時恰モ寒冷ノ季節ニ入ツタカラ自然ニ休戦ノ状態ト爲ツタ、

先是埃國ニ於テハロアノ (Loano) ノ敗報ニ接スルヤ大ニ憂慮シ、北方戰場ニ勇名ヲ轟カシタポーリユー (Beaulieu) 將軍ヲ新ニ伊太利軍司令官ト爲シ大軍ヲ授ケテ佛軍ヲ一舉ニ伊太利ヨリ掃蕩セシムヘク廟議ヲ定メタ、然ルニ時恰モ西寒ノ候デアリシ、佛軍ニハ疫病モ流行シテオル、其ノ軍需ニハ缺乏ヲ極メテオル等ノ事由ニ依リ、敢テ進攻ノ意思カナイモノト判斷シタ結果、大軍増發ノ議モ一時沙汰止ミトナリ、僅カニ數千ノ増援兵ヲ派遣シタニ過キヌ、又タネーブル (Nepesin) 國ノ如キハ一師團ノ兵力ヲ出シテ連合スルノ約束ヲシタカ、自國ノ位置カ南方ニ遠ク離レテオルノテ危険カ直接ニ迫ルコトハナカロウト信シ、言ヲ左右ニシテ約束ヲ嚴守セス、只タ馬二千頭ヲ送ツタノミテ形勢ヲ觀望シテオツタ、

佛軍モ一時埃軍ヲ擊破シタモノノ、給養ハ極メテ不充分テ、軍紀ハ紊亂ノ極ニ達シ志氣ハ爲メニ沮喪シタ、共和政府モ之ヲ知ツテハオルカ財帑空乏シテ如何ントモ

スルコトカ出來ナカツタ、

奈翁ハ當年僅ニ二十七歳ノ若輩テアツタカ、此ノ難局ヲ處理スヘク拔擢セラレ、一躍シテ伊太利軍司令官ノ重職ヲ授ケラレタノハ千七百九十六年三月テアツタ、彼ハ當年意中ノ美人タルヂョセフ<sup>ジョセフ</sup>ニ心ヲ奪ハレテオツタカ、軍司令官ニ就任後、強テ之ヲ娶リ三月九日ニ結婚式ヲ舉ケタ、其ノ鴛鴦ノ夢未タ醒メサルニ榮譽、武勳ノ念ニ驅ラレツツ十一日ヲ以テ斷然巴理ヲ見棄テタ、昔シ新田義貞ハ其ノ新婦ノ愛ニ溺レテ出征ノ期後ルルコト數個月ニ及ンタト傳ヘラレテオルカ、當時ノ奈翁ノ意氣込カ如何ニ旺盛テアツタカカ想察セラルルノテアル、

奈翁ハ三月下旬伊太利軍ノ所在地タルニッツア (Nizza) (Genoa 西南百五十吉米) ニ到着シ、前司令官シエーレル (Solerat) カラ詳細ノ申送ヲ受ケ、且ツ實況ヲ視タカ、其ノ意想外ナル慘況ニ一驚ヲ喫シ、更ニ非常手段ヲ取ルノ必要ヲ自覺シ、先ツ部下一般ニ對シテ有名ナ告諭ヲ下シタ、

我兵士等ヨ、今ヤ汝等ハ糧ナク、又タ衣無シ、共和國政府ハ汝等ニ負フ所大ナルモ國庫ハ甚シク窮乏シテ汝等ニ衣食ヲ給スルニ途ナシ、予ハ今來リテ汝等ヲ

般富豐饒ナル邦土ニ導カントス、富貴功名手ニ唾シテ取ルヘシ、汝等如何ソ勇  
戰セスシテ可ナランヤ、

奈翁ハ此ノ至難ノ局ニ處シ、志氣ヲ鼓舞シ、心機ヲ一轉セシムル爲メ、非常手段ト  
シテ掠奪ヲモ許シタノテアル、今日ハ社會ノ各方面カ進化シテ國際法ノ如キモ、  
八釜敷クナツテキタ、從ヒテ「掠奪差支ナシ」ト宣言スル如キハ固ヨリ許スヘキ限  
リテナイ、然シ文明ヲ以テ自任セル歐洲ノ基督教國民カ、現時ノ大戰ニ於テ如何  
ナル暴虐掠奪ノ行爲ヲ逞ウシツツアルカニ想到セハ、奈翁ノ取ツタ處置モ批難  
スルコトハ出來マイ、要スルニ時勢ニ鑑ミ、時ノ情況ニ應シ、甚タシク他ノ批難ヲ  
受ケサル範圍内ニ於テ志氣ヲ鼓舞スルノ方法、手段ヲ講スルハ、統帥ノ上カラ見  
テ、常ニ注意ヲ怠ツテハナラヌ要件テアル、殊ニ持久性ニ乏シク、冷熱急變ノ性ア  
ル我邦人ニ於テ然リテアル、

### 北部伊太利地勢ノ概説

名ニシ負フアルペン (Alpen) 山脉ハ伊太利半島ノ北縁ヲ半圓形ニ包圍シテオル、故

ニ伊太利平地ヨリ大陸ノ各方面ニ進出スルニハ峻難ナル山地ヲ僅少ナル道路ニ  
依リテ越ヘ得ルノミテアル、

伊太利半島ノ脊梁ヲ爲シテオルモノハ即チアペニン (Apennin) 山脉テアツテ、ゲ  
ヌア (Genua) カラ起リ南北ニ半島ヲ貫通ス、又タアルペン (Alpen) 山脉ハゲヌア (Gen-  
ua) ノ西南方カラ起リ、ゲヌア (Genua) 共和國トサルディニア (Sardinia) 王國トノ境界ヲ  
海岸ニ沿フテ西ニ延ヒ、次テ北方ニ屈折シ、北方ノ關門ヲ形成シテキル、

右兩山脉ノ接シテオル所、即チサボナ (Savona) 附近カラ北方ニ亘ル地域カ低地テ運  
動ニハ比較的便利テアル、又タ西方佛國トノ境界附近ノアルペン (Alpen) 山ハ漸次  
高度ヲ増シ、其ノ峻嶮ナルコト、ゲヌア (Genua) 附近ニ比シテ大ナル差カアル、

ポー (Po) 河ハ伊太利北部ノ平地ヲ西ヨリ東ニ貫流セル大河テアツテ、此ノ河孟ハ地  
味肥沃、大市街モ澤山ニ在ル、而シテ上流チーリン (Turin) (Sardinia 首府) 附近ニ於テハ  
河幅百四、五十米突、中流ピアチンザ (Piacenza) (Malland 東南六十吉米) 附近ニ於テハ約  
二百米突、ボルゴフォルテ (Borghoforte) (Mantua 南方) 附近ニ於テハ約三百米突ヲ有シ、作  
戰上ニハ障碍物テアル、而シテ左岸ノ支流ハアルペン (Alpen) ノ峻峰ヨリ流下スル

故皆ナ急流テアルカ、右岸ノモノハアペニン(Apeninien)山ヨリ來ルモノテ雨期以外ニハ急流トハナラヌ、

### 戰鬪直前ノ情況

奈翁カニツツア(Nizza)ニ到着シタ頃即チ三月下旬ニ於ケル兩軍ノ狀態ハ次ノ通りテアル、

佛軍

- ラハルプ(Laharpe) 師團
  - マツセナ(Massena) 師團
  - オージロー(Augereau) 師團
  - 騎兵團
  - セルリール(Serrurier) 師團
  - ガレッシオ(Garressio) 師團
  - アルベンガ(Albenga) 師團
  - サボナ(Savona) 師團
  - アルマンガ(Albenga) 師團
- 兵力步兵二萬五千  
騎兵二千五百計三萬人

### 砲 三十門

右ノ外ニツア(Nizza)以西トウロン(Toulon)西方百五十吉米附近ニ至ル海岸ノ監視及ヒ其ノ他ノ守備ノ爲メ二萬人ノ兵ヲ有セルモ、其ノ大部分ハ直ニ本戦ニ使用スルコトハ出來ナイ、尙ホケレルマン(Kellermann)ノ指揮スル一萬五千ノ軍ハサルディニア(Sardinia)西方ノ山脈ヲ占領シテ國境ノ守備ニ任シテオルカ、是レハ奈翁ノ指揮ニハ屬セス、

埃伊連合軍

- 一 二大團ニ分タレ次ノ如ク配置サレタ、
- 一 ポーリュエー(Beaulieu)ノ指揮スル埃軍
  - 步兵四師團
  - 騎兵三師團 計三萬人
  - 砲百四十門
- 二 コルリ(Coll)ノ指揮スルサルディニア(Sardinia)軍
  - 步兵三師團
  - アレクサンドリア(Alessandria) 軍
  - 及ヒ其ノ南方ニ亘リ廣地域ニ冬營中

騎兵一師團計二萬五千人チ<sup>バ</sup>(Cava) (Alessandria) 西南八十吉米附近  
砲六十門

右ノ外サル<sup>ディニア</sup>(Sardinia)ノ首府<sup>チーリン</sup>(Turin)ニハ約二萬ノ軍ヲ擁シテ西  
方ケル<sup>レルマン</sup>(Kellermann)ノ軍ニ對シテオル、

<sup>ボーリユ</sup>(Beaulieu)ト<sup>ホルリ</sup>(Colli)トノ間ニ於ケル指揮上ノ關係ハ別ニ確定的ノ  
約束ハナカツタツマリ協同作戰ヲ爲スト云フ漠然タル條約ニ過キナカツタ様ニ  
思ハレル、

先是、奈翁カ伊太利軍司令官ニ任セラレタ時、佛國政府ヨリ受ケタ其ノ訓令ハ隨分  
長イ説明的ノモノテアツタカ、今其ノ要旨ノミヲ摘録シヨウト思フ、

佛國ハ伊太利方面ニ於テハ二ツノ敵ヲ有ス、即チ<sup>埃軍</sup>及<sup>ヒサル</sup> <sup>ディニア</sup>(Sardinia)  
軍是レナリ、

埃國ハ頗ル資力ニ富ミ且ツ佛國トハ宿怨アリ、殊ニ先天的仇敵タル英國ト親  
密ノ關係ヲ保チ伊國ヲ強壓シ其勢侮ルヘカラサルモノアリ、故ニ貴官ハ先ツ  
同方面ニ在ル埃軍ヲ擊攘シテ是ヲサル<sup>ディニア</sup>(Sardinia)軍ト分離シ、之ト有利

ナル條約ヲ締結シ得ル如ク努力スルヲ要ス、

佛軍當時ノ實情ヲ顧ミレハ此訓令ノ遂行ハ決シテ容易ノコトテナイ、即チ兵力ヲ  
比較スレハ三萬ヲ以テ二倍ノ敵ニ對スルノ劣勢テアル、戰場ハ敵意ヲ有スル地方  
テアル、海上カラハ絶エス英國艦隊ノ脅威ヲ受ケル、其ノ上軍紀ハ紊亂シ、志氣ハ沮  
喪セル等、一トシテ不利ノ状態ナラサルハナシ、而カモ奈翁自カラハ僅ニ二十七歳  
ノ若將軍テ未タ威望、信用モ充分ニ備ハツテオラス、而已ナラス、歴戰ノ勳功アル年  
長ノ諸將ノ上ニ立チテ、之ヲ操縦、信服サセネハナラス、斯ク觀シ來ツタナラハ理論  
上、佛軍ニハ殆ント成算カ無イ様ニ思ハレル、然ルニ奈翁ハ喜ンテ其ノ任ニ就イタ  
ノテアル、彼ハ抑、如何ナル胸算ト確信トカアツテ此重任ヲ拜シタノテアロウカ、諸  
君此ノ難局ニ身ヲ投セル奈翁ト爲ツテ、如何ニ處スヘキヤヲ熟考セラレヨ、

奈翁ハ着任後、其ノ豫想以上ノ慘況ヲ目撃シテ一驚ヲ喫スルト同時ニ斯ク考ヘタ、  
諸將ノ中ニハ<sup>マゼナ</sup>(Massena)ヤ、<sup>オージロー</sup>(Augereau)ノ如キ勇者カアル、兵卒モ體  
力カ強クテ、戰鬪ニ慣レテオル、之ヲ此ノ悲境ニ陥ラシメタノハ、皆ナ前司令官シエ  
ーレル(Sclerer)ノ無能ニ因ルト爲シタ、ソコテ、奈翁ハ其ノ原因ヲ探究シ、嚴ニ經理事



務ヲ監督シテ大整理ヲ斷行シ、銀行業者ノ信用ヲ得テ軍隊ニ支拂フヘキ給料ヲ融通セシムル等、銳意改善ニ最大ノ努力ヲ盡シ、以テ短時日ノ間ニ驚クヘキ結果ヲ擧ケ、若々トシテ活氣カ漲ツテ來タ、今迄、疑問ノ裡ニ彼レノ手並ミヲ危フンテオツタ各將卒ハ漸次ニ新司令官ヲ信用シ、尊敬ノ度ヲ加ヘタノテアル、

奈翁カ徒ラニ大膽奇抜ナル行動ノミヲ得意トスルノヲナク、必ス先ツ細心周到ナル注意カ之ニ伴フテイタコトハ、此ノ一例ヲ以テモ知ルコトカ出來ル、モルトケ(Molke)將軍ノ所謂「熟慮斷行」ノ文字ハ奈翁ニモ適當ナル評語テアツテ、永世不變ノ教訓テアル、吾人ハ徒ラニ奈翁ノ大膽ナル行動ヲ以テ愉快トスルノミテナク、必ス細心ナル注意ノ伴ヘルコトヲ決シテ忘レテハナラス、若シ左モナクハ危険計ラレサルモノカアルカラテアル、

銳意内部ノ秩序ヲ整ヘツツアリシ奈翁ハ作戰上ニモ卓越ナル考案ヲ廻ラシ、結局攻勢作戰ノ基礎ノ下ニ次ノ如ク決定シタ、

#### 判決

佛軍ハ埃軍トサルディニア(Sardinia)軍トノ連接部ヲ突破シテ之ヲ分離スルヲ要ス、

#### 處置ノ大要

一 ラハルプ(Laharpe)師團ヨリ一旅團(約三千)ヲボルトリ(Voltri)(Genua西方十五吉米)ニ派遣シ同地ヲ占領シテ此方面ニ埃軍ヲ牽制セシム、

二 セルリール(Serrurier)師團ヲガレンシオ(Garcesio)(現在同師團ノ駐留地附近)方面ヨリ北進シ、軍ノ背後連絡線ヲ掩護セシムルト同時ニサルディニア(Sardinia)軍ヲ此方面ニ牽制セシム、

三 ラハルプ(Laharpe)師團(一旅團缺)マッセナ(Massena)師團、オーシロー(Augeran)師團ヲサボナ(Savona)(Genua西南四十吉米)ニ集結シ、北進ヲ準備ス、

四 ニツァ(Nizza)及ヒトローロン(Toulon)ノ守備兵等ヨリ約六千ヲ割キテコール、ディランダ(Colti Tenda)(Nizza東北六十吉米街道方面)ニ招致シ背後連絡線ノ掩護ニ任シ、兼テケレルマン(Kellermann)ノ指揮スルアルペン(Alpen)軍カサルディニア(Sardinia)ニ進入スル場合ニ於テハ之ト策應セシムルノ腹案テアツタ、

今奈翁ニ代ツテ此ノ方針ヲ取ツタ理由ノ要旨ヲ述ヘヨウト思フ、  
當時佛軍カ攻勢作戰ヲ取ルニ決シタノハ彼我ノ状態ヨリ觀察シタナラハ成ハ

冒險ニ過クルノ感モアロウ、然シ尙ホ一步進ンテ考究スレハ、佛軍カ此ノ儘、防勢ニ立チ徒ラニ退縮策ヲ採ツタナラハ、無形上カラモ、有形上カラモ、益、不利ノ悲境ニ陥リ遂ニ救フヘカラサルニ至ルノ虞カアル、殊ニ目下第一ノ苦痛ハ給養ノ不足ニ在ル、從テ之ヲ補フニハ攻勢作戰ニ依リ、奈翁ノ告諭ノ如ク豐饒ナル地方ニ進入シ、自カラ給スルヨリ外ニ策ハナイノテアル、

然ラハ如何ニシテ攻勢ヲ取ルヘキカ、一般ノ大勢ヲ觀察スレハ此際取ルヘキ策案ハ大要次ノ三案ニ分ツコトカ出來ル、

第一案 主力ヲ以テ海岸ニ沿フテ東進シゲヌア(Genua)方面ヨリ北進シ埃軍ノ主力ヲ攻撃シテ其ノ退路ヲ遮斷シ一舉ニ之ヲ殲滅ス、

第二案 兩山脈ノ接合部タルサボナ(Savona)附近ヨリ其ノ北方ニ亘レル谷地ヲ進ミ埃、伊兩軍ノ接合部ヲ突破ス、

第三案 コールデ、ランダ(Coldi, Tenda)方面ヨリ北進シテ先ツサルディニア(Sardinia)軍ヲ攻撃ス、

第一案ハ成功シタ曉ニハ、其ノ效果ノ最モ偉大ナルコトハ爭ハレナイ、然シ自軍

ノ連絡線ハ敵ニ比シテ尙ホ危険テアル、即チ南方カラハ英國艦隊ノ脅威ヲ受ケル、北方ハ埃、伊軍ニ對シ全然側面ヲ暴露シテオルカラテアル、殊ニ大部ハ敵意ヲ有スル地方テアルカラ危険ハ更ニ其ノ度ヲ加ヘルノテアル、

第二案ハ前者ニ比シテ後方連絡線ノ危険ハ遙カニ少ナイカ、尙ホコールド、ランダ(Coldi, Tenda)方面カラサルディニア(Sardinia)軍ノ脅威ヲ受クルノ虞レアルハ勿論テアル、然シ此案ハ敵ノ薄弱部タル指揮系統ノ異ナレル連合軍ノ接合部ニ向フモノテアルカラ、突破ハ比較的成效ヲ豫期スルコトカ出來ル、

第三案ハ退路ノ危険最モ少ナク、敵ヲ攻撃シ得ルノミナラス、迅速果敢ニ行動シタナラハ廣大ノ地域ニ分離シアル敵ヲ逐次ニ撃破シ得ルノ公算カアル、然シ敵ヲ分斷スルコトモ、遮斷スルコトモ出來ナイ、只タ其ノ自然ノ退路ニ壓迫シ得ルニ過キナイカラ、敵ハ漸次相合シテ優勢トナルノ不利カアル、

以上各案ノ利害ヲ約説スルト、第一案ハ大ナル利ハアルカ大ナル危険カ伴フ、第三案ハ利ハ最モ小ナル代リニ危険モ亦タ小サイ、而シテ第二案ハ兩案ノ中庸ヲ得タモノテアル、故ニ奈翁カ若シ相當ノ兵力ト條件トヲ具備シテオツタナラハ、

其ノ非凡ノ技能ヲ振ツテ第一案ヲ敢行シタテアロウ、然シ當時ノ状態ハ之ヲ許サナイ、從ツテ第二案ヲ採用シタノハ此際ニ於テ至當テアロウ、奈翁ハ前述セル作戰上ノ部署ノ外、中立國タルゲヌア(Genua)國ニ駐在セル佛國公使ヲシテ、ゲヌア政府ニ對シ故意ニ要求セシムルニボヘッタ(Bohetta)(Genua北方街道ノ通過點トガビ)(Gavi)(Genua北方三十五吉米)要塞トヲ開放シテ佛軍ノ通過ニ支障ナカラシメンコトヲ以テシタ、是レハ佛軍主力カ該方面ニ向フ如ク裝ヒ埃軍ヲ欺騙スルノ策略テアツタ、果然埃軍ハ此ノ策略ニ陥リ有力ナル一軍ヲ此方面ニ分割シタノテアル、

埃將ボーリユー(Beaulieu)ハ政府ノ命ニ依リ攻勢ヲ取ルヘク、諸將ヲ集メテ其ノ方策ヲ議シタ、コルリ(Colli)將軍ハボルミダ河(Bormida)(Genua西北六十吉米ノ處ニ河名ヲ記入シアリ)ノ上流即チアレッサンドリア(Alessandria)西南方ニ軍ノ主力ヲ集結シタ後、進ンテ佛軍ノ左翼兵團ヲ破リ、之ヲ其ノ右翼兵團ト遮斷センコトヲ建策シタ、此ノ案カ採用セラレタナラハ佛軍ハ大ニ苦痛ヲ感シタテアロウ、然ルニ前ニ述ヘタ如ク、ゲヌア(Genua)政府ニ對スル佛國公使ノ要求條件ヲ知ルニ及ンテ自軍ノ左側ニ

對シ大ニ注意スルノ誤リヲ犯シタノハ、佛軍ノ爲メニハ幸ヒテアツタ、埃軍ハ佛軍ノ攻勢開始ニ先タチ次ノ部署ニ依リ三月三十一日ヲ以テ攻勢運動ヲ始メタ、

ボーリユー(Beaulieu)ハ自カラ七千ノ兵ヲ率ヒテゲヌア(Genua)ニ向フ、アルダントウ(Argenteau)ハ約九千ノ兵ヲ率ヒテアクイ(Acqui)(Alessandria西南三十吉米)附近ヲ出發シ南方サッセロ(Sassello)ヲ經テサボナ(Savona)ニ向ヒ前進シ其ノ一部ヲデゴ(Dego)(Sasselloノ西方)方向ニ派遣シカイロ(Cairo)ミレシモ(Millesimo)兩地點共 Dego 西南方附近ニ進出シ來ルヘキサルディニア軍ト連絡セシム、埃軍ノ殘餘ハアレッサンドリア(Alessandria)トルトナ(Tortona)(Alessandria東方二十吉米)及ヒ其ノ他ノ要塞ノ守備ニ任セシム、但シ埃軍ノ一部ハ目下尙集合ノ途中ニ在リ、

### モンテノット(Montenotte)附近ノ戰鬪(戰鬪圖參照)

埃軍ハ以上ノ部署ニ依リテ愈、行動ヲ開始シ、ボーリユウ(Beaulieu)ハゲヌア(Genua)ヲ

經テ海岸ニ沿フテ西進シ、ボルトリ(Voltri)ニ佛軍ノ一部隊アルヲ知ルヤ、四月十日ヲ以テ之ヲ攻撃シ、英國艦隊モ海面カラ砲撃ヲ以テ之ヲ援助シタ、佛軍ノ一旅團ハ頑強ニ抵抗ヲ試ミタカ、二倍以上ノ敵ニ對シ長ク其位置ヲ維持スルコトカ出來ス、同夜其ノ陣地ヲ撤シ翌十一日サボナ(Savona)ニ於ケル所屬師團ニ復歸シタ、アルゲントウ(Argenteau)ノ軍ハ前進ヲ繼續シテ九日ニハ、デゴ(Dego)サセロ(Sassello)ノ線ニ到著シタ、恰モボーリユー(Beaulieu)將軍ヨリ翌十日モンテノット(Montenotte)方面ヨリボルトリ(Voltri)ノ戦闘ニ參與スヘキ命令ヲ受ケタカ、準備間ニ合ハス、翌々十一日ヲ以テ三縱隊ト爲ツテ前進ヲ再興シタ、先是佛軍ニ於テハラルプ(Laharpe)師團ヨリラムボン(Rampon)大佐ノ率ユル約二大隊ノ一支隊ヲ先遣シテモントレギノ(Mte-Legino)ノ最高處ニ於ケル設堡陣ヲ占領セシメタ、埃將アルゲンタウ(Argenteau)ハ此日之ニ衝突シ其ノ約六大隊ノ兵ヲ以テ攻撃ヲ開始シタカ、頑強ナル抵抗ヲ受ケ奏效スルニ至ラスシテ夜ニ入ツタ、先是奈翁ハ十一日午後ニ至リテ次ノ事件ヲ知ツタ、

ボルトリ(Voltri)ノ占領セラレタルコト、

ラムボン(Rampon)支隊ノ優勢ナル敵ヨリ攻撃セラレツアルコト、之ニ依リテ奈翁ハ敵ノ兩方面ヨリ前進中ナルコトヲ知り得タカ其ノ何レカ主力テアルカ又タ幾何ノ兵力ヲ有スルカニ就テハ全ク知ルコトカ出來ナカツタ、恰モ此ノ際佛軍ノ主力ハ豫定ノ如クサボナ(Savona)附近ニ集結ヲ終ツタノテアル、此ノ不明ノ情況ニ於テ奈翁ハ如何ニ決心スルヲ至當トスルカ、目下ノ情況ニ於テハ埃軍カ却テ佛軍ニ對シ先制的ニ攻撃ニ出テタノテアルカラ、今ヤ奈翁ノ最初ノ企圖タル、埃軍ヲ其ノ廣大ナル含營地ニ分離シアルニ乘シ之ヲ突破スルト云フ計畫ハ實施スルヲ得サルニ至ツタ、而カモ彼ハ毫モ遲疑スルコトナク、直ニ臨機ノ決心ヲ爲シタ、即チ埃軍カ交通不便ナル山地ヲ挾ミ二個ノ集團ニ分離シテ前進中ナル現下ノ情況ニ乘シ、何レカ一方軍ニ向ヒ其ノ集結シタル兵力ヲ擧ケテ迅速ニ攻勢ヲ取ツタナラハ、各個ニ擊破シ得ルノ公算大ナリト爲シ、即時アルゲンタウ(Argenteau)軍ニ向ヒテ急進スルニ決シ、大要次ノ部署ヲ定メタ、其ノ神速果斷ナル決心ハ實ニ痛快ノ極ミト言フヘク、凡將ノ容易ニ企及シ得サル所テアル、

一 ララルプ(Laharpe)師團ハ明十二日拂曉迄ニ其七千ノ兵ヲ以テラムボン(Ram-

Don)支隊ヲ増援ス、(ボルトリ(Voltri)ヨリ退却中ノ一支隊ハ未タ復歸セス)

二 マッセナ(Massena)師團(約九千)ハ、サボナ(Savona)西方約五吉米附近ヨリアルターレ(Altare)戰鬪圖西南部ニ通スル道路ヲ前進シラムボン(Rampou)支隊ノ堡壘ヲ攻撃中ナル敵ノ右翼ヲ攻撃ス、

三 オーシロウ(Augeran)師團ハ十二日拂曉ヨリモンテフレデ(Montefredde)戰鬪圖西南隅附近ヲ經テカイロ(Cairo)戰鬪圖西北隅ニ向ヒ前進ス、

四 奈翁ハ、マッセナ(Massena)師團ト同行ス、

抑、モンテノット(Montenotte)附近ニ於ケル戰術上ノ要點ハ、トラベルシン(Traversin)山普拉トウ(prato)山、レギノ(Legino)山等テアツテ何レモアペニン(Apenin)山脈ノ分派テアル而シテレギノ(Legino)山ハ、モンテノット(Montenotte)ヨリサボナ(Savona)ニ通スル要路上ニ在ツテ此ノ地點カ最モ高ク、且ツ狭小ナル部分テアル、前ニ述ヘタルラムボン(Rampou)支隊ノ據レル陣地ハ即チ此ノ要點テアル、

ラムボン(Rampou)大佐ハ其ノ陣地ノ重要ナル價値ヲ有スルコトヲ知り、寡勢ヲ以テ死守スルノ決心ヲ固メ、彈丸雨飛ノ間ニ於テ痛快ナル此決心ヲ部下一般ニ傳ヘ

數回ノ猛烈ナル攻撃ヲ無效ナラシメ、夜ニ入ル迄テ確實ニ其ノ陣地ヲ維持シ、以テ主力ノ爲メニ有利ナル攻勢ノ據點ト爲シタ、此勇敢ナル支隊ハ後チ「武勇隊」ナル名譽ノ稱號ヲ授ケラレ、一般ニ表彰セラレタ、

十一日ノ夜ハ、間斷ナキ降雨ノ爲メ佛軍ノ山地行軍ニハ大ナル困難ヲ與ヘタ、然シ翌十二日拂曉ニハ濃霧四塞シテ遠峰近巒皆ナ掩ハレ、敵眼ニハ全ク遮蔽セラレテ前進シ得ルノ幸福カ授カツタ、

暫時ノ後チ、濃霧ハ埃軍ノ近傍一帶ニ消散シタ、此ノ遮蔽幕ノ後方ニハ恐ルヘキ怪物カ居ツタ、攻撃準備ヲ整ヘタ佛ノ大軍ハ恰カモ天カラ降下シタカノ如クニ、忽然トシテ近ク眼前ニ現出シタノテアル、埃軍ノ驚愕ハ如何ナリシソ、此瞬間ニ於ケル心理的狀態ハ以テ彼ノ敗北ヲ豫察スルノ一因テアル、實ハ埃軍ニ於テハ夜間其ノ哨兵カラ屢、敵軍ノ移動ニ關スル報告ヲ受ケタカ、彼ハ當面ノ敵ヲ弱勢ナリト侮リ、而カモ天候ハ甚タ不良テアルカラ佛ノ大軍カ來ルヘシトモ思ハレス、或ハ若干ノ増援兵ノ來レルモノトシタ所ロテ、敢テ恐ルルコトハナイト誤斷シタノテアル、將驕ルモノハ敗ル、油斷ハ大敵テアル、桶狹間ニ於ケル信長ノ奇襲的成功モ驕リタル

今川義元ニ對シ不良ナル天候ニ乗シタノテアツタ、

佛ノラハルプ(Laharpe)師團ハ豫定ノ如ク拂曉ラムボン(Rampon)支隊ノ左側ニ進出シテプラトー(Prato)ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ、又タマッセナ(Massena)師團ハ遠ク西方アルターレ(Albare)附近ヲ經テ先ツメナウ(Menau)附近ニ於ケル埃軍ノ歩兵聯隊ヲ突破シ主力ノ右側及ヒ背後ニ迫ツタ、

先是、不意ノ現出ニ膽ヲ奪ハレタ埃軍ハ不取敢、佛軍ニ對抗スヘク惡戰苦闘ヲ試ミタカ、マッセナ(Massena)師團カ、其ノ右側背ニ迫リ來ルコトヲ知ルヤ、大ニ不安ヲ感シ應急ノ正面變換ヲ試ミルヘク、次ノ處置ヲ爲シタ、

ラハルプ(Laharpe)師團ニ對シテハ二千ノ一隊ヲ止メテ左側背ノ掩護ニ任セシメ主力ヲ率ヒテ直ニ西方ニ向ヒ轉進ヲ開始セントス、

此ノ處置ハ時機既ニ遅ク、恰モ佛ノマッセナ(Massena)師團ハ既ニ其ノ迂回ヲ完了シタ後チテ、而カモ地形ハ埃軍ノ爲メニ不利ナアツタ間モナク兩軍ノ衝突トナリ、所謂遭遇戰カ惹起セラレタ、然シ埃軍ハ有形、無形上、共ニ敵ニ先制ノ利ヲ占メラレ、而カモ自己ニ不利ナル地形テアルカラ、其兵力ノ大差ナキ限り、又タ其ノ素質ノ大異ナ

キ以上到底埃軍ニ勝算ハナイ、果然戰鬪ハ短時間ニ終リヲ告ゲ、埃軍ハ死傷三百ト捕虜五百トノ損害ヲ拂ヒテ北方及ヒ西北方ヘ擊退セラレタ、

奈翁ノ統帥セル伊太利軍ハ斯クシテ茲ニ第一回ノ大勝ヲ獲得シタ、此青年軍司令官ノ胸中ニハ如何ニ喜悅ト満足トカ充滿シタテアロウカ、然レトモ彼ハ非凡ナル將帥テアル此ノ區々タル戰勝ニ安ンスルコトナク、敵ヲシテ再舉ノ暇ナカラシムル爲メ、直ニ追擊ヲ斷行スヘク決心シ、直ニ次ノ部署ヲ爲シタ、

一 ラハルプ(Laharpe)師團ハ直ニ先ツサッセロ(Sassello)Montenotte東北十吉米ニ向ヒ追擊シ後チ急ニ西方ニ轉進シテ本軍ニ合ス、

二 中央軍タルマッセナ(Massena)師團左翼軍タルオージロウ(Augeran)師團ハ奈翁自カラ之ヲ率ヒデゴ(DeGo)Montenotte西北十吉米ニ向ヒ前進ス、但シ一部約一旅團ヲ以テ左側背ノ掩護ニ任ス、

三 セルリール(Serrurier)師團ハ依然ガレッシオ(Garèssio)Montenotte西南四十吉米附近ニ在リテコルリ(Colli)軍ヲ牽制ス、

四 海岸監視ノ爲メニ配置セル騎兵團ハ本軍ノアペニン(Apenin)山ヲ越ユルヤ

其ノ位置ヲ撤シテ本軍ニ追及ス、

埃軍ニ於テハ如何ニシタカ、總司令官ボーリユー(Beaulieu)將軍ハアルゲンタウ(Argenteau)將軍ノ敗報ニ接スルヤ逐次ニ之カ増援トシテ合計歩兵約一旅團餘ヲデゴ(Dego)方面ニ差遣シ、以テアルゲンタウ(Argenteau)ヲシテデゴ(Dego)ヲ死守セシメ、軍ノ主力ハボーリユー(Beaulieu)親カラ之ヲ率ヒテ先ツアクイ(Acqui)Montenotte 東北三十吉米ニ到リ機ヲ見テ爾後ノ行動ヲ決セントシタ、

ボーリユー(Beaulieu)ノ取ツタ決心及ヒ處置ハ主義一貫セス、固ヨリ其ノ過失タルヤ明カテアル、若シ其ノ目的カアクイ(Acqui)ニ退却シテ準備ヲ整ヘタ後チ、恢復攻撃ヲ爲スニ在ルナラハ、アルゲンタウ(Argenteau)ニ増援ヲ差遣シテ態々其兵力ヲ益、分離セシムル如キ愚ヲ爲スコトナク、全力ヲ舉ケテ迅速ニ同地ニ向フヘク、アルゲンタウ(Argenteau)ニハ其ノ目的ヲ示シ成ルヘク損害ヲ避ケテアクイ(Acqui)方面ニ來リ合セシムヘク、又タコルリ(Coll)軍モ各個ニ擊破セラレサル如ク可及的北方ニ移動シ、後チ相策應シテ大舉、佛軍ニ殺到スヘキテアル、要スルニボーリユー(Beaulieu)ノ取ツタ策ハ敵ニ各個擊破ノ好機ヲ與ヘタモノト言フコトカ出來ル、

デゴ(Dego)ヲ死守スヘキ命ヲ受ケタアルゲンタウ(Argenteau)ハ、同地ニ於テ附近ノ谷地ヲ瞰制スル五、六箇所ノ丘上ニ陣地ヲ占メ、以テ難攻不落ト信シテオツタ、佛軍ハ奈翁ノ直接指揮ヲ以テ急進シ、十四日ヨリラハルプ(Laharpe)師團及ヒマセナ(Massena)師團ヲ以テ總攻撃ヲ開始シ、激戦ノ後チ、埃軍増加隊ノ來着ニ先チ之ヲ北方ニ擊退シタ、此ノ戰鬪ニ於テ埃軍ハ約十大隊ノ戰鬪員中、其過半(約五分ノ三)ハ死傷或ハ捕獲セラレ、砲十數門ヲモ佛軍ニ委シタ、

先是サルディニア(Sardinia)兵ヲ基幹トセルコルリ(Coll)將軍ノ兵團ハ、佛軍ノ攻勢運動ヲ開始セルヲ知ルヤ、先ツ親カラ其ノ數大隊ヲ率ヒテ先行シチエバ(Ceva)ノ東方ミレシモ(Millesimo)附近迄前進シ堅固ナル陣地ヲ占領シタ、

佛ノオージ<sup>ロウ</sup>ポウ(Augereau)師團ハ十四日此ノ陣地ノ攻撃ヲ試ミタカ、天嶮ノ要地テアルカラ、容易ニ之ヲ擊退シ難キノミナラス死傷續出シ、高級將校ノ大部ヲモ失フニ至リ、其ノ日ハ終ニ奏效スルヲ得スシテ夜ニ入ツタ、然ルニ翌十五日ニ至リ當面ノ敵兵ハ膽甲斐ナクモ佛軍ノ勸降ニ應シタ、ソコテ、オージ<sup>ロウ</sup>ポウ(Augereau)將軍ハ直チニ西進ヲ續行シ附近ノ要地ヲ攻略シツツ前進シタ、奈翁ハオージ<sup>ロウ</sup>ポウ(Augereau)

ノ獲得セル成果ヲ更ニ確實ナラシメンカ爲メ、ラハルプ (Laharpe) 師團ヲモ此ノ方面ニ前進セシメントシ、已ニ命令ヲ下シタカ、圖ラスモ此ノ時佛軍ノ爲メニ不幸ナル一大事變カ起ツタ、事變トハ何カ、埃ノ部將 ヅカソビチ (Wukasowich) カラ佛ノマッセナ (Massena) 師團カ奇襲ヲ受ケタコトデ、第二回 デゴ (DeGo) ノ戰鬪ハ即チ是レテアル、

先是埃ノ ボーリユー (Beaulieu) 將軍ハ前ニ述ヘタ如ク デゴ (DeGo) 方面ノ増援トシテ ヅカソビチ (Wukasowich) 將軍ヲ差遣シタ、同將軍ハ六大隊ノ兵ヲ率ヒテ十四日夜 デゴ (DeGo) ノ近傍ニ到着シタカ、其ノ時同地ハ已ニ佛軍ノ手ニ歸シ、友軍ハ北方ニ擊退セラレタ後チテアツタ、

ヅカソビチ (Wukasowich) ノ決心如何

將軍ハ健氣ニモ勇敢ナル決心ヲ爲シタ、彼ハ十五日拂曉ヲ以テ佛軍ヲ急襲スルノ策ヲ斷行シタノテアル、

十五日ノ拂曉ト爲ルヤ、濃霧ハ冥濛トシテ、利ヘ強雨ヲ交エ、奇襲ニハ好適ノ天氣テアツタ、然ルニ佛ノ マッセナ (Massena) 師團ハ前日ノ勝利ニ氣驕リ、疲勞ヲ醫スヘク大

ニ休憩ヲ爲シ、警戒ヲ怠ツテオツタノテアル、故ニ埃軍ノ急襲ヲ受クルヤ真面目ニ之ニ應スルモ、ノカナク、幹部ノ大ナル努力モ、亂醉、疲勞シテ殆ント知覺ヲ失ツテオ  
ル兵卒等ニハ效果カナカツタ、爲メニ佛軍ハ劣勢軍ニ對シテ大敗ヲ蒙リ、捕虜六百ヲ殘シ、且ツ前日鹵獲シタ砲ヲモ奪還セラレルノ不面目ヲ蒙ツタノテアル、

ヅカソビチ (Wukasowich) ノ壯舉ハ無爲ナル連合軍中、特ニ一點ノ紅ヲ呈スルモノテアル、然シ此ノ決心カ至當テアルカ否カハ輕々シク判決スヘキモノテナイ、佛軍ハ優勢テ、且ツ戰勝者テアル、從テ志氣モ亦大ニ振興シテ、オルノカ當然テアル、今寡勢ヲ以テ之ヲ攻撃スルノ策ニ出テタナラハ、敵ニ好餌ヲ與フルニ等シト  
言フコトモ出來ル、故ニ友軍カ已ニ敗退シタ以上ハ、寧ロ敵ノ銳鋒ヲ避ケ友軍ト合一シテ後チ再舉ヲ圖ルノカ穩當ノ様ニ思ハレル、然レトモ ヅカソビチ (Wukasowich) ニシテ、當時 デゴ (DeGo) ニ於ケル佛軍ノ實情ヲ確知シテオツタノテアルナラハ、彼ハ必勝ヲ期シテ奇襲スルノ策ヲ取ルコトカ出來ル、即チ決心ノ適否ハ主トシテ茲ニ在ルノテアル、故ニ只タ猥リニ猪突スルヲ以テ良策ナリトスルノ  
テナイコトヲ一言シテ置ク次第テアル、



奈翁ハ此ノ事變ヲ聞イタ、彼ハ於是、敵ヲ至當ニ判斷シテ曰ク、敵ノ主力カ此ノ機ニ乘シ大舉シテ恢復攻撃ヲ敢行スルノ虞レカアル、十五日ノ奇襲ハ或ハ其ノ緒戰テアルカモ圖ラレスト爲シタ、依テ西方ニ向ヒテ已ニ出發セルラハルブ(Laharpe)師團ヲ招還シ、隊伍ノ整頓、材料ノ整備ニ努メ以テ敵ノ總攻撃ニ備ヘタ、然ルニ敵ハ敢テ前進シテ來ナイ、奈翁ノ至當ノ判斷ニ適中シナカッタ、奈翁ハラハルブ(Laharpe)師團カ到着シ、且ツ一般ノ準備モ略、整フヤ、斷然守勢的態度ヨリ直ニ攻勢的態度ニ移ツタ、是レカ奈翁ノ實ニ偉大ナル所テ、凡將ノ企及シ能ハサル所以テアル、

攻勢ニ轉シタル佛軍ハ力戰奮闘大ニ努力シタカ、ヅカソビチ(Wukasowich)ノ率ユル勇敢ナル埃軍ハ遙ニ劣勢ナルニ拘ハラヌ頑強ニ抵抗シ、却テ一度ハ佛軍ヲ擊退シタ、佛軍ハ爲メニ大ナル困難ニ陥ツタカ、奈翁ハ親カラ最後ノ豫備隊ヲ提ケテ勇進シ大ニ部下ヲ激勵シ、辛ウシテ敵ヲ擊退スルコトカ出來タ、擊破セラレタル埃軍ハ、大ナル損害ヲ受ケ、一旦奮還シタ友軍ノ大砲モ亦タ佛軍ノ手ニ渡スニ至ツタ、然シヅカソビチ(Wukasowich)將軍ハ能ク劣勢ヲ以テ優勢ナル佛軍ヲ危地ニ陥レントシタ、其ノ奮闘振リハ大ニ賞揚ノ價值カアル、彼ハ埃軍ノ爲メ大ニ氣ヲ吐イタモノテアル、

ヅカソビチ(Wukasowich)ノ如キ勇將ヲ有スル埃軍モ總司令官、ボーリユー(Beaulieu)ノ作戰計畫宜シキヲ得サリシ爲メ、徒ラニ只タ其ノ勇名ヲ遺セルノミニテ大局ノ勝利ヲ獲得スルコトカ出來ナカッタノテアル、以テ將帥ノ價值カ其ノ影響スル所如何ニ至大ナルカヲ知ルニ足ルテアラウ、

四月十日ヨリ十五日迄ノ各戰闘ハ互ニ勝敗ハアツタカ、大局ハ佛軍ノ大勝ニ歸シ、埃軍ノ損害ハ二萬ヲ越エ、砲四十門ヲ失ツタ、奈翁ハ此大勝ニ依リ、彼ノ企圖セル中央突破ノ第一期ヲ終ツタノテアルカ、更ニ第二期ノ作戰ヲ繼續スルニ決シ、今ヤ孤立ノ状態ニ在ルコルリ(Collin)軍ヲ擊攘シ以テ佛軍ノ背後連絡線ヲ安全ナラシメントシタ、

### コルリ(Collin)軍ノ敗戦、サルデーニア(Sardinia)軍トノ休戦及ヒ媾和

佛ノオージロウ(Augeran)師團ハ十六日ヲ以テ敵ノ哨兵ヲ驅逐シツコルリ(Collin)軍主力ノ位置タルチハ、セナ(Massena)師團セルリール(Serrurier)師團モ亦タ同地ニ向ヒ續テ進軍中テアル、抑、奈翁ノ計畫ハオージロウ(Augeran)師團

ヲ以テチナ(Ceva)ノ正面ヨリ、マッセンナ(Messena)師團ヲ以テ敵ノ左側即チ北方ヨリ、又タセルリール(Serrurier)師團ヲ以テ敵ノ右側即チ南方ヨリ、相應シテ敵ヲ包圍攻撃スルニ在ツタ、然ルニコルリ(Collin)ハ佛軍ノ迂回運動ヲ知ルヤ、其夜(十八日)ニ乘シ數大隊ノ後衛ヲ同地ニ殘置シ、主力ヲ以テモンド、(Mondovi)(Ceva)西方十五吉米、東方ノ堅固ナル陣地ニ退却シタ、

佛軍ハ之ヲ追撃シテ翌十九日ヨリ之ニ向ツテ攻撃ヲ開始シ、屢敵ノ猛火ノ直下ニ於テ強行渡河ヲ試ミタカ、其ノ都度皆ナ失敗シ、大ナル損害ヲ受ケタノミテ、攻撃ハ奏効スルコトナク終ニ夜ニ入ツタ、然シ佛軍ハ此ノ失敗ニモ屈セス、明日ヲ以テ更ニ攻撃ヲ再興スヘク夫々臨機ノ處置ヲ取ツタ、

コルリ(Collin)軍ハ此日優勢ナル佛軍ノ攻撃ヲ確實ニ阻止スルコトカ出來タカ、優勢ナル佛軍カ備ヲ改メテ迫リ來ルヲ知リテ退却スルニ決シ、其ノ夜、直ニ陣地ヲ撤シタ、蓋シコルリ(Collin)軍ノ目的ハ連合軍主力ノ來著迄持久戰ヲ爲スニ在ツタノテアルカラ、此ノ退却ハ恐ラク適當テアツタロウ、

佛軍ハ豫定ノ如ク翌二十一日更ニ攻撃前進ヲ始メントスルヤ、當面ノ敵カ已ニ其

ノ陣地ヲ撤セルコトヲ知ツタ、乃チ奈翁ハ直ニ之ヲ急追スル爲メ、猛烈ニ前進ヲ開始シ、間モナク敵ニ觸接スルヤ、茲ニモンド、(Mondovi)附近ノ激戰カ惹起セラルルニ至ツタ、此ノ戰鬪モ亦タ佛軍ハ非常ナル苦戰ノ後チ、頑強ニ抵抗セルコルリ(Collin)軍ヲ辛ウシテ撃退スルコトカ出來タノテアル、

コルリ(Collin)將軍ハ此ノ數日間大ニ奮闘之レ努メタニ拘ハラヌ、ボーリユー(Beaulieu)軍ノ來援スル模様モナク、愚圖愚圖シテ居レハ首府チーリン(Turin)モ危險圖ルヘカラサル有様テアルカラ、愈、二十三日ヲ以テ奈翁ニ對シ媾和ヲ申込シタ、奈翁ハ内心大ニ媾和ヲ熱望シテオツタ、蓋シ佛軍ハ目下戰鬪上ニ於ケル苦痛ハ勿論、尙ホ又タ給養上ニモ大ナル困難ヲ嘗メ兵卒ハ各掠奪ヲ以テ自給シツツアルノ有様テアツタカラ、自然戰鬪以外ニ兵力ハ分散減耗スルハカリテ、日ヲ經ルニ隨ヒテ危險ヲ増大シツツアツタカラテアル、然シ彼ハ陽ニ嚴然タル態度ヲ以テ答テ曰ク「貴政府ニ於テ眞ニ和議ヲ請フノ意アラハ佛國政府ニ於テモ當然希望スル所テアルカラ談判ノ開始ニハ本官モ亦タ同意テアル、然シ此間休戰ヲ爲サンカ爲メニハ之カ擔保トシテ四個ノ貴要塞中、其三個ヲ佛軍ニ讓與スルヲ條件トス」ト、而シテ奈翁ハ

依然トシテ其ノ軍ヲ進メ益、コルリ(Colli)軍ヲ壓迫シタノテアル、  
 奈翁ノ取リタル此ノ處置ハ實ニ注意周到テアツテ、又タ敵ヲシテ速ニ屈服セシ  
 ムルニ適當ナル方法テアル、殊ニ利害關係ノ異ナレル連合軍ノ弱點ニ乗シ、單獨  
 構和ヲ以テ之ヲ埃軍ヨリ分離セシメントスルノ手際ハ巧者ナモノテアル、即チ  
 政略ト戰略トヲ巧ミニ相連繫セシメ以テ敵ヲ各個ニ擊破セントスル所ニ、妙味  
 カアル、方今ノ大戰ニ於テ連合軍ハ英國ノ發議ニ依リテ單獨構和ノ禁示ヲ協約  
 シタノハ、連合軍ノ弱點ヲ鞏固ナラシムルニ大ナル効力カアルテアロウ、現ニ獨  
 埃側ニ於テハ百方手段ヲ廻ラシ、其ノ戰勝ニ乘シテ、或ハ佛國ヲ説キ、白耳義ヲ脅  
 シ、或ハ露國ヲ誘フ等其ノ巧ミナル戰略ト相俟ツテ、大ニ外交力ヲ振ヒ以テ各個  
 擊破ヲ試ミテオル模様テアル、吾人ハ此間ノ消息ニ鑑ミル所カナクテハナラス、  
 ボーリユー(Bavlien)將軍ハ友軍ノ苦戰中遠クアグイ(Aguy)ニ退縮シ、徒ラニ劣勢ナ  
 ル佛ノラハルプ(Laharpe)師團ニ牽制セラレ毫モ出動セス、無爲ニ傍觀的態度ヲ取ル  
 コト已ニ十有餘日ノ長キニ亘ツタカ、二十四日ニ至リテ遲蔭キナカラ徐々トシテ  
 牛歩ヲ友軍危急ノ方面ニ向ケタ、然シ時已ニ機ヲ失シ到底恢復ノ見込カナイノミ

ナラス自カラ各個擊破ヲ受クルノ危險ニ陥ツタノテアル、彼ハ往年勇敢ヲ以テ伊  
 太利ノ總司令官ニ拔擢セラレタル將軍テアルカ、其ノ無能ヲ加減ハ批評ノ限リテ  
 ナイ、サルディニア(Sardinia)軍ニ於テハボーリユー(Beaulieu)ノ無爲ニ對シ大ニ不滿ノ  
 念カ増長シテ、中ニハ却テ佛軍ニ同情ヲ寄スルモノサヘ生シタ、故ニ休戰條約ニ大  
 ナル故障モナク、奈翁ノ意思ニ從ヒテ二十七日ニ締結セラレタ、

此條約中ニクネオ(Cuneo) Montenotte 西方七十吉米、アレサンドリア(Alessandria) Mont-  
 enotte 東北六十吉米、トルトナ(Tortona) Alessandria 東方二十吉米、ノ三要塞ヲ佛軍ニ交  
 付シ、且ツ佛軍ハヅワレンツア(Valenza) Alessandria 北方十吉米附近ニ於テ自由ニポ  
 ー(Do)河ヲ渡リ得ルノ權利ヲモ加ヘテアツタ、此ノ後者ノ權利ヲ特ニ加ヘタコトハ  
 復タ埃軍ヲ誤ラシムルノ計略テアツタ、其ノ事實ハ後ニ述ヘル機會カアル、  
 此間チーリン(Turin)政府ハ使節ヲ巴里ニ差遣シ五月十五日ヲ以テ構和條約ヲ結  
 ヒ、佛軍ハ茲ニ一敵國ヲ除イタノミナラス、却テ佛軍爾後ノ作戰ノ爲メ積極的ニ給  
 養上、行動上ノ便宜ヲ得ルニ至ツタ、

サルディニア(Sardinia)ハ元來埃國トハ必シモ利害關係ヲ同シクシテオラス、却テ其

ノ國情カラ言ヘハ佛國ニ近ツクヲ自然トスルノテアル、然ルニ佛國トノ交通ハアルペン(Alpen)ノ嶮難ニ依リテ甚タ不便テアル、爲メニ地勢上、埃國ノ勢力範圍ト爲リ、武力ノ上カラ攻守同盟ニ餘儀ナクサレタカ、今ヤ佛軍ノ勢力ハ埃軍ト其地位ヲ代ユルニ至レルカ故ニ、彼ハ秋波ヲ新タナル權力者ニ寄スルコトトナツタノテアル、吾人ハ之ニ依リテ武力ナキ弱國ノ哀ムヘキモノテアルコトヲ感スルト同時ニ、武力アル強國ニハ競フテ其ノ勢力下ニ集マリ來ルモノカ多イコト、之ニ反シ一旦其ノ力衰フルヤ忽焉トシテ助勢者ノ消失スルコト、個人關係ニ於テ見ルヨリ更ニ甚シキモノアルヲ知ラナケレハナラヌ、蓋シ國際間ニハ單ニ自國ノ利害關係ニ依リテノミ行動シ、他ノ爲メニ犠牲トナル如キ義務カナイカラテアル、

### 佛軍ノ追撃、埃軍ノ退却(ロヂ(Lodi)戰鬪前迄)

逸巡躊躇ノ後チ、愈、出動ニ決シタポーリユー(Beaulieu)ハ、佛軍トサルディニア(Sardinia)軍トノ間ニ休戰條約ノ成立シタ事ヲ知ルヤ、茲ニ退軍ノ爲メ立派ナ口實カ出來タ、彼ハ無論進撃ヲ中止シテ、次ノ策ヲ取ルヘク決シタ、

休戰條約ニ依リテ佛軍ニ交付セラルヘキアレッサンドリア(Alessandria)トルトナ(Tortona)ノ一要塞及ヒポー(VO)河ノ渡河點タルヴァレンツア(Valenza)ヲ速カニ占領シ、此ノ三角地帯ニ據リテ持久戰ヲ交ヘ、以テ本國ヨリ來ルヘキ援軍ヲ待タントス、

ポーリユー(Beaulieu)ノ此ノ決心ハ此ノ情況ニ於テ適當テアルト思フ、當時佛軍ハクネオ(Cuneo)要塞ノ交付ニ依リテ其ノ方面ニ使用セル約六千ノ兵ヲモ招致スルコトカ出來ル様ニナツタカラ、合計約三萬五千ヲ第一線ニ使用シ得ルニ反シ、埃軍ハ其ノ同盟軍ヲ失ツタ爲メ約二萬六千ヲ算シ得ルニ過キナイノミナラヌ、自軍ノ所在地及ヒ其ノ背後ハ皆ナ敵地ト變スルノ危險ニ陥ツタノテアルカラ、今ヤ攻勢ヲ取ルノ不得策ナルハ殆ント異論カアルマイ、然シ情況ヲ此ノ悲況ニ導イタノハ、ポーリユー(Beaulieu)ノ責ニ歸セナケレハナラヌ、

ポーリユー(Beaulieu)ノ定メタル計畫ハ直ニ實施セラレタ、然シ其ノ結果ハ豫期ニ反シテ一頓挫ヲ來タシタ、即チ埃軍ハアレッサンドリア(Alessandria)及ヒトルトナ(Tortona)ニ對シ各一部隊ヲ派遣シテ奇襲的ニ之ヲ奪略セシメントシタカ何レモ失

敗ニ終リ、只タヴァレンツァ(Varenza)ノミヲ辛ウシテ占領シ得タニ過キナカッタ、然シ此ノ一地點ヲ保持スルコトハ却テ孤立ノ危険ニ陥ルノミテアルカラ、ポーリユ一(Beaulieu)ハ茲ニ前決心ヲ變更シテポー(Po)河ノ左岸ニ移リ、以テ佛軍ノ渡河ヲ妨害スルニ決シ、五月一日ヲ以テ、主力ハポー(Po)河ヲ渡リヴァレンツァ(Varenza)ノ對岸テ、バビア(Priva)(Valenza)東北四十吉米ニ通スル街道上ニ在ルロメロ(Lomello)附近ニ陣地ヲ占領シ、各一部隊ヲセシア(Sesia)河(Varenza)北方ニ於テPo河ニ注ク左潮流方面ト、バビア(Pavia)附近トニ配置シタ、抑、埃軍カ此ノロメロ(Lomello)附近ニ陣地ヲ占メタノハ前ニ述ヘタ如ク奈翁ノ締結セル休戰條約中ノ一項ニ依リテ欺騙セラレタノテアル、

埃軍ノ目的カ決戰ニアラスシテ増援軍ノ來着迄、伊太利平地ニ在リテ持久戰ヲ試ムルニ在ルナラハ、實際埃軍ノ取リタル配備ハ當ヲ得タモノト言フヲ得ヌ、蓋シポーリユ一(Beaulieu)ハ單ニ一地點即チヴァレンツァ(Varenza)方面ノミニ注意ヲ奪ハレ、バビア(Pavia)以東ニハ殆ント顧慮ヲ缺イテオル、然ルニバビア(Pavia)以東クレモナ(Cremona)(Pavia)東方七十吉米附近ニ亘ルポー(Po)河沿線ノ地域ハ最モ

注意ヲ要スル部分テアル、若シ此ノ部分ヨリ敵カ渡河ヲ企テタナラハ埃軍ノ背後連絡線ハ直ニ遮斷セラルルニ至ルカラテアル、之ニ反シヴァレンツァ(Varenza)以北ノ地域ハマイランド(Mailand)附近ニ至ル迄多クノ河川ヲ横斷スルノ困難カアル故、大ナル顧慮ヲ要シナイノテアル、依テ埃軍トシテハ右翼方面即チセシア(Sesia)河畔ヨリヴァレンツァ(Varenza)對岸附近ニ亘リ各要點ニ一部隊ヲ配置シテマイランド(Mailand)平地ノ掩護ニ任セシメ、主力ハヴァレンツァ(Varenza)ヨリ下流ストラデルラ(Stradella)(Valenza)東方五十吉米及ヒピアセンツァ(Piacenza)(Stradella)東方三十吉米ヲ經テクレモナ(Cremona)附近ニ亘リテ各要點ニ配置シ、以テ敵ノ渡河ヲ妨害シ且ツ退路ノ安全ヲ保ツヘキテアル、奈翁ハ此ノ戰鬪後埃軍ノ行動ニ關シテ次ノ意味ノ意見ヲ述ヘテオル、

埃軍ハ須ラクストラデルラ(Stradella)附近ニ於テ堅固ナル橋頭堡ヲポー(Po)河ノ右岸ニ設ケ、同地ニ架橋ヲ爲シ主力ヲ以テ之ヲ守備スヘク、右翼即チストラデルラ(Stradella)西北方ノ地域ハ單ニ監視ヲ嚴ナラシムレハ足レリ、蓋シ佛軍ニシテポー(Po)河右岸ヲ進マハ、埃ノ主力ニ會スヘク、左岸ヲ進マハ多クノ河

川ニ妨ケラレ多大ノ時日ヲ費スノ不利アレハナリ、  
 此右岸占領ノ意見ハ決戦防禦ノ目的ニ於テ特ニ適當テアルト思フ、然シ持久ノ  
 目的ニ於テハ所謂背水ノ陣テ、動モスレハ決戦ニ陥ルノ虞レカアルカラ、有爲ナ  
 ル將帥ヲ俟ツテ始メテ成立スルノテアル、  
 尙ホ防禦ノ手段トシテ、操典ニモ示サレアル如ク敵情ノ搜索、橋梁ノ破壊、徒涉場  
 ノ偵察、渡河材料ヲ全部自己ノ手ニ收ムルコト等ニ努ムヘキハ勿論テアル、  
 奈翁ハ敵前渡河ノ爲メ如何ナル方法、手段ニ出テタカ、彼レハ先ツ敵ノ注意ヲ充分  
 ニヴァレンツァ(Varenza)方面ニ牽制スル爲メ、同地附近ニ渡河材料ヲ蒐集シ、且ツ軍  
 司令部ヲ成ル可ク長クトルトナ(Tortona)附近ニ置イタ、而シテ五月六日夜、陰カニ  
 歩兵三千五百、騎兵一千五百、砲二十四門ノ一隊ヲポー(Bo)河ノ下流ピアセンツァ  
 (Piacenza)ニ急行シ敵ニ先テ渡場ヲ占領セシメ、又タ別ニ一部隊ヲシテ同地ニ至  
 ル間ニ於テ成ルヘク多クノ渡河材料ヲ奪ヒ之ヲピアセンツァ(Piacenza)ニ集メシ  
 メタ、而シテ主力ハ是等ノ隊ニ續イテピアセンツァ(Piacenza)ニ向ヒ強行軍ヲ開始  
 シタノテアル、

ピアセンツァ(Piacenza)ニ先行セル支隊ハ七日朝同地ニ到着シ、對岸ヨリ埃ノ騎兵  
 約百五十騎ヨリ妨害ヲ受ケツツ、渡河ヲ強行シテ對岸ヲ占領シタ、佛軍主力モ續々  
 同地ニ到着シツツアル、斯クテ數萬ノ軍隊ハ實ニ二十五里ノ行程ヲ僅々三十六時  
 間ニ通過シ終ツタノテアル、然ルニ渡河材料ハ埃軍カ殆ント全部ヲ其ノ手ニ握ツ  
 テオツタカラ、渡河ニハ大ナル不便ヲ感シ七日、八日、九日ノ三日間ヲ費シテ全部ヲ  
 彼岸ニ渡シ終ツタ、

埃將ボーリユー(Beaulieu)ハ間モナク佛軍ノ移動セルヲ知り、先ツリプタイ(Liptay)  
 ノ率ユル歩兵三千、騎兵二千ノ一支隊ヲシテバビア(Baria)附近ヲ發シ下流方面ニ  
 急進シ以テ背後連絡線ノ掩護ニ任セシメ、自カラ歩兵九大隊及騎兵二十二中隊ヲ  
 率ヒテ之ニ續行シタ、又タ歩兵十大隊、騎兵十中隊ノ一支隊ハ依然暫クバビア(Pa-  
 via)ニ駐留シ、西北方セシア(Sesia)河畔ニ派遣シアル支隊ノ歸來ヲ待タシメタノテ  
 アル、埃軍カ斯ノ如ク兵力ヲ分離シツツアル間ニ、佛軍ハ最モ危險ニシテ且ツ甚タ  
 不便ナル渡河ヲ安全ニ遂行シ、ピアセンツァ(Piacenza)北方ニ於ケルホムビオ(Fo-  
 mbio)附近ニ陣地ヲ占領シアルリプタイ(Liptay)支隊ヲ攻撃シテ之ヲ北方ニ驅逐シ

タ、此敗報ニ接シタルボーリユー(Beaulieu)ハ眞面目ニ抵抗スルノ不利ナルヲ察シ遠ク東方ニ退却スルニ決シ、方向ヲ轉シテロヂ(Lodi)ニ向ツタ、  
 埃將ノ敏活ナラサル決心、處置ニ依リテ危険ナルヘキ渡河ヲ安全ニ遂行シタル佛軍ハ、其ノ渡河ノ爲メニ費シタル三日間ニ依リテ埃軍ノ退却ニ便スルコトトナツタノハ、面白イ對象テアル、斯クテ佛軍ハ十日ヲ以テ總前進ヲ開始シ先ツ目標ヲロヂ(Lodi)ニ取り同日正午ヲ以テ同地ノ前面ニ達シタ時、敵ノ一部隊カロヂ(Lodi)ヲ占領シテオルコトヲ知ツタ、ロヂ(Lodi)ハ、アッダ(Adda)河ノ右岸ニ在ルカラ、同地ノ橋梁ハ尙ホ保存セラレアルコトハ判斷シ得ラレル、故ニ迅速猛烈ナル行動ヲ以テ敵ニ逼迫シ敵ニ尾シテ一氣ニ橋梁ヲ強行渡河スルニ決シタ、  
 先是ボーリユー(Beaulieu)ハ佛軍渡河ノ遲滯ニ依リテ辛ウシテアッダ(Adda)河ノ左岸ニ移ルコトカ出來タ、依テ強大ナル後衛(七千)ヲロヂ(Lodi)ノ對岸ニ殘置シ、主力ハ退却ニ就イタノテアル、  
 有名ナルロヂ(Lodi)ノ戰鬪ハ即チ佛軍ト埃ノ後衛トノ激戰テアル、

### ロヂ(Lodi)ノ戰鬪(Lodi附近戰鬪圖參照)

奈翁ハ佛軍ノ先頭タル擲彈兵縱隊ト共ニロヂ(Lodi)附近ニ到着スルヤ、短兵急ニ攻撃ヲ開始シタ、ロヂ(Lodi)ヲ守備セル埃ノ一部隊ハ此ノ急襲ニ狼狽シ、左岸ニ於ケル友軍砲兵ノ掩護射撃ノ下ニ橋梁ヲ通過シテ左岸ニ退却シタ、  
 奈翁ハ直ニ其ノ橋梁ヲ占領スヘク先ツ輕砲二門ヲ河畔ニ配置シテ敵ノ橋梁破壊ヲ妨害シ、次テ到着セルマッセンナ(Massena)師團ノ砲兵全部ヲ橋梁ノ後方ニ於ケル丘上ニ配置シ、其ノ砲火ノ掩護下ニ密集縱隊ヲ以テ橋梁上ヲ突進スヘク命令ヲ下シタ、將ニ戰場ニ到着セントスルオージェロウ(Augeran)師團ニモ到着スルニ從ヒテ速カニ戰鬪ニ加入スヘキ命令カ達シタ、今ヤ擲彈兵ノ集團ハマッセンナ(Massena)ノ指揮ヲ以テ唯一ノ橋梁幅十米、長二百米上ヲ突進シ、死地ニ進入スヘク橋梁ノ一端ニ到着シタ、眼前ニ配置サレアル對岸ノ敵砲三十門ハ全力ヲ擧ケテ橋梁附近ニ猛火ヲ集中シツツアル、敵ノ歩兵モ嚴然トシテ銃口ヲ我ニ擬シテオル、之ニ對シテ單ニ一條ノ橋梁ヲ突進セントスルノテアル、劍ノ山ニ昇ルヨリ更ニ難イ、宛然猛火ノ中

ニ跳ヒ入ルト同様テアル、流石勇敢ナル突撃縱隊モ此ノ無謀的ナル大冒險ニ躊躇ノ色カ見ハレ、將校ノ中ニハ其ノ不可能ナルヲ上申スルモノモアツタ、奈翁ハ部下ノ逡巡躊躇セルヲモ顧ミス、必勝ノ確信ヲ以テ其決心ヲ翻サナイ、然シ損害ヲ可及的滅スル爲メ其ノ騎兵團ヲシテ上流ヨリ不意ニ渡河シ其ノ方面ニ敵ヲ牽制セシメ、之カ成果ヲ待ツテ斷行スルコトトシタ、

日ハ西山ニ没セントスル頃、敵ノ右側ニ當リテ砲聲カ轟キ始メタ、言ハスシテ佛騎兵團ノ脅威ニ對スル戰鬪カ惹起セラレタノテアル、奈翁ハ時コソ來タレト直ニ全砲兵ヲ展開シ猛烈ニ砲撃ヲ開始シテ突撃ヲ準備セシメタ、先是奈翁ハ別ニ小部隊ヲ潛行セシメテ橋梁ノ上、下流ニ於ケル小洲ヲ占領シ、渡河部隊ノ爲メ掩護射撃ヲ爲スノ任務ヲ與ヘテオイタカ、此ノ部隊モ砲撃開始ト共ニ牽制的ニ火戰ヲ開始シタ、暫クスルト敵火ハ漸次ニ衰ヘテ來タ、勇壯ナル總進撃ノ譜ハ直ニ吹奏セラレ勇士ノ耳朶ヲ衝イタ、奈翁ノ鼓舞督勵ニ依リテ死ヲ決シタル突撃縱隊ハ今ヤ躊躇ノ色モ見セス、諸勇將ハ其ノ先頭ニ立チ、奮然トシテ橋上ヲ突進シタ、敵ノ猛射ハ累々タル死屍ヲ橋上ニ堆積シテ突進ノ爲メノ障礙物ト爲ツタ、先頭部隊ハ橋梁ヲ全部

突進シ兼ネタ、此危急ノ際ニ、彼岸ノ水深、淺キニ氣カ着イタモノカアツタ、先頭ノ部隊ハ直ニ橋上ヨリ河中ニ跳ヒ込ミ、横廣ノ正面ニ展開シテ戰鬪ニ便スルト同時ニ、後續隊ノ爲メ進路ヲ開イタ、密集縱隊ハ堤防ノ決潰シタル如ク彼岸ニ漲溢シ、猛烈ナル勢ヒヲ以テ塊ノ第一線ヲ撃退シタ、塊ノ新銳ナル砲兵ハ後方ニ陣地ヲ布キテ恢復ヲ圖ラントシタカ、續テ渡河セル騎兵團ノ突進ニ依リテ席捲セラレ其ノ砲ヲモ奪ハレタ、

佛軍ノ斷行シタル此ノ大冒險ハ斯クシテ赫々タル成功ヲ齎シ、砲十五門ト二千ノ損害トヲ敵ニ與ヘ、以テロヂ(Lod)ノ戰鬪ヲ終ツタノテアル、

佛軍ノ敢行セル大冒險ハ奈翁以下各將卒ノ確乎タル決心ト勇氣トニ依リテ功ヲ奏シタモノト言フヘキテアル、蓋シ上下一致シタル集結力ハ實ニ鐵石ヲ貫クノ威力ヲ生セシメ殆ント不可能ト思意セラルルコトヲモ成シ遂ケ得ルモノテアル、而シテ此威方ヲ生セシムルコトカ勝利ヲ得ヘキ大要素ヲ爲スモノテ即チ統帥ノ妙ニ歸スルノテアル、勇敢ナル佛軍モ最初ハ大ニ逡巡シタルニ拘ハラス、第二回ニハ全ク別人ノ感アル程勇敢ニ行動シタテハナイカ、言フ迄モナク、人間



ハ機械テハナイ、神經モアル、感情モアル、特別ノ人ハ別トシテ、凡人ハ時ニ勇敢ナルコトモアルシ、時ニハ逡巡スルコトモアル、天性勇武ナル日本人モ、最近日露戰役ニ於テ旅順ノ悲惨ナル戰鬪ヲ續クルヤ之ニ參加スルヲ厭フコトヲ公言スルニ至ツタモノカ尠クナカツタ様ニ記憶シテオ、即チ此ノ人情ノ弱點ヲ亢奮セシムル如ク指導スルノカ統帥上、最モ注意スヘキ要件テアルト思フ、

ロヂ(Lodge)ノ戰鬪ニ於テ先登ノ名譽ヲ博シタル勇士ハ、後ノ元帥タルランヌ(Lane)其人テアツタ、將軍ハ當時聯隊長テアツタカ、彼ハ佛國萬歳ヲ連呼シツツ敵中ニ突入シ、先ツ敵ノ一軍旗ヲ奪ヒ、次テ自己ノ馬カ敵彈ニ斃サルルヤ、數百ノ敵騎ニ對シ縱橫無盡ニ斬リ廻シ、塙ノ一士官ヲ殪シテ其ノ馬ヲ奪ツテ之ニ跨リ危機一髮ノ間ヲ免レテ本陣ニ戻ツテ來タ、奈翁ハ其ノ勇ニ感シ一躍シテ師團長ニ拔擢シタ、第二ノ先登者ハ奈翁夫レ自身テアツタ、此ノ時奈翁モ必死ノ勢テ、卒先萬死ヲ冒シテ模範ヲ示シタノテアル、現今ノ戰鬪ニ於テ軍司令官タル將帥カ一橋梁ノ通過ニ際シ先登ニ立ツカ如キハ恐ラクアルマイ、故ニ此動作ハ直ニ採ツテ以テ形式的ノ模範トスルコトハ出來ヌ、然シ卒先躬行ノ偉大ナル力ヲ發揮ス

「ルコトハ昔モ今モ變リハナイ、故ニ奈翁ノ此動作ハ其精神ニ於テ模範トスヘキモノテアル、

尙ホ茲ニ一言ノ注意ヲ要スルコトカアル、即チロヂ(Lodge)ニ於ケル強行通過ノ利害テアル、此ノ動作ハ兎ニ角甚タシキ冒險テ、一步ヲ誤マツタナラハ全滅ノ悲況ニ陥ラヌトハ限ラヌ、當時ノ情況上、佛軍ハ是非此ノ大危險ヲ犯サナケレハナラナカツタテアロウカ、奈翁ハ此動作ニ關シ自カラ次ノ如ク述ヘテオ、

ロヂ(Lodge)ノ戰鬪ニ於テ我軍ハ橋梁ヲ強行セサルモ、迂回ヲ以テ成功スルコトカ出來タテアロウ、然シ戰略ノ要訣ハ時間ト距離トヲ節約スルニ在リ、而シテ、予ハ此距離ヨリモ時間ノ節約ニ重キヲ置クモノテアル、是レ距離ハ他日之ヲ恢復スルコトカ出來ルカ一度失フタ時間ハ再ヒ還ラヌカラテアル、

當時ノ火器ニ對シテスラ甚タ冒險テアツタノテアルカラ、現今ニ於テハ此ノ大軍ヲ以テ斯ノ如キ行動ヲ企ツル如キハ無謀テアル、到底成功ノ望ミハナイコトヲ知ラネハナラヌ、現ニ騎兵ハ上流カラ渡河ヲ實行シテオ、ルノテアルカラ、況ンヤ歩兵ハ更ニ容易ニ徒涉スルコトカ出來ル譯テアル、只タ晝間此方面ニ迂回ス

レハ敵ニ察知セラルルカラ、同様ニ對岸カラ妨害ヲ受ケルコトハ、覺悟セナケレハナラヌカ、一橋梁ノミヨリ突進スルニ比シ其ノ成功ノ難易ハ日ヲ同ウシテ語ル能ハサル程ノ差カアル、故ニ現時ノ發達セル火器ヲ基礎トシテ考ヘタナラハ、例ヘ迂回ノ爲メ若干ノ時間ヲ要スルニセヨ、此ノ徒涉場ヲモ利用スルノカ穩當テアル、又タ情況之ヲ許シタナラハ、夜間ヲ利用スルコトニ着意スヘキテアル、然シ小部隊ニ於テハ斯ノ如キ強行通過ヲ行フヲ要スル場合力往々惹起セラルルテアロウ、此際ニ於テハ奈翁ノ取リタル部署ハ參考トスルニ足ルノテアル、要スルニロヂ(Lodi)ノ戰鬪ハ小部隊ニ利用スルノ他ハ主トシテ精神的方面即チ佛軍將卒ノ勇敢、確乎不拔ノ決心、集結力ノ偉大等ニ就テ大ニ學フヘキモノカアルコトニ注意シタラ良カロウト思フ、

### 奈翁ノマイランド(Mailand)進入及駐留

埃軍ハロヂ(Lodi)ノ敗戦後一覽圖其(第八號添附)ニ示セル如ク遠クミンチオ(Mincio)河(Lodi)東方百吉米ニ在ルMantua附近ヲ南北ニ流ルノ彼岸ニ迄退却ヲ續行シ、

佛軍ハオージエロウ(Augereau)師團及ヒ騎兵團ヲ以テ之ニ尾シテ、クレマ(Crema)(Lodi)東方二十吉米迄前進シ、又タ曩ニパヴィア(Pavia)ニ向ヒセルリール(Serrurier)師團ハピッチゲットン(Pizzighetone)要塞(Lodi)東南方ヲ攻略スル目的ヲ以テ轉進シ、マッセナ(Massena)師團モ之ニ協カスヘクアッダ(Adda)河ノ左岸ヲ南下シタ、然ルニ同要塞司令官ハ佛軍ノ威風堂々タル進軍ヲ望ミ見テ到底抵抗ノ無益ナルヲ考ヘタカ十三日ニ一戰ヲ交ヘスシテ佛軍ニ降り、又タ其東南方クレモナ市モ間モナクセルリール(Serrurier)師團ノ有ニ歸シタ、

連戦連勝、所謂破竹ノ勢ヲ以テ進入セル佛軍モ已ニ一ヶ月以上ノ難戦苦闘ニ依リテ最早遠ク追撃スルノ餘力カナクナツタ、於是奈翁ハ先ツ征略シタル地方ノ整理軍隊ノ整頓等ノ爲メ一時ロンバルディ(Lombardie)ノ首府タルマイランド(Mailand)附近ニ集結スルニ決シ、彼レ自カラハ五月十五日ヲ以テ威風堂々トシテマイランド(Mailand)市ニ乗込ミ、二十二萬ノ市民ヨリ王侯以上ノ歡迎ヲ受ケツツ暫ク同市ニ駐留スルコトトナツタ、彼ノ得意ヤ想フヘシテアル、

奈翁已ニマイランド(Mailand)ニ入ルヤ、多額ノ課金ト軍隊ノ給養トヲ市民ニ負擔

セシメ、其他ノ諸小國カラモ同シク多クノ償金、物資ヲ取りタテ、以テ今迄テ空乏ナリシ各隊ノ金庫ヲ充滿セシメ、被服糧秣ヲ豊富ナラシメ、滯リタル給料ヲ皆ナ支拂ハシメタ、實ニ彼ハ着任當初ニ於ケル大膽ナル訓示ノ言質ヲ十分ニ實行シタノテアル、而已ナラス、彼ハ軍ノ需用以外ニ多額ノ財貨ヲ本國政府ニ送附シテ、國庫ノ空乏ヲ救ヒ、殊ニ又タ多數ノ美術品ヲモ送致シテ、美術ノ發展ニ大ナル貢獻ヲ爲サシメタ、彼ノ各方面ニ於ケル着眼ハ、感服ノ至リテ大ニ餘裕アリシヲ示スモノテアル、奈翁ノマイランド(Mailand)駐留ハ約一週日ニ及ヒシカ、此間、佛ノ各隊ハ概ネ次ノ位置ニ駐留シタノテアル、

マッセナ(Massena)師團

マイランド(Mailand)

オージロウ(Augerean)師團

パビア(Pavia)

セルリール(Serrurier)師團

ピアセンツァ(Piacenza)

先是佛ノ共和政府ハ五月十四日ヲ以テ奈翁ニ對シ次ノ要旨ノ訓令ヲ與ヘタ、

伊太利軍ノ總指揮權ヲ二分シ、ケルレルマン(Kellermann)ヲシテポー(Po)河左岸ヲ擔任セシム、

貴官ハ伊太利半島方面ノ作戰ニ任スヘシ、

此ノ指揮權ノ分立ハ作戰ノ統一ヲ害シ、軍ノ圓滑ナル協同動作ヲ妨ケ、統帥上、大害アツテ小利ナキ愚策テアル、然ルニ共和政府カ敢テ斯ノ如キ訓令ヲ下シタル真意ハ當路ノ高官ノ位置カ基礎未タ固カラサルニ當ツテ、奈翁ノ隆々タル勢力、威望ヲ益々高上セシムルコトカ心配ニ堪ヘナイ、ソコテ、豫メ之ヲ制限スル爲メノ策略テアツタ、當路者ノ眼中、唯タ自己アルヲ知ツテ、佛國アルヲ知ラサルモノト批難ヲ受ケテモ仕方カアルマイ、斯ノ如キ軍事上、危険ナル事柄ハ何レノ時代ニモ有リ、勝ちノ事テ、軍事當局者カ此ノ難關ヲ突破スル爲メニ往々非常ナル努力ヲ要スルコトアルヲ覺悟セネハナラス、

奈翁ハ直ニ意見ヲ具申シテ指揮權分立ノ絶對ニ不可ナルヲ論シ、若シ此ノ訓令ヲ撤回セラルルニアラサレハ、斷然其ノ職ヲ辭スヘシト陳述シタ、政府モ今奈翁ニ逃ケラレテハ大事テアル、從ヒテ不本意テハアルカ彼ノ小刀細工的ナル訓令ヲ撤回スルノ已ムヲ得サルニ至ツタノハ、政府トシテ不面目ノ至リテアルカ、佛軍ノ爲メニハ危機ヲ脱シ得タノテアル、

奈翁ハマイランド(Mailand)駐留間、非常ナル精力ト努力トヲ以テ兵力ノ休養、整頓ヲ圖リ、愈、十九日カラ東方ニ向ヒテ新作戦行動ヲ開始スルニ至ツタ、然ルニ奈翁カマイランド(Mailand)ヲ出發スルヤ、兼ネテヨリ謀シ合ハセテオツタモノト見エ、此首府ヲ中心トシテパビア(Pavia)其ノ他ノ各地方ニ大暴動カ起ツテ、一齊ニ佛軍ニ向ヒ反旗ヲ揚ケタ、依テ奈翁ハ捨テテ置ク譯ニモ行カス、直ニマイランド(Mailand)ニ引キ返ヘシテ叛徒ノ首領ヲ斬罪ニ處シ、或ハ人質ヲ取り、且ツ嚴酷ナル制裁ヲ與ヘテ全部之ヲ鎮定シタル後、更ニ東方ニ向ツタ、

### 佛軍ノミンチオ(Mincio)河畔ヘノ進撃

ポーリユー(Beaulien)ハ佛軍ノ急追ヲ受ケナカツタ爲メ、ミンチオ(Mincio)河畔(Mailand)東方百吉米餘ニ在ル Garda 湖ヨリ南方ニ流ルニ停止シ、ガルダ(Garda)湖ヨリ其南方マンツア(Mantua)要塞ニ亘ル約四十吉米ニ亘ル間ニ其ノ全兵力ヲ分散シ、到ル處薄弱ナル配備ヲ取ツタ、

奈翁ハ一部ヲサロ(Salo)(Garda 湖西岸)ニ派遣シ、恰モ佛軍カガルダ(Garda)湖北方ヲ

迂回シテ直路チロール(Tirol)州(Garda 湖北方一帶ノ地域)ニ進入シテ奥軍ノ背後連絡線ヲ遮斷スルカノ如クニ動作セシメ、主力ハ此間バレギオ(Valeggio)(Garda 湖南方十吉米 Mincio 河左岸對岸附近)ヨリミンチオ(Mincio)河ヲ渡ルニ決シタ、

五月三十日佛軍主力ハ豫定ノ如クバレギオ(Valeggio)對岸ニ前進シ、其附近ニ彷徨セシ約七千ノ敵騎ヲ急襲シテ其ノ三分ノ一ヲ捕獲シタ、次テ勇敢ナル擲彈兵ノ一隊ハ深サ肩ニ達スルノ水流ヲ冒シテ渡河ヲ開始セルヲ動機トシテ諸隊ハ相次テ彼岸ニ達シ微弱ナル奥軍ヲ撃退シツツ前進シタ、

此ノ時奈翁ハ連日不斷ノ勉強ノ爲メカ頭痛ヲ感シタカラ、戦況ノ靜マツタ時機ヲ利用シテ一農家ニ入り暫時休憩ヲ爲シテオツタカ、偶然奥軍騎兵ノ一隊カ司令部前ニ現ハレ直ニ襲撃ニ轉シタ、恰モ佛ノ諸隊ハ近傍ニ居ラナイ全ク孤立テ直接護衛トシテ僅ニ數十騎ヲ有スルノミテアル、今ヤ奈翁ノ運命ハ危キコト風前ノ燈火同様テアル、然ルニ機敏ナル哨兵ハ急ニ其門ヲ閉鎖シテ敵襲ヲ大呼シタ、奈翁ハ恰モ脱靴シテオツタカ、兩靴ヲ穿ツニ暇ナク一靴ヲ手ニシテ馬ニ跨リ、後門ヨリ脱出シテ僅ニ身ヲ以テ免ルルヲ得タ、彼ハ其後直接護衛ノ必要ヲ感シ常ニ勇兵ノ中カ

ラ五百人ヲ選抜シテ其ノ任ニ當テタト云フ、

奧軍ハ佛軍一部隊ノ脅威ニ依リテ其ノ連絡線ノ不安ヲ感シ、且ツ到底佛軍ニ敵シ難シト自覺シ、思ヒ切ツテ自國內チロール(Tirol)州ニ退却シ増援軍ヲ待チテ捲土重來ニ決シ、マンツア(Mantua)要塞ニ一萬三千ノ守兵ト重砲二百五十門トヲ殘置シテ攻勢ヲ取ル場合ノ據點ト爲シタ、

奈翁ハ敵ニ尾シテ六月三日ベローナ(Verona) Mantua 東北四十吉米ニ進入シタ、同市ハアデー、ヂユ(Adige)河畔ニ在ル戰略要點テ、人口六萬ヲ有スル殷富ナル市街テアル、斯ノ如ク佛軍ハ今ヤ戰勝ニ乘シテガルダ(Garda)湖畔迄進撃ハシタモノノ、顧ミテ爾後ノ情況ヲ考フレハ轉タ心痛ニ堪ヘサル難件カ横ハツテオル、試ミニ其主要ナルモノヲ擧ケヨウ、

- 一 奧軍ハ已ニ自國內ニ退却シタカラ不日其ノ勢力ヲ恢復シ、絶對ノ優勢ヲ以テ攻勢ニ轉シ來ルコトハ殆ント明ラカテアル、
- 二 征服シタル伊太利諸國ハ多クハ威壓ニ屈シテオルノテアルカラ、何時爆發スルカモ知レヌ、又タ英軍モ其ノ艦隊ノ掩護ヲ受ケツツ、近ク伊太利附近ノ地

ニ根據地ヲ占メ、隙アラハト窺ツテオル、從ツテ長延ナル佛ノ背後連絡線ハ實ニ危險ニ瀕シテオル、

三 マンツア(Mantua)要塞ハ嚴トシテ眼前ニ峙立シ、佛軍ノ爲メ、危險ナル障礙物テアル、

四 佛軍ハ漸次兵力ヲ減シツツアル、殊ニ數回ノ激戰ニ依リ勇將ノ大部ヲ失ヒ、事實戰鬥力ハ大ニ減シテオルニ拘ハラヌ、増援ハ多クヲ豫期スルコトカ出來ナイ、

觀シ來レハ佛軍ハ多クノ戰鬥ニ勝利ヲ獲得セルニ拘ハラヌ、四圍ノ情況ハ却テ日ニ益、非ナルノ感カアル、流石ノ奈翁モ之ニハ大ニ憂慮シタモノト見ユル、

於是、奈翁ハ今ヨリ直ニ長驅シテ敵地ニ進入スルハ危險テアルト判斷シ、先ツ諸般ノ整理、整頓ヲ速ニ完了スルコトカ最大ノ急務テアルト考ヘ、其ノ軍ヲ次ノ如ク配置シ更ニ一層ノ努力ヲ以テ整理、整頓ニ取リ掛カツタ、

一 マッセナ(Massena)ノ率ユル一萬五千ヲ以テチロール(Tirol)方面ニ對シリポリ(Rivoli)附近ヲ堅固ニ占領セシム、

- 二 サウレー(Saurel)ノ率ユル五千ヲ以テサロー(Salo)附近ニ位置シ以テガルダ(Garda)湖西岸地區ヨリ來ル敵ニ對シ、背後連絡線ノ掩護ニ任セシム、
  - 三 セルリール(Serrurier)ノ率ユル一萬ヲ以テマンツア(Mantua)ヲ攻圍セシム、
  - 四 殘餘(Augerean)師團、Kilmaine騎兵團計七千ハ總豫備トシテヴェローナ(Verona)附近ニ位置セシム、
  - 五 護境兵及傭兵制度ヲ設ケテマイランド(Mailand)地方ノ守備ニ充テ、元來ノ守備兵ハ成ル可ク第一線ニ使用セシム、
  - 六 占領セル各要塞ヨリ重砲二百門ヲ移送シテマンツア(Mantua)要塞ノ攻圍ニ使用セシム、
- 奈翁ノ驚クヘキ精力ニ依リテ多難、複雑ナル整理ヲ約一ヶ月ノ間ニ終リ、愈、七月初旬カラ眞面目ナルマンツア(Mantua)ノ攻圍カ實施セラレルコトトナツタ、

マンツア(Mantua)要塞ノ攻圍(Mantua 要塞圖參照)

マンツア(Mantua)要塞ハガルダ(Garda)湖ト相應シテ東西ノ交通ヲ制スル要點テアル、而シテ其ノ周圍特ニ北方及ヒ東方ハ大ナル沼澤地テアル、其ノ對岸ニハフッボリテ(Favorite)、サンゲオルゲス(S. Georges)ノ二分派堡カアル之ニ依リテ北方及ヒ東方ヘノ交通カ保タレテオル、此沼澤ハ夏期ニナルト水量ハ減スルカ却テ泥濘ナル底質ノ爲メ大ニ通過ヲ困難ナラシメル、又タ此沼澤ヨリ發スル濕氣ハ惡疫流行ノ因ヲ爲シ健康上ニハ甚タ有害ナル所テアル、

先是佛軍ハ分派堡攻圍ノ爲メ、屢、強襲ヲ試ミツツ二週日ヲ經過シタカ常ニ失敗ニ終ツタ、又タ、奈翁ノ畫策ニ依リテ一隊ノ兵ヲ陰ニ舟ニ乗セテ直接マンツア(Mantua)要塞ヲ奇襲セシメントシタカ、不幸ニモ水量カ減シテ渡ルコトカ不可能トナツタ、於是奈翁ハ已ムナク、攻城諸材料ノ到着ヲ待チ、七月初旬カラ愈、正攻ニ着手セシメ七月中旬以後ハ親ラ諸作業ヲ監督シ、銳意其ノ進捗ニ努メタカ、七月下旬ニ至ルモ未タ陷落ノ期ニ達シナイ、

第一回ガルダ(Garda)湖附近ノ諸戰鬪(自七月下旬至八月上旬)

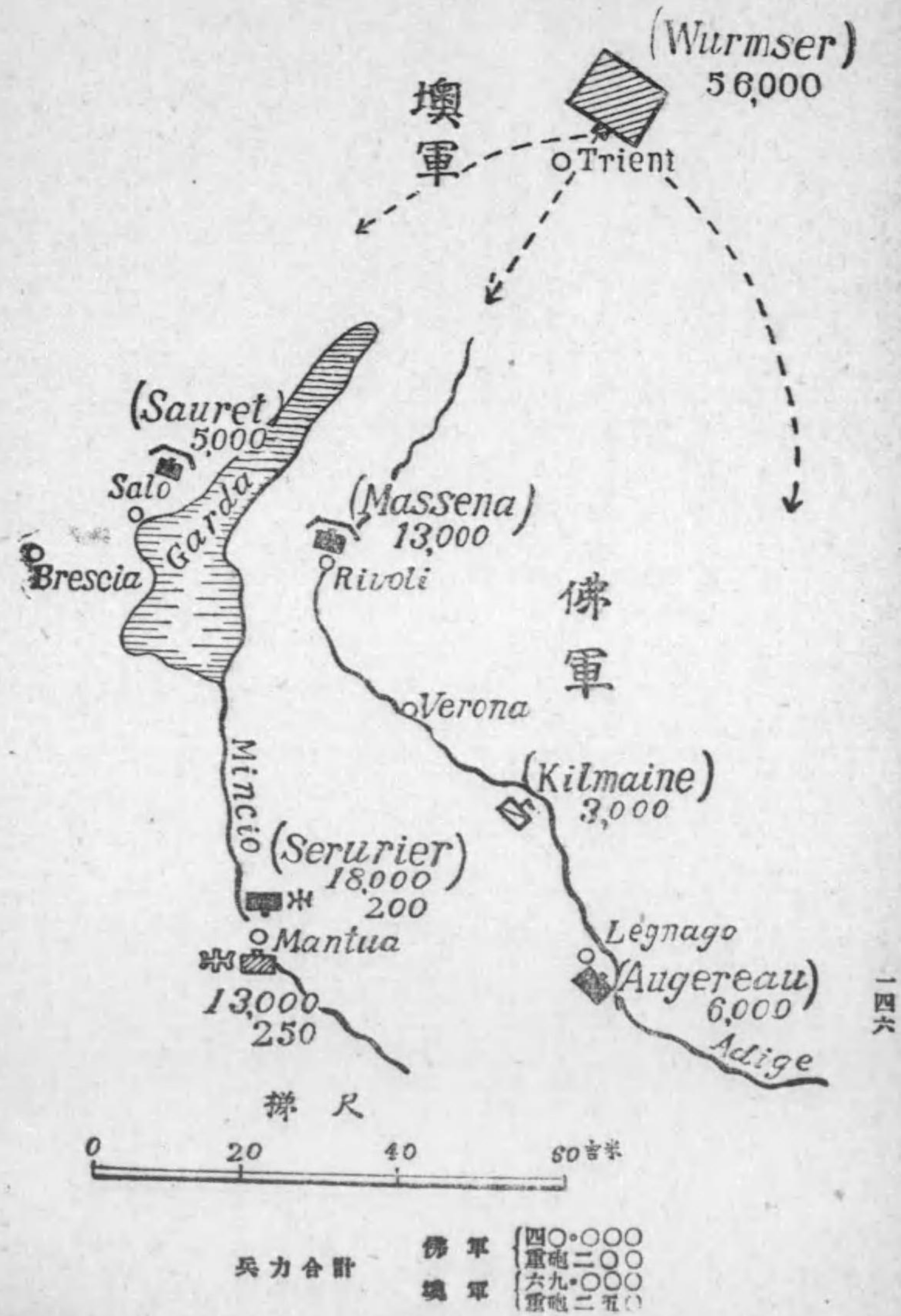
七月下旬ニ於テ奈翁ハ次ノ情報ニ接シタ、

- 一 獨逸方面ニ於ケルカール(カール)大公ノ軍ハ佛軍ニ對シテ守勢ヲ取り、其ノ一部ヲ割キテ伊太利軍ニ増援ス、
  - 二 埃將ボーリユー(Beaulieu)ハ自カラ其ノ職ニ堪ヘスト爲シテ辭職シ、新タニ八十歳ノ老将ウルムゼル(Wurmser)カ代ツテ司令官ニ補セラレタ、
  - 三 埃軍ハ七月下旬已ニトリエント(Trient) (Garda湖東北方三十吉米方面ヨリ行動ヲ開始シタ、其ノ兵力ハ六萬ヲ下ラナイ、
- 當時佛軍一般ノ配置ハ次ノ通りテアツタ、

セルリール(Serrurier) 師團(八千、重砲二百門)    マンツア(Mantua)攻圍ニ從事ス  
 オーシロウ(Augeran) 師團(六千)    レグナーゴ(Legnago) (Mantua) 東方四十吉米  
 ニ位置シ    ヴェローナ(Verona)ヨリ下流アデージユ(Adige)河ノ線ヲ監視ス  
 マッセナ(Massena) 師團(一萬三千)    リボリ(Rivoli) 附近ニ位置シトリエント  
 (Trient)方面ニ對ス、

サウレー(Sauret) 師團(五千)    サロー(Salo)ニ位置シテ北方ニ對ス、  
 キルメイン(Kilmaine) 騎兵團(二千)    ヴェローナ(Verona)トレグナーゴ(Legnago)  
 トノ中間、  
 デスピネー(Despinais) 師團(五千)    マイランド(Mailand)ヨリ東進中ニシテ七  
 月三十一日若クハ八月一日迄ニミンチオ(Mincio)河ノ線ニ達スル豫定、  
 別ニマイランド(Mailand)以西一帯ノ守備トシテ約一萬アリ、  
 合計 野戰軍 四萬  
       守備軍 一萬  
 之ニ對スル埃軍ノ兵力ハ實際次ノ通りテアツタ、  
 クオスダノヴィチ(Quosdanovich)ノ率ユル一兵團(一萬八千)  
 ウルムゼル(Wurmser)ノ率ユル主力軍(三萬一千)  
 メスツァロス(Meszáros)ノ率ユル一兵團(七千)  
 マンツア(Mantua) 要塞守備兵團(一萬三千、重砲二百五十門)  
 合計 六萬九千

七月下旬ニ於ケル兩軍ノ位置要圖



兩軍爾後ノ行動ヲ述フルニ先チテ、ガルダ(Garda)湖附近一般ノ地勢ニ就テ簡單ニ説明シヨウト思フ、  
抑モチロール(Tirol)州カラ伊太利ニ進入スル爲メニ取り得ヘキ主ナル道路ハ三方面ニ分タレテオル、

- 一 東路 (ブレस्ता(Brenta)河谷(Trient)ヨリ東南方ニ流ル)ヲ經テアデーシ(Adige)河谷ニ通スルモノ)
 

此道路ハ濕地多ク、又タ徒涉場ヲ有セサルアデーシ(Adige)河ノ障碍カアル、又タベローナ(Verona)及ヒレグナーゴ(Legnago)ノ兩要塞ニ依リテ大ニ行動ヲ掣肘セラルルノ不利カアル、
- 二 中路 (ガルタ(Garda)湖東岸ニ近キアデーシ(Adige)河谷ヲ經テベローナ(Verona)ニ通スルモノ)

此道路ハアデーシ(Adige)河ノ左岸ニ沿ヘル谷地ニ依リテ多クノ隘路ヲ成形シ特ニリボリ(Rivoli)附近ハ攻者ノ爲メ最モ通過ニ困難ナル地點テアル、但シ道路ハ砲ノ通過ニ支障カナシ、



三 西路 (ガルダ Garda) 湖北方ヨリ其ノ西岸ニ沿ヒテ南方ニ通スルモノ

此道路ハ路質カ良好テナイ、故ニ砲ノ通過ニハ修理ヲ要スル箇所カ少ナクナイ、從ヒテ軍ノ運動ハ比較的遲滯スルテアロウ、

ミンチオ (Mincio) 河ハ諸所徒涉場カアル、又タガルダ (Garda) 湖ノ南側ニテミンチオ (Mincio) 河畔ニ在ルベシエラ (Peschiera) ハ一ノ小要塞テ佛軍之ヲ占領シテオル、

七月二十七日奈翁ハ敵情ニ就テ次ノ報告ニ接シタ、

兵力未詳ノ敵ノ一縱隊ハブレレンタ (Brenta) 河谷ヲ南下シビセンツア (Vicenza) (Trient 東南七十吉米)ニ達セリ、

奈翁ハ之ヲ敵ノ主力ナリト判断シ、直ニオーシロウ (Angereau)ニ命シテロンロ (Ronco) (Verona 東南二十五吉米附近ニ兵力ヲ集結シ、攻撃ヲ準備セシメ、且ツキルマイン (Kilmaine) 騎兵團ヲインローナ (Verona) 西方ニ移シ、東方及ヒ北方ニ對シテ待機ノ姿勢ニ在ラシメタ、然ルニ翌々二十九日ニ至リ更ニ次ノ諸報告ヲ受領シタ、

マッセナ (Massena) ヨリノ報告 敵ノ大縱隊ハトリエント (Trient) 方向ヨリ南下中ニシテ先遣支隊ハ撃破セラレリ、ポリ (Rivoli) ノ陣地モ亦タ維持スル能ハ

ス、

サウレー (Sauret) ヨリノ報告 師團ハ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケ激戦ノ後、デセンツァノー (Desenzano) (Garda 湖西南端)ニ向ヒ退却スルノ已ムヲ得サルニ至レリ、

此ノ情報ニ依リ奈翁ハブレレンタ (Brenta) 河谷ノ敵カ主力テナイコトハ確實ニ判断ヲシタカ、ガルダ (Garda) 湖南岸ノ何レカ敵ノ主力テアルカヲ知ルコトハ出来ナカッタ、

此ノ時、マンツァ (Mantua) 要塞ノ攻圍モ大分進捗シタカ尙ホ一週間乃至十日間ノ後テナケレハ陥落セシメ得ルノ見込カナイ、

斯ノ如ク佛軍ハ奈翁ノ豫期シタ通り、愈々至難、危険ノ境遇ニ陥リツツアル、非凡者ノ大手腕ヲ發揮スヘキ眞面目ノ秋カ到着シタノテアル、知ラス、彼ハ如何ニシテ此ノ難境ヲ突破セントスルカ、諸君ハ先ツ奈翁トナツテ如何ニ決心シ、處置スヘキカラ熟考セラレヨ、

以下吾人ノ所見ヲ略述シヨウト思フ、

此答解ハ概ネ次ノ數案ノ一ニ歸スルテアロウ、

第一案 ポー(Po)河ニ沿フテ退却シ兵力ノ略ホ均衡ヲ得ルヲ待チテ攻勢ニ轉セントス、

第二案 ガルダ(Garda)湖ノ南方地區ニ兵力ヲ集結シ湖水ノ兩岸ヲ前進中ナル敵ノ何レカ一方ニ對シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントス、

第三案 ガルダ(Garda)湖東側ヲ前進スル敵ニ對シ攻勢ヲ取ラントス、

第四案 ガルダ(Garda)湖西側ヲ前進スル敵ニ對シ攻勢ヲ取ラントス、

マンツア(Mantua)ノ攻圍ニ就テハ依然之ヲ續行スルモノ、或ハ一部或ハ主力ヲ決戰方面ニ招致セントスルモノ等ニ分タルナラン、

以下各案ニ就テ其ノ利害ヲ研究ス、

第一案 軍ノ安全ヲ保ツニハ最良ノ案テアル、目下南下中ノ敵ハ先ツ六萬、要塞ノ戍兵ヲモ加フレハ七萬ニ達ス、我ハ四萬ニ過キナイ、故ニ單ニ兵數ノ上カラ考ヘタナラハ直ニ攻勢ニ出ツルハ冒險ニ過クルノ感カアル、然シ翻テ熟考スレハ佛軍カ今日迄、惡戰苦闘ノ結果、獲得シタル利益ヲ一朝ニシテ放棄スルノハ大損

害テ忍ヒ難キ所テアル、而已ナラス今佛軍カ退却シテ弱味ヲ見セタナラハ、伊太利諸國ハ相呼應シテ叛旗ヲ翻ヘシ容易ナラサル大事變ヲ惹起スルハ殆ント疑フノ餘地カナイ、然ラハ退クノ利ハ到底其ノ大害ヲ償フニ足ラス、故ニ此案ハ萬策盡キタル後ノ窮策テアルト思フ、

第二案 此案ハ軍ヲ一時待機ノ姿勢ニ在ラシメ搜索ノ結果如何ニ依リ、敵ノ主力ヲ求メテ攻勢ヲ取ルカ、或ハ自己ニ近キモノヲ先ツ擊破セントスルニ在ルノテアル、是レハ理論上、一應ノ理由ハアル、然シ其ノ實施カ果シテ適時ニ行ハレ得ルヤ否ヤカ頗ル疑問テアル、古來ノ戰例ニ照シテモ其ノ甚タ至難テアルコトカ分カル即チ今カラ散在セル兵團ヲ集結スル爲メニハ相應ニ時日ヲ要スル、此ノ集中運動中ニ好機ヲ發見シタ場合ニ應急ノ運動變換ヲ行フコトハ當時ノ通信交通機關ノ状態テハ困難テアル、從ヒテ時機ヲ失シ易イ、且ツ搜索ノ結果モ亦タ必シモ豫期ノ如ク適時ニ必要ナル條件ヲ知り得ルモノトハ限ラヌ、要スルニ此案ハ敵情ヲ基礎トシテ行動ヲ律スルニ在ルカラ、動モスレハ受働ニ陥リ退嬰ノ餘儀ナキニ至リ易イ、從ツテ敵ヲ合一セシメ、又タマンツア(Mantua)要塞トモ手ヲ

握ラシメ以テ敵ヲシテ全然外線ノ利ヲ獲得セシムルニ至ルノ危険カアル、殊ニ目下ノ情況ハ今ヨリ集結スルカ如キ餘裕ヲ有スル場合テナイト思フ、

第三案 ガルダ (Garda) 湖東側ノ地形ヲ見ルニ、リボリ (Rivoli) 以北ハ谷地ヲ成形シ、其以南ハ漸次ニ擴大シテ平地ヲ成シテオル、故ニ敵ノリボリ (Rivoli) 附近ヨリ平地ニ進出スルニ乘シ攻勢ヲ取ツタナラハ成功ノ望ミハアル、然シ自軍カ深入スルニ從ヒテ自己ノ連絡線ハ甚シク危険ト爲ル、殊ニ湖西ヨリ南下中ノ敵カ連絡線ニ突進シ來ツタナラハ全ク背後ヲ遮斷セラルルノ危険ニ陥ルノテアル、故ニ此案ヲ實施スルトキハ湖西方面カ非常ニ心配ニナルカラ、勢ヒ多クノ兵力ヲ此ノ方面ニ割カナケレハナラス、現ニサウレー (Sauré) 師團カ擊退セラレツツアルノ情況テアルカラ、益、多クノ兵力ヲ吸收セラルルニ至ルハ自然テアル、從ツテ少クモ目下東進中ニ在ルデスピネト (Despinais) 師團ハサウレー (Sauré) 師團ニ増加シナケレハナルマイ、斯ク考へ來ツタナラハ、マンツア (Mantua) モ未タ陥落セサル現況ニ於テ此策ヲ取ルノハ穩當テナイト思フ、

第四案 連絡線ヲ最モ安全ニ確保シツツ攻勢ヲ取ルニ最モ適當ナル案テアル

即チ地形上、右側ハペシエラ (Peschiera) 要塞トミンチオ (Mincio) 河トニ依托シ得ルカ故ニ、比較的の小部隊ヲ以テ右側ノ、安全ヲ保ツコトカ出來ル、從ツテ最大ノ兵力ヲ擧ケテ雌雄ヲ決スルヲ得ルノテアル、又タ湖西ノ敵ニシテ決戦ヲ避ケテ退却スルカ如キ場合ニ於テモ尙ホ比較的退路ノ安全ヲ保チツツ湖東ヨリスル敵ヲ迎撃シ得ルノ利カアル、依テ此案ヲ以テ現下ニ處スル最良案テアルト信ス、  
處置ニ關スル注意

一 何レノ案ヲ取ルニシテモマンツア (Mantua) ノ攻圍ハ遺憾ナカラ中止セネハナラス、蓋シ新來ノ敵ヲ破ル爲メニハ一兵ニテモ多キヲ望ムハ當然テ、又タ目下切迫シアル情況ハ、數日間ノ猶豫ヲモ許サヌ、從ツテマンツア (Mantua) ノ陥落ヲ待ツノ暇モナイ、故ニ此際攻圍ヲ繼續スルハ不適當テアル、只タ敵ノ出撃ニ對シ得ル丈ケノ兵力ヲ殘置シ、成ル可ク多クノ兵力ヲ本戰方面ニ招致セネハナラス、

二 プレンタ (Prenta) 河谷方面ヨリ來ル敵ニ對シテハ、勿論、小部隊ニ止メナケレハナラス、恐ラク騎兵ノ一部隊ニ歩兵ノ支援ヲ附シタルモノ位テ充分テアロ

ウ、殊ニ第四案ヲ採用スルトキハ、單ニ觸接ノ爲メ騎兵斥候ノ有力ナルモノテ足リルノテアル、

三 各案共萬一ノ場合ヲ顧慮シテ背後連絡線ヲポー(P)河南岸地區ニ移スノ諸準備ヲ整へ置クコトカ必要テアル、

奈翁ハ七月二十九日マッセナ(Massena)及ヒサウレー(Sauret)ヨリ不利ナル戦闘ヲ交エタル報告ニ接シタトキ一時大ニ情況ヲ悲觀シテポー(P)河ニ沿ヒ退却スルノ意圖ヲ以テ諸將ヲ集メテ會議ヲ開イタト云フコトテアル、然シ翌三十日ニハ更ニ勇壯ナル決心ト變化シ、前述セル第四案ノ通り、先ツ湖西ノ敵ヲ攻撃スルニ決シ、大要次ノ部署ヲ爲シタ、

一 リボリ(Rivoli)ヨリベローナ(Velona)西方ニ退却セシマッセナ(Massena)師團ハ一部ヲ以テミンチオ(Mincio)河ノ線ニ在リテ右側ノ掩護ニ任シ、主力ハ本軍ニ合セシム、

二 マンツア(Mantua)要塞攻圍隊タルセルリール(Serrurier)師團ハ直ニ攻圍ヲ撤シ其ノ一部ヲ軍主力ニ合セシメ、殘餘ハ敵ノ出撃ニ對シ軍ノ右側背掩護ノ目

的ヲ以テマンツア(Mantua)西方ノマルカリア(Marcaria)附近ニ位置セシム、

三 目下東進中ナルデスピネー(Despinais)師團ハサウレー(Sauret)師團ト合シサロー(Salo)ヲ恢復セシム、

(サウレー(Sauret)師團ハ一部ヲ以テ尙ホサロー(Salo)ヲ固守シ、主力ハデゼンツアノー(Desenzano)ニ退却シアリ)

四 オージロウ(Augereau)師團及ヒキルマイン(Kilmaine)騎兵團ハ直ニ西進シサロー(Salo)方向ニ對スル行動ヲ開始セシム、

以上ノ部署ニ依リテ佛軍ハ直ニ行動ヲ開始シ三十一日ニハ軍ノ主力ヲ擧ケテミンチオ(Mincio)河ノ西岸ニ移ツタ、其ノ敏活ナル動作ハ誠ニ歎賞ニ價スル次第デアル、奈翁カ三十日、三十一日ノ兩日間ニ五頭ノ乗馬ヲ乗り潰シタト云フコトカラ想像シテモ其ノ大ナル努力カ察セラレルテハナイカ、又タマンツア(Mantua)攻圍隊カ攻圍ヲ解クニ際シ其ノ重砲ヲ移スニ大ナル時日ヲ要スルノテ大ニ躊躇シタカ、奈翁ハ斷然之ヲ放棄シテ引き揚ケサシタ、二百門ノ大砲ハ例令分捕リ物テハアルカ、佛軍ニ取ツテハ隨分尊イ材料テアル、然シ奈翁ハ此材料ヨリモ尙ホ迅速ナル行動

ヲ必要ト判断シタノテアツタ、

先是埃軍ニ於ケル新司令官ウルムゼル(Wurmser)ハ埃軍ノ前敗ヲ譏カントシ七月下旬トリエント(Trient)地方カラ次ノ部署ヲ以テ攻勢運動ヲ開始シタ、

一 クオスダノヴィチ(Quosdanovich)ノ率ユル一萬八千ヲ以テガルダ(Garda)湖西方ヲ經テプレスチア(Brescia)(Salò)西南二十五吉米方面ニ前進シ、佛軍ノ背後ヲ脅威セシム、

二 ウルムゼル(Wurmser)ハ親ラ三萬一千ヲ率ヒテエツチエ(Etsch)河谷(Trient附近)ヲ經テ Garda 湖東岸ヲ流ルヲ南下、

三 メスツアロス(Mezzaros)ノ率ユル七千ヲ以テバッサノ(Bassano)(Trient 東南六十吉米)ヲ經テマンツア(Mantua)方向ニ前進シ敵ヲ東方ニ牽制セシム、

ウルムゼル(Wurmser)ノ取ツタ部署ニ就テ若干ノ所見ヲ述ヘル、

此ノ部署ヲ概評スレハ徒ラニ兵力ヲ分離シ自カラ其ノ優勢ノ價值ヲ減シ敵ニ乘スルノ機會ヲ與ヘタモノト謂フヘキテアル、

埃軍トシテハ此際其ノ優勢ノ利ヲ現ハス爲メニ兵力ノ大部分ヲ擧ケテ湖西若

クハ湖東ノ何レカ一方ニ使用セナケレハナラヌ、然ラハ何レノ方面ヲ有利トスルカラ究ムル必要カアル、湖東ニ主力ヲ用ユルハ平凡ナル遣リ方テ單ニ敵ヲ正面的ニ壓迫シ直接マンツア(Mantua)要塞ヲ救援シタル後、更ニミンチオ(Mineio)河ヲ渡ラナケレハナラヌ、殊ニリボリ(Rivoli)進出ノ際ニ乗セララルノ危険モアル、要スルニ湖東ニ主力ヲ用ユルトキハ敵ニ逐次ノ抵抗ヲ試ミラルルトキハ前途甚タ遠ク漸次至難ノ情況ニ陥ル様ニ思ハレル、若シ湖西ニ主力ヲ以テ動作シタナラハ敵ノ苦痛トスル背後連絡線ニ直接迫リ得ルカ故ニ、茲ニ勝利ヲ占ムレハマンツア(Mantua)要塞モ自然ニ圍ヲ解カルルコトトナリ、且ツ又タ敵ハ一旦占領シタルベローナ(Verona)方面ヨリ背轉シテ我ニ對スルノ不利カアル要スルニ此案ハ敵ヲ決戦ニ餘儀ナクセシムルノ公算多ク、例令其ノ機ヲ逸シテモ尙ホ作戦線ヲ短縮シ得ルノ利益カアル、其ノ通路ノ比較的的不良ナルカ如キハ此際大局ヨリ見テ、左程重キヲ爲スモノテナイ、

クオスダノヴィチ(Quosdanovich)軍ハ七月二十九日佛ノサウレ(Sauret)師團ヲサロ(Salò)ニ撃破シ三十一日ニハロナト(Lonato)(Garda 湖西南端附近)及ヒ其西南方

ノ地區ニ前進シタ。恰モ此日、デスピネー (Despinais) 師團ハロナト (Tonato) ニ駐止シテ  
 オツタカラ、兩軍ハ此處テ衝突シタカ、恰モ同地ニ向ツテ前進中ナリシオージエロ  
ウ (Angereau) 師團ノ前衛モ其ノ戰鬪ニ參加シテ遂ニ埃軍ヲ退却セシメタ。  
 此日サウレー (Saure) 師團ハサロー (Salo) 恢復ノ爲メ前進シ同地ヲ頑守シアリシ同  
 師團ノ一部ヲ救出シタカ、埃軍カ已ニ其ノ側背ニ迫リ來レルヲ知ルヤ再ヒデセン  
ツノ (Desenzano) ニ退却シタ。

又タウルムゼル (Wurmser) ノ直接率ユル主力ハマッセナ (Massena) ノリボリ (Rivoli) 撤  
 退後、緩慢ナル前進ヲ以テ三十日ニリボリ (Rivoli) 南方平地ニ進出シタカ最早附近  
 一帯ニ佛軍ヲ發見シナイ、ソコテ敵ハ已ニミンチオ (Mincio) 河右岸ニ移リタルナラ  
 ント判斷シ、彼ハ先ツ危難ヲ若干日延ハシ得タル爲メカ大ニ欣ンタト云フ、於是、埃  
軍ハ先ツ一部ヲ以テベシエラ (Peschiera) 要塞ノ封鎖ニ任セシメ、東路ヲ經テ前進セ  
 ルメスツロス (Meszaros) ノ軍ヲ合シ三十一日ヲ以テ更ニ徐々トシテマンツア (Man-  
 fun) ニ向ツテ牛歩ヲ進メタ。

今ヤウルムゼル (Wurmser) ノ大軍ハ緩慢ナカラモ兎ニ角、佛軍ニ近ツキツツアルカ

故ニ、其ノミンチオ (Mincio) 河ヲ渡ツテ西進シ來ルモ且夕ヲ圖ラレサル情況テアル  
 而カモ三十一日ニロナト (Tonato) 附近テクオスダノヴイチ (Quosdanovich) ニ與ヘタ打  
 撃ハ左程大ナルモノテハナカッタ、從ツテ兩方面ノ敵カラ同時ニ合撃ヲ受クルノ  
 危険カ益、増大シツツアルノテアル、奈翁ノ第一ノ企圖ハ斯クシテ其成功カ疑問ト  
 ナツテ來タ、彼ハ臨機如何ナル手段ニ出テテアロウカ

奈翁ハ兩方面ノ敵ノ何レカニ向ヒテ更ニ攻勢ヲ取ルノ目的ヲ以テ先ツ主力ヲ集  
 結シ機ノ至ルヲ待ツニ決シ、次ノ部署ヲ爲シタ (Tonato, Castiglione 戰鬪圖參照)

一 サウレー (Saure) 師團、デスピネー (Despinais) 師團ヲ以テ依然クオスダノヴイ  
チ (Quosdanovich) 軍ノ攻撃ヲ續行セシム、

二 オージエロウ (Angereau) 師團及ヒ騎兵團ハウルムゼル (Wurmser) 軍ニ對スル爲  
 メカステイグリオン (Castiglione) (Tonato 南方十吉米) ニ向ヒ前進セシム、

三 マッセナ (Massena) 師團ハ主力ヲ以テモントサンマルコ (Mont. San. Marco) (Tonato  
 西方十吉米) 附近ニ集結シテ準備ノ姿勢ニ在ラシム、

此ノ部署ニ就テ予ハ一ノ所見ヲ有ス、此ノ方法ハ所謂戰略的中央陣ヲ取ツ

タモノテアル、元來此ノ方法ハ多クノ場合ニ於テハ動モスレハ機ヲ失シ、受働ニ傾キ挽回スヘカラサル窮境ニ陥リ易イ、故ニ非凡ノ將帥ト訓練ノ良好ナル軍隊トヲ俟ツテ始メテ功ヲ收メ得ヘキモノテアル、殊ニ兩方面ノ敵ニ對シテ全兵力ノ大部ヲ使用シ、中央後ニハ單ニ豫備隊のニ一師團ヲ有スルノミテアルカラ、機ヲ失シタナラハ各個ニ擊破セラルルノ虞レ甚タ大テアル、依テ此際ハ湖東ノ敵カ未タミンチオ(Mincio)河以西ニ進出セサルニ先チ依然前決心ヲ以テ湖西ノ敵ニ對シ更ニ猛烈ナル一撃ヲ與フルノ策ニ出ツルヲ穩當ナリト信ス、

奈翁ハ翌八月一日ヲ敵情搜索ト諸準備トニ費シ二日ヲ以テ行動ヲ開始シタ、八月三日、埃ノクオスダノヴァチ(Quoslanovich)ハウルムゼル(Wurnser)ト連絡スル目的ヲ以テ北方ヨリデセンツァノ(Desenzano)ニ向ヒ前進ヲ開始シ間モナク佛ノデスピネー(Despinais)師團ト衝突シ之ヲ壓迫シテ西方ブレスタア(Brescia)方向ニ退却セシメ、續テ南進シロナト(Lonato)附近ニ於テマッゼナ(Massena)ノ一部ヲモ驅逐シタ、此頃佛ノサウレー(Sarnet)師團ハ依然サロー(Salo)ヲ占領シテ當面ノ埃軍一部隊ト相對シテ停止シテオツタ、即チ其ノ背後ニハ埃ノ大軍カ南進シツツアツタノテ

第二ロナトノ戰鬥圖(參照)

アル、  
奈翁ハロナト(Lonato)ニ於ケル敗報ヲ知ルヤ直ニマッゼナ(Massena)師團ノ主力ヲ同地ニ向ヒ前進セシメ奈翁自身モ亦タ之ト同行シ、茲ニロナト(Lonato)ノ激戦カ惹起セラレタ、

埃軍ハ最初其ノ右翼ヲ擴張シテ佛軍ノ左翼ヲ包圍セント企テ、佛軍ハ埃軍ノ中央ヲ突破スヘク試ミタカ、結局戰鬥ハ佛軍ノ勝利ニ歸シ、埃軍ハ東方ニ向ツテ退却ヲ始メタ、ソコテ奈翁ハ敵カウルムゼル(Wurnser)ト合スルヲ妨ケンカ爲メ、機ヲ失セス一隊ヲ急進セシメ、敵ニ先チテデセンツァノ(Desenzano)ヲ占領シテ兩軍ノ連絡ヲ斷ツタ又タサウレー(Sarnet)師團ハサロー(Salo)ヨリ若干南下シテ埃軍背後ノ諸要點ヲ占領シタカラ、埃軍ハ殆ント退路ヲ失シテ大ニ潰亂シ著大ナル損害ヲ蒙ツタ、

此日南方ニ於テモ激戦カアツタ、即チカスティグリオン(Castiglione)第一回ノ戰鬥テアル、

オージロウ(Angereau)師團ハウルムゼル(Wurnser)ニ對スル爲メ所命ノ如ク前進シ

第一カスティグリオンノ戰鬥圖(參照)

カステイグリオン (Castiglione) に接近シ、埃將リプタイ (Ripley) ノ率ユル一部隊カ同地東方ノ高地ニ陣地ヲ占領シアルヲ發見スルヤ、直ニ之ヲ攻撃シテ其ノ陣地ヨリ擊退シタカ、間モナクウルムゼル (Wurnser) ノ縱隊カ逐次ニ戰場ニ到着シ始メタ爲メリプタイ (Ripley) モ亦タ再ヒ踏ミ止マツテ應戰シ劣勢ヲ以テ能ク頑強ニ抵抗ヲ繼續シ非常ナル激戰トナリ勝敗決セスシテ日没ト爲ツタ、埃軍ハ夜暗ヲ利用シテ其ノ陣地ヲ撤シタ、然ルニ佛軍モ大損害ト疲勞トノ爲メ追擊ノ餘力カナカツタ、斯クシテ佛軍ハウルムゼル (Wurnser) ノ前衛ヲ辛ウシテ擊退ハシタカ、尙ホ敵ノ主力ハ大舉シテ來攻スルテアロウカラ、一刻モ早ククオスダノヴィチ (Quosdanovich) 軍ノ始末ヲツケ、一兵ヲモ多ク集結シテウルムゼル (Wurnser) ト雌雄ヲ決シナケレハナラヌ、佛軍ハ愈々多忙トナツテ來タノテアル、

於是奈翁ハ翌八月四日ヲ以テサウレー (Saurey) デスピネー (Despinais) 師團並ニマツセナ (Massena) 師團ノ一部ヲ以テ更ニクオスダノヴィチ (Quosdanovich) 軍ヲ攻撃セシメ終ニ之ヲ遠ク西北方及ヒ北方ニ擊退スルヲ得タノテ、先ツ湖西ノ敵ニ對シテハ一段落カツイタノテアル、佛軍ノ爲メニハ大ニ前途ノ光明カ認めラルルコトトナ

ツタ、

此日夕刻一ノ喜劇カ演セラレタ、奈翁ハ僅カニ一千ノ手兵ヲ提ケテ情況視察ノ爲メロナト (Lonato) 方面ニ赴イタ、然ルニ突然敵ノ軍使カ司令部ニ來ツテ降服ヲ勸告シタ、司令部ノ職員ハ大ニ驚イタノモ無理ハナイ、然シ慧眼ナル奈翁ハ之ヲ以テ逃ケ後レタル敵ノ殘兵カ窮餘ニ出テタル逃亡策テアルト看破シタ、ソコテ軍使ヲ面前ニ引キ出シ、大ニ之ヲ叱責シタ上、直ニ投降スルニアラスンハ即チ全軍ヲ擊殺スヘシト威嚇シタ、其ノ結果敵ノ歩兵三大隊、砲數門ハ大ニ畏レテ僅々一千ノ小部隊ニ降ツタノテアル、

湖西ノ敵ヲ始末シタ奈翁ハ八月五日ヲ以テ愈々最後ノ幕タルウルムゼル (Wurnser) トノ決戰ヲ試ミルヘク決シタ、將卒共ニ必勝ヲ確信シ、夜ノ明クルヲ遲シト待チワヒタ、此戰鬪ニ參加スヘキ佛軍ハオージエロウ (Angereau) 師團、キルマイン (Kilmaine) 騎兵團ヲ始メトシ、マッセナ (Massena) 師團、デスピネー (Despinais) 師團ノ一部トセルリール (Berrurier) 師團ノ主力トテ其兵力ハ確實ニ知ルヲ得サルモ、恐ラク三萬ニ上ツタテアロウ、



以上ノ中テ、セルリール (Serrurier) 師團ハマンツァ (Mantua) ノ攻圍ヲ撤シテマルカリ  
 ア (Marcaria) ニ位置セルコトハ己ニ述ヘタ所テアルカ、此師團ハグイディツォロ (Guidi-  
 zolo) 戰圍南端附近ヲ經テ敵ノ左側背ニ行動スヘキ任務ヲ受ケタノテアル、  
 埃軍ニ於テハ主カヲカステイグリオン (Castiglione) 附近ニ停止セシメ、之ヲ二線ニ配  
 備シ右翼ヲソルフエリノ (Solferino) ニ托シ左翼ハメドラ (Medola) 北方ノ小丘ニ托シテ  
 陣地ヲ占領シ後方ニ對シテハ別ニ備フル所ナシ、其兵力ハ約二萬五千ヲ算ス、  
 奈翁ノ企圖ハセルリール (Serrurier) 師團ノ戰圍開始ヲ機トシテ正面ヨリ總攻撃ヲ開  
 始スルニ在ツタ、然シ同師團ノ行動ヲ成ル可ク敵ニ察知セシメサルコトカ緊要テ  
 アル之カ爲メニハ速ニ正面カラ攻撃ヲ開始シ敵ノ注意ヲ正面ニ牽キツケル手段  
 ヲ取リタクモアル、然シ又タセルリール (Serrurier) 師團ノ到着前ニ攻撃ヲ開始スル  
 ハ本來ノ企圖ニ反スルノテアル、於是彼ハ一計ヲ案シオージ<sup>ホ</sup>ロウ (Angereau) 及ヒマ  
 セナ (Massena) 兩師團ノ一部ヲ以テ陽攻ヲ爲シ次テ故意ニ退却セシメタ、敵ハ此計略  
 ニ乗ツテ追撃ヲ始メ其ノ右翼ヲ擴張シテマツセナ (Massena) ノ包圍ヲ企テタ、從テ  
 敵ノ左翼ハ薄弱テ、主トシテ注意ヲ右翼方面ニ用ヒテオ<sup>ル</sup>コトカ判斷セララルノ

テアル、故ニ奈翁ノ注文通りニ敵カ動作シツツアルノテアル、セルリール (Serrurier)  
 師團ノ前進モ故障ナク實行サレル公算カ漸次確實ト爲ツテ來タ、  
 此陽攻ヲ爲サシメタノハ巧妙ノ動作ヲ要スルカラ、動モスレハ錯誤ヲ來タシ大  
 ナル危険ヲ包藏シテオ<sup>ル</sup>、故ニ猥リニ行フモノテナイ、然シ非凡ノ統帥者カ自カ  
 ラ監視ヲシテ實施スル場合ニ於テハ又タ格別テアル、  
 計略ニ乗セラレタ埃軍ハ其薄弱ナル左翼ヲ猛烈ニ砲撃セラレ一部ノ歩兵カラ突撃  
 ヲ受ケテ左翼ノ堡壘ヲ奪ハレタ、佛軍ハ之ニ依リテセルリール (Serrurier) 師團トノ連  
 絡ヲ確實ニスルコトカ出來ル様ニナツタ、今ヤ勝利ハ殆ント佛軍ノ手ニ傾キツツアル  
 セルリール (Serrurier) 師團ハ敵ニ發見セララルコトナク不意ニ其ノ歩兵ヲ以  
 テウルムゼル (Wurnser) ノ司令部ヲ急襲シタ、埃軍ノ驚キハ勿論テアル、ウルム  
 ゼル (Wurnser) モ將ニ捕獲セラレントスル危険ニ迫ツタカ、幸ニシテ其ノ騎兵ノ決  
 死的奮闘ニ依リ僅ニ身ヲ以テ免レタ、ソコテ埃軍ハ急ニ第二線部隊ヲ轉向シテセ  
 ルリール (Serrurier) ニ對スルノ窮策ヲ取ツタ、埃軍ノ正面ハ薄弱ト爲ツタ、正ニ脅威  
 ハ成功シタノテアル、機乘スヘシ、直ニオージ<sup>ホ</sup>ロウ (Angereau) 及ヒマ<sup>セ</sup>ナ (Massena) ノ

兩師團ニ總攻撃前進ノ命令カ傳ヘラレタ、乃チ兩師團ハ雀躍シテ勇進ヲ始メタ、オ  
 ーゼンロウ (Augereau) ハ敵ノ中央ニ、マッセナ (Massena) ハ敵ノ右翼ニ向ヒ突進シセルリ  
 ール (Sorurier) ト相俟ツテ敵ヲ包圍的ニ壓迫シタ、而已ナラス佛ノ増援隊タル約一  
 旅團ハ敵ノ右翼方面ニ到着シテ戰鬪ニ參加シタカラ、埃軍モ今ヤ力支フル能ハス  
 敗退ノ己ムナキニ終ツタ、

此戰鬪ニ於テ埃軍ハ約三千ノ損害ヲ生シ砲二十門ヲモ奪ハレ、伊太利恢復ノ望モ  
 殆ント覺束ナキニ至ツタノテアル、

此ノ戰鬪後、佛軍ノ追撃ハ甚タ緩慢テアツタ爲メ、埃軍ハ大敗ヲ蒙ツタニ拘ハラ  
 ス、ミンチオ (Mincio) 河ノ線ニ隊伍ヲ整フルノ餘裕ヲ與ヘタコトハ、奈翁ノ遣リ口トシ  
 テハ不似合テアル、是レ後世ノ兵家カ批難シ且ツ佛軍ノ爲メニ惜シム所テアル

追撃ノ緊要ニシテ再戰ノ勞ヲ省カシムルト否トハ、一ニ追撃ノ猛烈ナルト否ト  
 ニ關スルコトハ現今ノ軍人トシテハ誰モ知ラヌモノハナカロウ、奈翁ハ實ニ之  
 カ首唱者テ且ツ實施者テアツタ、然ルニ此戰鬪後、殆ント追撃ト稱スヘキ程ノ行  
 動モ爲サナカツタ、否ナ事實疲勞其ノ他ノ事由ニ依リ爲シ得ナカツタノテアロ

ウト信スル、即チ追撃ノ言フヘクシテ行ヒ難キヲ知ルニ足ルノデアアル、故ニ追撃  
 實施ニ際シテ生スヘキ凡テノ障礙ヲ平素ヨリ充分ニ研究シ、可及的之ヲ排除ス  
 ルニ努力シナケレハナラヌ、之ヲ大ナル範圍即チ戰略的ニ考フレハ、後方機關ノ  
 整備如何カ大關係ヲ有スルノテアルカ、各團隊ニ於テハ戰鬪局ヲ結ヒタル瞬間  
 ノ心理作用即チ張りツメタ氣カ一時ニ弛ミ追撃ノ念カ薄クナル關係ト行軍力  
 ノ如何トニ依リテ左右セラルルノテアル、故ニ平素行軍力ノ練成ニ努力スヘキ  
 ハ勿論、尙ホ精神的關係ヨリ生スル障礙ノ排除ニ注意シナケレハナラヌ、是カ爲  
 メ、演習ニ於テ戰鬪後ハ必ス追撃ヲ實行シタル後、始メテ演習ヲ中止スルヲ原則  
 トスル如ク指導スルモ亦タ一法テアルト思フ、現下ノ實情ハ突撃ヲ以テ演習ノ  
 一段落トスル習慣テアル様ニ見エルカ、之レカ兵卒否ナ將校ニ至ル迄其腦裡ニ  
 染ミ込ミ、突撃カ終レハ、其レテ安心スルト云フ惡習ニ陥ラシムル害カアルト思  
 フ、故ニ追撃ハ戰鬪ノ一部分テアル、敵陣ヲ奪取シタハカリテハ戰鬪ノ局ヲ結ン  
 タモノテナイト云フ感念ヲ養成スル爲メ、上述ノ方法ヲ勸奨スル所以テアル、  
 其後ウルムゼル (Wurmser) ハミンチオ (Mincio) 河畔ニ於テ抵抗ヲ試ミントシタカ、佛

軍カベシエラ(Peschiera)要塞方面カラ其ノ退路ニ向ツテ突進セントスル形勢ニ在ルヲ知ルヤ、其ノ退路ノ危険ヲ慮リ、愈、抵抗ヲ斷念シテ、マンツア(Mantua)要塞ニ以前ヨリハ大ナル兵力即チ一萬八千ノ大兵ヲ殘置シ、主力ハチロール(Tirol)州ニ向ヒテ不愉快ナル退却ヲ開始シタ、斯クシテ、捲土重來セル、優勢ナル奥軍ハ、其ノ伊太利恢復ノ目的ヲ手嚴シク挫折セラレ、祖國ノ爲メニ屈辱ノ上塗リヲ爲シタ、之ニ反シテ佛軍ハ奈翁ノ努力ニ依リ、巧ミナル内線作戰ヲ以テ其ノ危地ヨリ積極的ニ脱出シ得タノテアル

此ノ戰鬪ハ内線作戰ヲ以テ赫々タル成功ヲ獲得シタル一例テアル、抑、内線作戰外戰作戰ノ利害、得失ニ就テハ多ク議論カ戰ハセラレツツアルカラ、予モ亦タ卑見ヲ述ヘ度イト思フカ奈翁ノ戰役中、此ノ戰例カ尙ホ多數ニ有ルカラ、是等ノ戰例ヲ一ト通り説明シタ後チ、尙ホ東西古今ノ戰例ヲ對照シテ研究スル積リテアル、依テ其ノ機會迄御預リニシテ置カウト思フ。

第二一回ガルダ(Garda)湖附近ノ諸鬪戰(自九月上旬至九月中旬)

奈翁ハウルムゼル(Wurmser)軍ヲチロール(Tirol)ノ山中ニ擊退シタ後、更ニ軍ノ整頓

ニ努力シ、其ノ戰鬪力ノ恢復ヲ謀リ、後方機關ノ充實ニ注意シ、以テ奥國ニ進入スルノ準備ニ多忙ヲ極メツツ約一ヶ月ヲ經過シテ八月末トナツタ、當時多少ノ増援兵ヲ受領シタカ、辛ウシテ損傷ヲ補充シ得ルニ過キナカッタノテアル、而シテ其ノ各ノ位置ハ次ノ通りテアツタ、

マッセナ(Massena) 師團(一萬三千)

リボリ(Rivoli) 附近ノ陣地ニ據リテ北方ニ

對ス、

ボトボア(Varbois) 師團(一萬一千)

サロー(Salò) 附近ノ陣地ニ據リテ北方ニ對

ス、

オーシロウ(Augereau) 師團(九千)

ベローナ(Verona)ニ在リテ東北方ニ對ス、

サユーグ(Salugnet) 師團(八千)

マンツア(Mantua) 要塞ノ攻圍ニ任ス、

兵力合計四萬一千

當時奈翁ノ知り得タル情報ニ依レハ奥軍ノチロール(Tirol)州ニ在ルモノハ約四萬人テ、其ノ主力ハトリエント(Trient)及ヒ其ノ以南ニ在リ、又タ其ノ一兵團ハ八月三十日ニブレस्ता(Brenta)河谷(東路)ヲ下ツテ、バサノ(Bassano)ニ到着シタ、於是、奈翁ハ

自九月上旬至九月中旬作戰圖

千七百九十六年伊太利戰役



一七一

直ニ進ンテ之ヲ擊破スルニ決シ九月二日ヲ以テ行動ヲ始メタ其ノ部署ハ次ノ通リテアル、

一七〇

- 一 キルマイン (Kilmahine) 騎兵團ヲベローナ (Verona) 附近ニ殘置シテアデーロジ (Abige) 河ノ線ヲ警戒セシム、
  - 二 ボーボア (Vaubois) 師團ハ湖西ヲ北進シリバ (Riva) (Garda 湖北端)ヲ經テ湖東ヨリ前進スル主力ト連繫セシム
  - 三 マッセナ (Massena) 師團及ヒオージェロウ (Augereau) 師團ハ主力縱隊トシテアデーロジ (Adige) 河谷即チ湖東ノ地區ヲ北進セシム
- 佛ノ各縱隊ハ堂々トシテ前進ヲ開始シ九月四日ニハロネート (Rovereto) (Garda 湖東北方附近)ニ在リシダビドヴィッチ (Davidovich) ノ兵團(約二萬)ヲ擊退シテ翌五日ニハ難ナクトリエント (Trient)ニ進入シタカ當面ノ敵ハ劣勢ナモノテ、主力ヲハナカツタノテアル間モナクウルムゼル (Wurmser) ノ主力ハブレント (Brenna) 河谷ヲ南下シタコトカ分ツタ、

佛埃兩軍ハ互ニ主力ヲ以テ敵ノ側背ニ迂回シタ形ト爲ツタノテアル、斯ノ如キ情況ニ於テ、佛軍ハ如何ニ決心スヘキカ、通常ノ將帥テアツタナラハ其退路ノ顧慮ヨリシテ、少クモ或ル地點迄ハ前進路ヲ南下シテ其ノ危険ヲ輕減シタ後ニ、敵主力ニ轉向スルノカ穩當テアツタロウ、然シ奈翁ハ前回ノ戰闘テウルムゼル(Würmer)ノ御手並ミモ知ツテオルカラ、敵ノ意表ニ出テテ根本的打撃ヲ與ヘンカ爲メ、思ヒ切ツタ決心ヲ取ツタ、即チ主力ヲ擧ケテブレント(Brenta)河谷ヲ敵ノ背後カラ追撃スルニ決シタノテアル、即チ佛軍ノ背後ハ敵方ニ向ケラルルノ奇觀ヲ呈シタ、敵ニハ定メシ意外ニ感シタテアロウカ、佛軍モ亦タ頗ル危地ニ踏ミ入ツタモノテアル、斯クテ佛軍ハ途中敵ノ一部ヲ擊破シツツ前進シ九月八日、バッサノ (Bassano)ニ於テウルムゼル(Würmer)ノ第二梯團タル一萬ノ軍ニ追及シテ之ヲ擊破シタ、ウルムゼル(Würmer)ハ事豫期ニ反シタ爲メ、大ニ狼狽シタカ、今ヤ如何ントモスルコトカ出來ナイ、依テマンツア(Mantua)ニ逃ケ込ンテ餘命ヲ長カラシメント決心シ、南方ニ向ツテ退却ヲ急イタノテル、彼ハ始メ二萬ノ兵ヲ率ヒ二梯團ト爲リテ前進ヲシタノテアルカ、八日ニバッサノ (Bassano)附近テ第二梯團カ追及セラレ、擊破セラ

レタコトハ前ニ述ヘタ所テアル、此戰闘テ埃軍ハ二千ノ捕虜ヲ出シ、砲三十門ヲモ奪ハレタ、

佛軍ハバッサノ (Bassano)附近ノ戰闘後、オージロウ (Augevan)ヲシテレグナー (Legnago)ニ向ハシメ、主力ハ奈翁ノ直接指揮ヲ以テビセンツア (Vicenza)ヲ經テ敵ヲ急追シタカ、途中、マッセナ (Massena)カ通路ヲ誤マツタ爲メ、遂ニ長蛇ヲ逸シ敵ヲシテ十二日ヲ以テマンツア(Mantua)ニ逃入セシムルニ至ツタノハ、佛軍ノ爲メニ惜マサルヲ得ナイ、

此戰闘ハ恰モ走馬燈ノ如キ奇ナル行動ヲ以テ終ツタ、勝利ハ佛軍ノ手ニ歸シタカ、根本的ノモノテハナイ、從ツテ更ニ再戰ノ必要カアルノテアル、又タ此ノ戰闘モ見解ノ仕様ニ依ツテハ一種ノ内線作戰テアル、即チ佛軍カブレント(Brenta)河谷ヲ南下中ハ、腹背ニ敵ヲ受ケタ形テアル、若シダ、ビドヴィッチ (Davidovich)ニシテ猛烈ニ活動シ、ウルムゼル(Würmer)モ亦タ之ト策應シテ佛軍ニ對シタナラハ奈翁ヲ窮境ニ陷レ得タカモ知レヌ、然シ當時ノ埃將ニハ斯ノ如キ技能ハナカッタノテアル、

### 第三回 ガルダ(Garda)湖附近ノ諸戰鬪(特ニ Arcole 附近ノ戰鬪)

(自十一月上旬至十一月中旬)

(此戰鬪ニ就テハ諸君ノ高見ヲ仰ク積リテアル、依テ先ツ經過ノミヲ掲ケ予ノ所見ハ後ニ述ヘルコトトシタ)

佛軍ハ大ナル努力ヲ爲シタニ拘ハラズ、一髮ノ間ニ、埃軍主力ヲ取り逃カシタ爲メ、更ニ奮闘ヲ續ケネハナラヌコトトナツタ、即チ マンツア (Mantua) 要塞ハ、ウルムゼル (Urmser) ノ遁入ニ依リテ其ノ兵力ハ二萬八千ノ多キニ上ツタノテアル、依テ奈翁ハ目下伊太利平地ニ敵ノ野戰軍カ存在セサルニ乘シ、全力ヲ舉ケテ要塞ノ攻略ニ從事シ九月十五日ニハ其ノ兩分派堡ヲ奪略シテ全ク敵ヲ要塞内ニ壓迫スルニ至ツタ、

當時獨逸方面ノ作戰ニ任セシ ジュルダン (Jourdan)、モロー (Moreau) ノ率ユル佛軍ハ埃軍ノ爲メニ撃破セラレ、ライン (Rhein) 河畔ニ退却スルニ至ツタ、依テ伊太利軍ハ獨力ヲ以テ埃國內ニ進入スルコトノ危険ヲアルノト、惡疫流行シテ病者カ甚タ多

數ニ上ツタ爲メ暫ク攻勢前進ヲ見合ハセ、軍ニ攻圍ヲ繼續スルニ止メタ奈翁ハ其間ヲ利用シテ自カラ一部隊ヲ率ヒテ南部伊太利ノ改革ニ努力シ、十月下旬ニ至ツタ當時ニ於ケル佛軍ノ配置ハ次ノ通りテアル

マッセナ (Massena) 師團(九千五百) トレヴィソ (Treviso) (Bassano 東南四十吉米)ニ

位置シピアーン (Piave) 河 (Trevise 東方)ノ線ヲ監視ス。

オージエロウ (Angerona) 師團(八千)

ベローナ (Verona) ニ在リ、

キルマイン (Kilmaine) 騎兵團(千五百)

ボーボア (Vauvais) 師團(一萬)

ラビス (Lavis) (Garda 湖東北方三十五吉米)ニ在リ、

ニ在リ、

マクアル (Macgarr) 師團(三千)

ビラフランカ (Villafranca) (Verona 西南十五

吉米)ニ在リ、

キルマイン (Kilmaine) 師團(八千)

マンツア (Mantua) ノ攻圍ニ任ス

兵力合計 四萬

奥國ハ伊太利ニ於ケル連戰連敗ニ憤激シ、獨逸方面ニ於ケル勝利ニ乘シ、今度コソ

ハ目ニ物見セント、思ヒ切ツテ大軍ヲ擧ケテ殺到シ一舉ニ雌雄ヲ決セント、大ナル意氣込ミヲ以テ攻勢ヲ取ルニ至ツタ、而シテ新司令官タルアルビンチー (Alvizi) 將軍ハ中々ノ剛ノ者テ特ニ戰場ノ指揮ニ就テハ悔ルヘカラサル技倆ヲ有スル人テアル、

十月末ニ於ケル奥軍ノ位置ハ次ノ通りテアル(左圖參照)

アルビンチー (Alvizi) 直屬軍(二萬九千) リベンツ (Livenz) 河畔ニテホルデノ

ン (Pordenone) 附近ニ集合ノ後、攻勢運動ヲ開始シピアーン (Piave) 河ノ線ニ

達ス

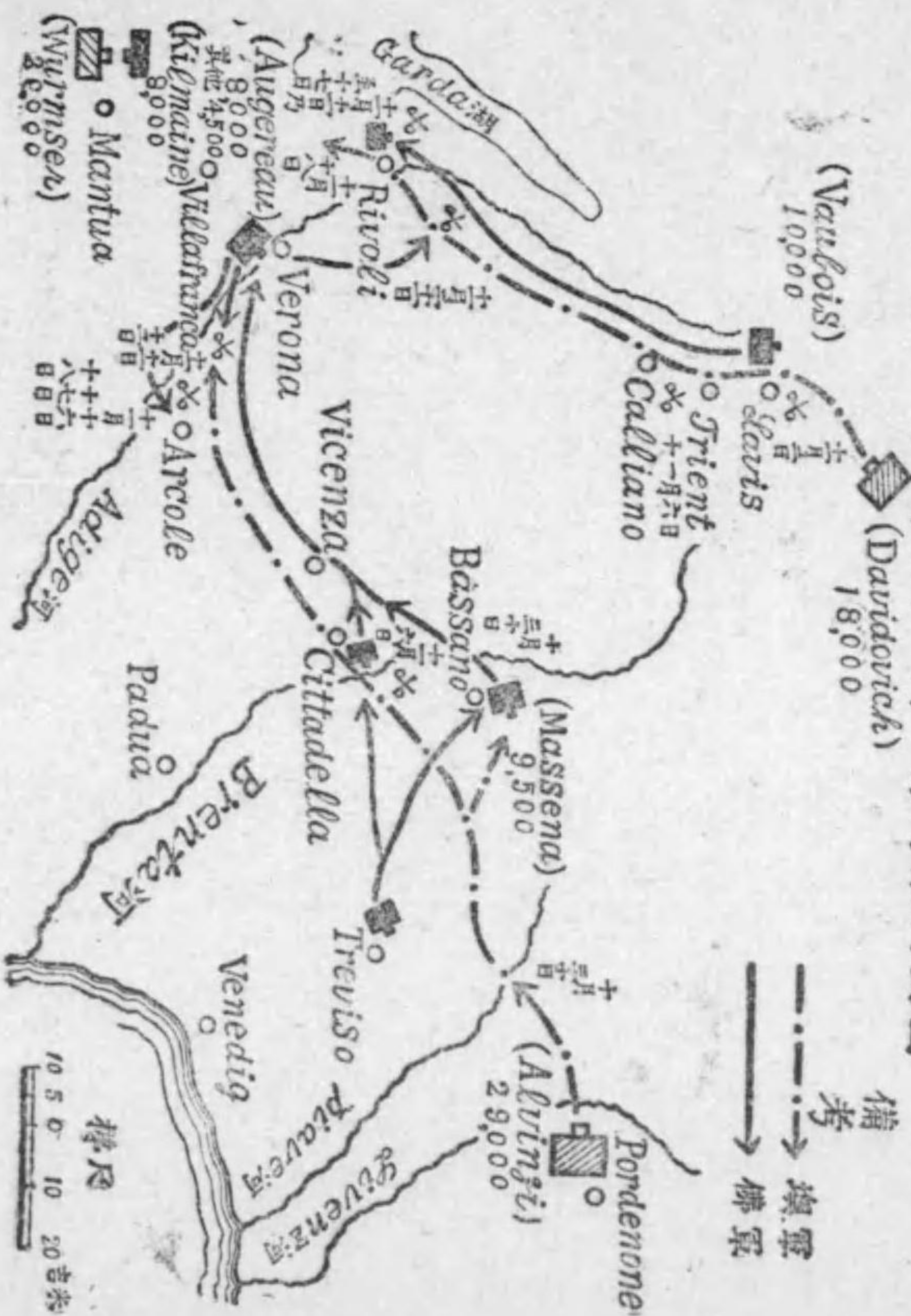
ダビドビツチ (Davidovich) 軍一萬八千 チロール (Tirol) 州内ニ在リ、

マンツア (Mantua) 要塞守備軍(二萬) (此守備軍ハ惡疫ノ爲メ八千ヲ減シ二萬

トナレルナリ) 也

兵力合計六萬七千

自十一月上旬至十一月中旬西軍行動圖



アルピンチ (Alpini) カ攻勢ノ爲メニ取リタル部署ハ大要次ノ如シ、

ダビドビツチ (Davidovich) 軍ヲシテチロール (Tirol) 州ヨリ湖東地區ヲ南下シ  
主力軍ノ作戦ヲ容易ナラシム、

主力ハ自ラ之ヲ率ヒリベンツ (Livenz) 河ヲ越エベローナ (Verona) ヲ目標トシ  
テ前進ス、

奈翁ハ豫メ塙軍ノ攻勢ヲ取ルヘキコトヲ知ルヤ直ニ次ノ如ク之カ對抗策ヲ定メ  
タ

ポーボア (Vaubois) 師團ヲシテ速ニ當面ノ敵タルダビドビツチ (Davidovich) 軍ヲ  
撃退セシメ、後チ其ノ一部ヲ主力方面ニ招致ス、

マツセナ (Massena) 師團 (Treviso) ニ在リ) ヲ漸次パッサノ (Bassano) ニ向ヒ退却シ  
以テアルピンチ (Alpini) 軍ヲ牽制セシム、

此間主力ヲベローナ (Verona) 附近ニ集結シ敵ノ前進ヲ待チテ之ヲ迎撃セント  
ス、

蓋シ當時ハ恰モ雨期テアツテ道路ハ泥濘交通ハ頗ル不便ナル季節テアルカラ逸

千七百九十六年伊太利戰役



ヲ以テ勞ヲ待ツノ策ヲ取ツタノテアル、

ボーボア (Vaubois) ハ所命ノ如ク十一月二日ヲ以テラビス (Lavis) ヲ發シダビドビ  
ツチ (Davidovich) 軍ヲ攻撃シタルモ敵ハ殆ント二倍ノ優勢ヲアツタカラ、却テ反撃  
セラレ再ヒラビス (Lavis) ニ退却シタ、

此日アルビンチー (Alvizi) 軍ハピアーブ (Piave) 河ヲ越エテ前進ヲ續行シタ奈翁ハ  
即チマッセナ (Massena) ヲシテ眞面目ノ戦闘ヲ交ユルコトナク西南方ビセンツァ  
(Vicenza) ニ退却セシメ、且ツベローナ (Verona) 附近ニ集結シアル主力ヲ速ニピセン  
ツァ (Vicenza) ニ集合シ以テアルビンチ (Alvizi) ト決戦ヲ試ミントシタ、然ルニアル  
ビンチ (Alvizi) ハ十一月四日ニ至ルモ尙ホバッサノ (Bassano) 及ヒ其ノ南方チッタ  
イデルラ (Cittadella) ヲ占領シタ儘、動かナシ、又タチロール (Tiro) 州ノ方面テハダビ  
ドビッチ (Davidovich) 軍カ勝ニ乘シテ攻勢ニ轉シ此日(十一月四日)トリエント (Trie  
ステ) ヲ占領シボーボア (Vaubois) ヲ其ノ南方カルリアノ (Calliano) ニ撃退シタ、

於是奈翁ノ企圖ハ豫期ノ如クニ發展シナイ、從ツテ更ニ策ヲ廻ラサナケレハナラ  
ヌ、ソコテ彼ハ臨機決心ヲ變更シ先ツアルビンチー (Alvizi) ノ軍ニ打撃ヲ與ヘ然ル

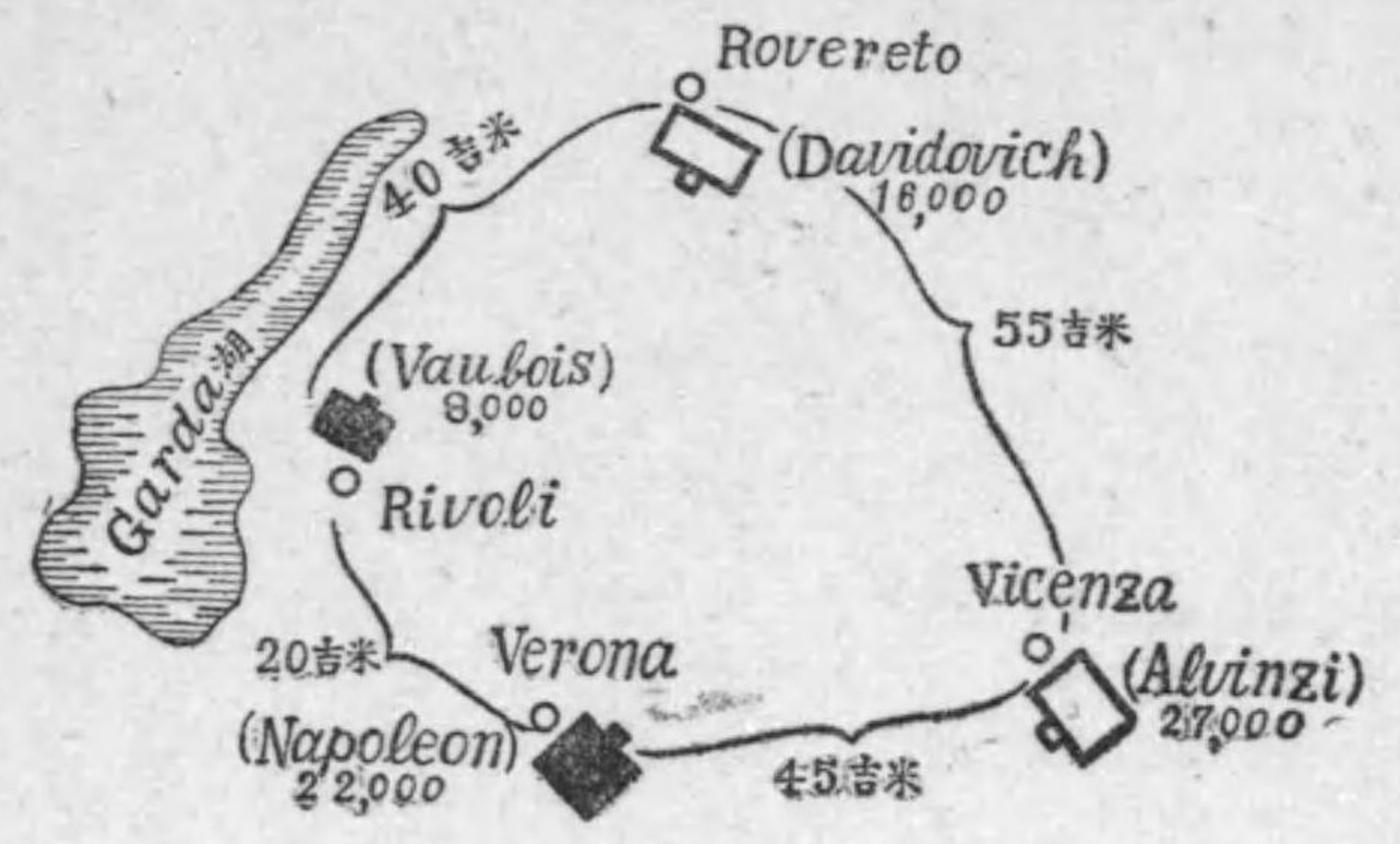
後、ブレンタ (Brenta) 河谷ヲ北進シテダビドビッチ (Davidovich) 軍ノ背後ニ進出セン  
トスルノ大企圖ヲ抱イタノテアル、依テオージエロウ (Angrean) 師團ヲバッサノ (B  
assano) ニ向ヒマッセナ (Massena) 師團ヲチッタイデルラ (Cittadella) ニ向ヒ前進シ、各  
當面ノ敵ヲ攻撃セシメタ、十一月六日兩方面ニ激戦カ起ツタ、其結果埃軍ノ一部ヲ  
撃破スルコトハ出来タガ、大勢ヲ變化セシムルニ至ラナカッタ、要スルニ佛軍ノ攻  
撃ハ奏功ヲ見スシテ終ツタ、於是乎奈翁ノ新企圖ハ復タ挫折セラレタノテアル、今  
回ノ戦闘ハ緒戦ヨリ奈翁ノ豫定計畫通りニ進捗シナイ、從ツテ、日ニ増シ危險ノ程  
度ヲ高メツツアル有様テアル

再度ノ頓挫ニ遭ヒタル奈翁ハベローナ (Verona) ニ主力ヲ集結シ、彼ノ得意ノ戦法タ  
ル、機ヲ見テ敵ヲ各個ニ撃破セントスルノ決心ヲ取ツタ

十月八日ニ於ケル兩軍ノ配置ハ次ノ圖示ノ如クテアル、  
奈翁ハ其後ノ情報ニ依リダビドビッチ (Davidovich) ノ行動ハ極メテ緩漫テアルコ  
トヲ知ツタ、依テ北方ニ對シテハ暫ク危急ヲ告グルコトナカルヘシト判斷シ、此間  
ニ於テアルビンチー (Alvizi) ニ大打撃ヲ與ヘンコトヲ企圖シ、九日十日ノ兩日ペロ

ナ (Verona) ニ準備姿勢ヲ保チテ機ノ至ルヲ待ツテオツタ、

十月八日ニ於ケル兩軍配置圖

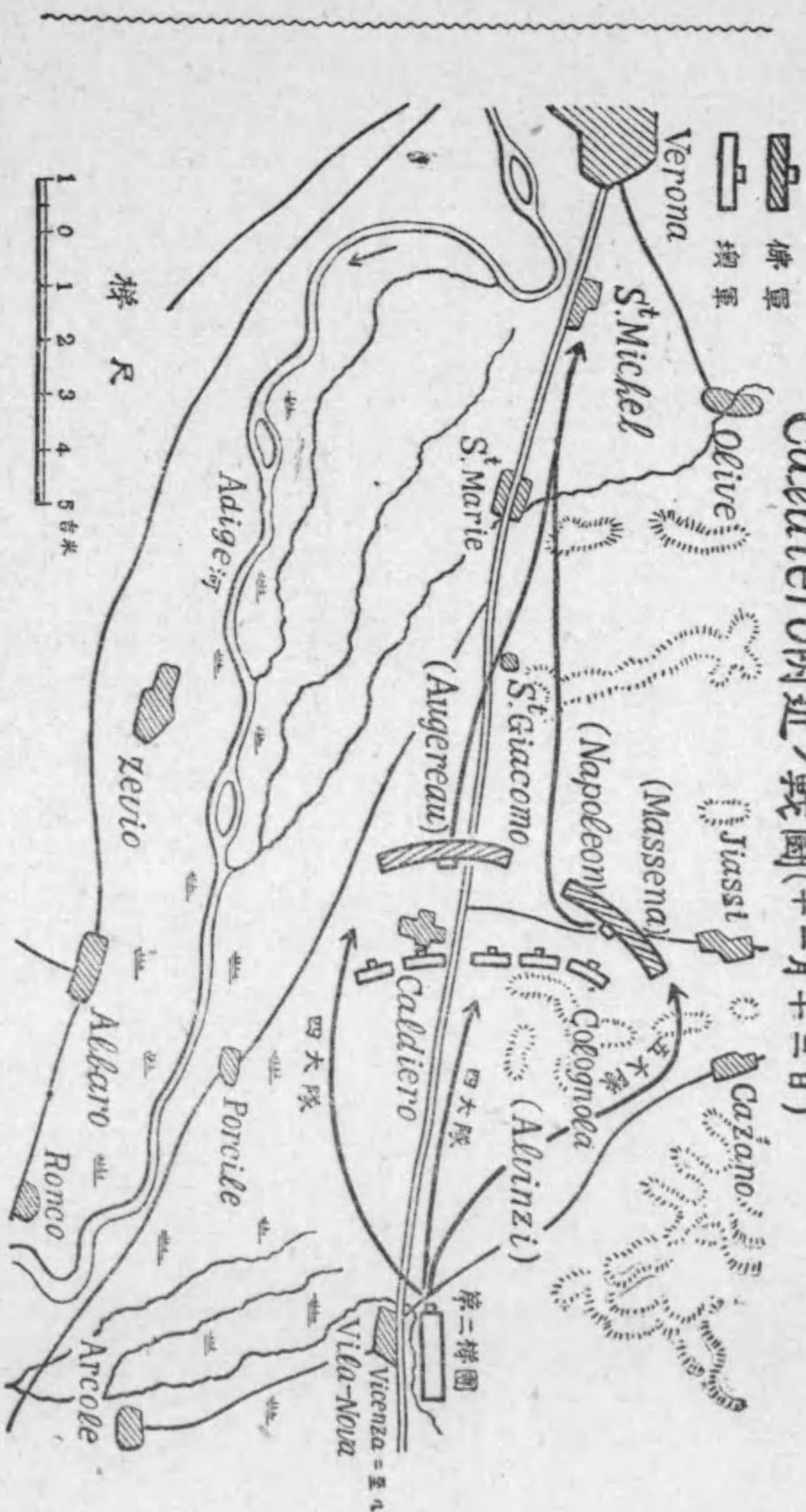


アルピンチー (Alpinzi) ハ佛軍ノ退却ニ尾シテ徐々西進ヲ續ケ、十一日ニハビラノバ (Villa-Nova) (戰鬪圖東端)ニ達シタ、  
 奈翁ハ埃軍ノ近接ヲ知ルヤ直ニ之ヲ攻撃スル爲メ、ベローナ (Verona)ヨリ出撃スルニ決シ、同日(十一日)午後三時ヲ以テ先ツカルディエロ (Caldiero) (Verona東方十五吉米)ニ向ヒ前進ヲ命シタ、乃チオージエロ (Angerean) 師團ノ前衛ハ途中敵ノ斥候的小部隊ヲ驅逐シツツカルディエロ (Caldiero)ニ近接シ、又タマッセナ (Massena) 師團ハ本道北側地區ヲ前進シ、兩軍カルディエロ (Caldiero) 附近ノ線ニ相對シタ、埃軍ノ陣地ハ右翼ヲコログノラ (Colognola) 附近

ノ高地ニ托シ、正面モ亦タ高地ニ沿ヒテ南方カルディエロ (Caldiero)ニ亘ル線ヲ占領シ、左翼ハ沼澤ニ連ナリ攻撃ニハ困難ナル陣地テアル、  
 アルピンチー (Alpinzi) ハ佛軍ノ大舉シテ近ク前進シ來レルヲ望見シ、明日ハ必ス攻撃ヲ受クルナラント判斷シタ、依テ其後續梯團 (Villa-Nova)ニ在リ十數大隊ヨリ成ルニ對シ速ニ前進スヘキヲ命シタ

翌十二日早朝カラカルディエロ (Caldiero) 附近ノ激戰カ生シタ、オーシエロウ (Angerean) 師團ハ本道方面ヨリ敵ノ中央以南ニ向ヒ、マッセナ (Massena) 師團ハ夫レヨリ以北ノ敵ニ向ヒ猛烈ナル攻撃ヲ開始シ、兩師團共、形勢ハ有利ニ進捗シ、各一部ノ敵ヲ擊退シ、若干ノ敵陣ヲ奪取シタ、即チカルディエロ (Caldiero)ハ先ツオーシエロウ (Angerean)ノ抜ク所ト爲リ、マッセナ (Massena)ハ敵ノ右側背ニ迄テ進入シタノテアル、然ルニ埃軍ノ第二梯團ハ恰モ戰場ニ到着シタ、佛軍ノ位置ヨリ之ヲ望メハ長大ナル大軍カ堂々トシテ近ク眼前ニ迫リツツアツタ、佛軍將帥ノ心事ハ如何テアツタロウ、  
 アルピンチー (Alpinzi)ハ一刻千秋ノ思ヲ爲シテ第二梯團ノ來着カ嘸カシ、遅々タルヲ感シタテアロウ、然シ此危急ノ際、機ヲ失セスニ到着シタトキノ喜ヒモ亦タ想察

Caadiero附近ノ戦鬪(十一月十二日)



セラルルノテアル、彼ハ如何ニ之ヲ區署シタカ、其ノ五大隊ハ北方ニ向ヒマッセンナ(Asseua)ノ左側ニ迫ラシメ、四大隊ハ本道以南ノ地域ヨリオーシエロウ(Angereau)ノ右翼ニ向ケラレ、殘餘ノ四大隊ハ中央ニ増加セラレタノデアアル、

今ヤ佛軍ハ將ニ成功セントシテ敵軍ノ増加ニ遭ヒ、一頓挫ヲ來タシタノミナラス天候モ亦タ佛軍ニ禍シタ、朝來ノ降雨ハ寒天ノ爲メ大雪ト爲リ而カモ北東ノ風ハ遠慮ナク、佛軍ノ面ヲ打チ殆ント前方ヲ視ルニ堪エス、敵ハ衆ヲ頼ンテ益々逼迫シタ、佛軍ハ暫時苦戰惡鬪、僅ニ現狀ヲ保ツテ居ツタカ、マッセンナ(Massena)ノ左翼ハ先ツ撃退セララルルニ至ツタ、奈翁ハ親ラ戰鬪ノ渦中ニ跳ヒ入り、勵聲以テ戰勢ノ恢復ニ努力シタカ、大河ノ決スル所、到底人力ノ能ク支フヘキニアラス、佛軍ハ次第次第ニ不利ニ傾キ、今ヤ如何ントモスルコトカ出來ナクナツタ、依テ奈翁ハ最後ノ豫備隊タル半旅團ヲ以テ第一線ノ收容ニ任セシメ、大敵ヲ防止シテ日没ニ及ヒ夜ニ入ツテカラ、隊伍ヲ亂タサスシテペローナ(Verona)ニ退却シタ、

此日、ボーボア(Vaubois)モ亦タ敵ノ銳鋒ヲ避ケテ退却シリ、ボリ(Rivoli)ノ陣地ヲ占領シタ、奈翁ハ三度失敗ヲ重ネタ、殊ニ今回ノ敗戰ハ容易ナラサル打撃テアル、其ノ運命モ

日、一日ト縮マル如キ思ヒカスルノテアル、今愚圖々々シテ居ツタナラハ愈々狹擊ヲ受ケ自滅セナケレハナラヌコトナルテアロ、然ラハ思ヒ切ツテ退却スヘキカ、否ナ彼レ奈翁ハ此苦境ニ於テ益々其ノ得色ヲ發揮スルノテアル、奈翁ハ十二日夜、ベローナ(Verona)ニ着スルヤ、一考シタ後チ、敵ノ背後ヲ急襲スルノ決心ヲ取ツタ、乃チマンツァ(Mantua)要塞ノ攻圍ニ任シアル兵團中ヨリ、三千ノ兵ヲ抜キテ即時ベローナ(Verona)ニ招致シ之ヲ同地ノ守備ニ任シ、又タボーボア(Vanbois)師團ヨリモ一隊ヲ割キテ主力ニ合セシメ以テ是等ノ全力(Massena, Angereau)師團騎兵團及ヒ(Vanbois)師團ノ一部ヲ提ケ十四日夜、陰カニ行動ヲ開始シ、先ツ進路ヲ西方ニ取ツタ、諸將卒ハ退却スルモノト思ヒ憤慨スルモノ、涕泣スルモノモアツタ、然ルニ間モナク方向カ南ニ轉シ次テ東方ニ變ハツタ、而シテアディージュ(Aldige)河畔ノロンコ(Ronco)ニ達スルヤ停止ノ命令カ下サレタ、ソコテ諸將卒始メテ其ノ攻勢運動中ニ在ルヲ知ツテ曩ノ憂憤ハ忽チ勇躍歡喜ト變シタ、佛軍ハロンコ(Ronco)ニ着シタカ附近ノアディージュ(Aldige)河右岸一帯ニハ埃軍ノ一兵ヲモ認メナイ、即チ速ニ架橋ヲ完成シ翌十五日拂曉ヲ以テ左岸地區ニ渡ルコトトナツタ、

埃軍ニ於テハカルディエロ(Caldiero)ノ戰勝後ダビトビチ(Davidovich)ト連繫スル爲メカ翌十三日ト翌々十四日ノ兩日同地附近ニ停止シタ、而シテ十五日夜ニ乘シ其十二大隊ノ兵力ヲ以テベローナ(Verona)ヲ奇襲シ、佛軍若シ南方ニ退却シタナラハ更ニ十二大隊ノ兵力ヲ以テアディージュ(Aldige)右岸ツネオ(Nevio) (Verona 東南十五吉米)附近ニ突進スルノ策ヲ定メタ、

十五日拂曉オーシジロウ(Angereau)將軍ハ部下ノ先登ニ立チテアディージュ(Aldige)河ヲ渡リアルボン(Alpone)河ノ右岸ニ沿ヘル堤道ヲ通過シテアルコール(Arcole)ノ村落ニ向ツタ、然ルニアルコール(Arcole)ニハ埃軍ノ一小部隊カ豫メ守備シテオル外、約一旅團ノ増援兵カ到着シツツアツタ、佛軍ハ之ニ對シテ突進ヲ企テタカ單ニ唯一ノ堤道ト、一橋梁トニ依ルノ外、前進スルヲ得サル地形テアルカラ、埃軍ノ猛烈ナル銃砲火ハ能クオーシジロウ(Angereau)師團ノ勇敢ナル攻撃ヲ拒止シ得タノテアル、故ニオーシジロウ(Angereau)將軍カ自カラ橋頭ニ向テ卒先部下ヲ激勵シタカ、徒ラニ損害ヲ増加スルノミニ過キナカツタ、先是奈翁ハ地形上正面ノミヨリ攻撃ヲ遂行スルコトハ至難テアルト考ヘ、一部隊ヲアルコール(Arcole)ノ下流アルバンド(Alb-